

地方道改築事業 一般県道手取川自転車道線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

白山市  
古宮遺跡

2022

石川県教育委員会  
(公財)石川県埋蔵文化財センター

ふる みや 遺 跡

# 古宮遺跡

2022

石川県教育委員会  
(公財)石川県埋蔵文化財センター



## 例　　言

- 1 本書は古宮遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は石川県白山市白山町地内である。
- 3 調査原因是地方道改築事業一般県道手取川自転車道線の建設であり、同事業を所管する石川県土木部道路建設課(石川土木総合事務所)が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は公益財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成30(2018)年度および令和元(2019)～令和3(2021)年度に実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書作成、報告書刊行である。
- 5 調査に係る費用は、石川県土木部道路建設課(石川土木総合事務所)が負担した。
- 6 現地調査は平成30(2018)年度に実施した。期間・面積・担当(当時)は次のとおりである。

期　間 平成30年6月27日～同年11月13日

面　積 1,350m<sup>2</sup>(平面積530m<sup>2</sup>)

担　当 調査部特定事業調査グループ 安中哲徳(専門員)、横山純子(嘱託調査員)

- 7 出土品整理は令和元年度および令和2(2020)年度に実施し、調査部特定事業調査グループおよび県関係調査グループが担当した。

- 8 自然科学的分析は令和3年度に(株)パレオ・ラボに委託して実施し、第4章に掲載した。

- 9 報告書の作成及び刊行は令和2年度および令和3年度に実施し、調査部県関係調査グループが担当した。執筆分担は次のとおりである。編集は安中が担当した。

第1章・第3～第5章第1節 安中哲徳(調査部県関係調査グループ主幹)

第2章 垣内光次郎(調査部参事)

第4章 (株)パレオ・ラボ(第1節：小林克也、第2節：藤根 久、第3節：森 将志)

第5章第2節 伊藤克江(白山比咩神社芸員)

- 10 調査には下記の機関、個人の協力を得た(敬称略)。

白山市觀光文化スポーツ部文化財保護課、手取川七ヶ用水土地改良区(白山管理センター)、白山市三宮町、白山市白山町、白山市八幡町、白山市立一ノ宮公民館、福井県勝山市教育委員会、白山比咩神社、金鏡宮、赤澤徳明、浅野良治、阿部 来、石川インペラ工業(株)、(有)建部設備、(株)小山組、多田建築設計室、伊藤克江、川畑謙二、小阪 大、小鶴芳孝、下濱 聰、相山林継、田村昌宏、西山郷史、三浦純夫、向井裕知、村上昂之、横幕 真

- 11 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。

- 12 本書についての凡例は下記のとおりである。

(1) 遺構図等の方位は座標北であり、座標は平成14年度国土交通省告示の平面直角座標VII系に準拠した。

(2) 水平基準は海拔高であり、T.P.(東京湾平均海面標高)による。

(3) 遺構の名称は、下の略記号に算用数字を付けて表記した。

S B : 掘立柱建物、S K : 土坑、S L : 石列・石段、S E : 井戸、S D : 溝、P : 柱穴・小穴、S X : その他(不定形・不明確遺構等)

(4) 遺物の報告番号は、挿図、出土遺物観察表、遺物図版で共通番号を用いた。

(5) 遺物図においては、須恵器は断面黒塗り、その他は白抜きとした。図中の主な網掛け表現は以下のとおりである。ほかに、油煙痕や黒色処理等も網掛けにより示した。



赤彩



被熱



石器使用痕

## 目 次

第1章 経緯と経過 .....	1
第1節 調査の経緯 .....	1
第2節 発掘作業の経過 .....	2
第3節 整理作業の経過 .....	3
第2章 位置と環境 .....	4
第1節 位置と地理的環境 .....	4
第2節 白山本宮の歴史と史跡 .....	5
第3章 調査の成果 .....	9
第1節 調査の方法 .....	9
第2節 遺構 .....	9
第3節 遺物 .....	50
第4章 自然科学的分析 .....	88
第1節 木製品の樹種同定 .....	88
第2節 石製品の石質同定 .....	89
第3節 花粉分析 .....	93
第5章 総括 .....	97
第1節 遺跡の変遷と出土したカワラケについて .....	97
第2節 白山本宮の造営について .....	98
報告書抄録	
遺構写真図版	
遺物写真図版	

## 挿 図 目 次

第1図	手取川扇状地を中心とする中世の主要遺跡分布図(S=1/30万) ······	6
第2図	遺跡の位置と周辺の遺跡分布 (S=1/25000) ······	7
第3図	白山の禅定道と山頂遺跡(S=1/200,000) ······	8
第4図	調査区位置図 ······	9
第5図	調査区全体図・グリッド割図(S=1/500) ······	11
第6図	A区 I・II面平面図(S=1/300) ······	12
第7図	B区 I~III面・C区0~III面平面図 (S=1/300) ······	13
第8図	B区III-2~V面平面図(S=1/300) ······	14
第9図	C区0~III面平面図(S=1/300) ······	15
第10図	A区 I面(A1・A2)平面図(略図) ······ 断面図実測箇所図1(S=1/100) ······	16
第11図	A区 I面(A3・A4)平面図(略図) ······ 断面図実測箇所2(S=1/100) ······	17
第12図	A区 II面(A1~A3)平面図 ······ 断面図実測箇所図1(S=1/100) ······	18
第13図	A区 II面(A3・A4)、B区 III面(B5)平面図 ······ 断面図実測箇所図2(S=1/100) ······	19
第14図	A区 II面(A2~A4)平面図・土層断面図 (S=1/60) ······	20
第15図	B区 I面(B5~B7)平面図 ······ 断面図実測箇所図1(S=1/100) ······	21
第16図	B区 I面(B7~B9)、C区0面(C9)平面図 ······ 断面図実測箇所図2(S=1/100) ······	22
第17図	B区 I面(B5・B6)平面図・土層断面図1 (S=1/60) ······	23
第18図	B区 I面(B6・B7・B9)平面図 ······ 土層断面図2(S=1/60) ······	24
第19図	B区 II面(B5~B7)平面図 ······ 断面図実測箇所図1(S=1/100) ······	25
第20図	B区 II面(B7~B9)、C区 I面(C9)平面図 ······ 断面図実測箇所図2(S=1/100) ······	26
第21図	B区 II面(B7・B8)平面図・土層断面図1 (S=1/60) ······	27
第22図	B区 II・III面(B8)礎石29・33・根石06 エレベーション図(S=1/40) ······	27
第23図	B区 II面(B7・B8)根石04~06・礎石35 エレベーション図(S=1/40) ······	28
第24図	B区 II面(B7・B8)平面図・土層断面図2 (S=1/60) ······	28
第25図	B区 II面(B8)平面図・土層断面図3 (S=1/60) ······	29
第26図	B区 II面(B9)平面図・土層断面図4・C区 I面(C9)平面図・土層断面図1(S=1/60) ······	30
第27図	B区 III面(B5~B7)平面図 ······ 断面図実測箇所図1(S=1/100) ······	31
第28図	B区 III面(B7~B9)、C区 II面(C9)平面図 ······ 断面図実測箇所図2(S=1/100) ······	32
第29図	B区 III面(B6)北石列エレベーション図 (S=1/40) ······	33
第30図	B区 III面(B6・B7)平面図・ 土層断面図1(S=1/60) ······	33
第31図	B区 III面(B7・B8)平面図 ······ 土層断面図2(S=1/60) ······	34
第32図	B区 III・IV面(B7・B8)礎石18~21 エレベーション図(S=1/40) ······	34
第33図	B区 III・IV面(B7・B8)礎石22~24・35 エレベーション図(S=1/40) ······	35
第34図	B区 II・III面(B8)SB01a(礎石1~3・P109) エレベーション図(S=1/40) ······	36
第35図	B区 IV面(B8)SB01b(礎石1~3・P109・礎石 25~28)エレベーション図(S=1/40) ······	37
第36図	B区 III-2面・IV面(B7・B8)平面図 ······ 断面図実測箇所図(S=1/100) ······	38
第37図	B区 IV面(B6~B9)平面図 ······ 断面図実測箇所図(S=1/100) ······	39
第38図	B区 IV・V面(B5~B7)平面図 ······ 断面図実測箇所図1(S=1/100) ······	40
第39図	B区 IV・V面(B7~B9)、C区 III面(C9) 平面図・断面図実測箇所図2(S=1/100) ······	41
第40図	B区 IV面(B6・B7)SX72 エレベーション図(S=1/40) ······	42
第41図	B区 V面(B7)平面図・土層断面図1 (S=1/30・1/60) ······	42
第42図	B区 IV面(B7)平面図・土層断面図2 (S=1/60) ······	43
第43図	B区 IV面(B9)平面図・土層断面図3 (S=1/60) ······	44
第44図	C区 I面(C9~C11)、0面(C10・C11) 平面図・断面図実測箇所図(S=1/100) ······	45
第45図	C区 II面(C9~C11)平面図 ······ 断面図実測箇所図(S=1/100) ······	46
第46図	C区 III面(C9・C10)平面図 ······ 断面図実測箇所図(S=1/100) ······	47
第47図	C区 II面(C9・C10)平面図・土層断面図1 (S=1/60) ······	48
第48図	C区 II面(C10・C11)平面図・III面(C10) 土層断面図2(S=1/60) ······	49
第49図	A区出土土器実測図1(S=1/3・1/6) ······	51
第50図	A区出土土器実測図2(S=1/3) ······	52
第51図	A区出土土器実測図3(S=1/3) ······	53
第52図	A区出土土器・石製品・金属製品 実測図(S=1/1・1/3) ······	54
第53図	B区出土土器実測図1(S=1/3) ······	55
第54図	B区出土土器実測図2(S=1/3) ······	56
第55図	B区出土土器実測図3(S=1/1・1/3) ······	57
第56図	B区出土土器実測図4(S=1/3) ······	58
第57図	B区出土土器実測図5・木製品・ 石器・石製品実測図1(S=1/3・1/6) ······	59
第58図	B区出土土器・石製品 実測図2(S=1/3・1/6) ······	60
第59図	B区出土土器・石製品実測図3・金属製品 ・銅錢実測図(S=1/1・1/6・1/8) ······	61

第60図	C区出土土器実測図1(S=1/3).....	62	第72図	古宮遺跡における花粉分布図.....	95
第61図	C区出土土器実測図2(S=1/3).....	63	第73図	産出した花粉化石.....	96
第62図	C区出土土器実測図3(S=1/3).....	64	『白山之記(白山縁起)』嘉祥元年(848)		
第63図	C区出土土器実測図4(S=1/3).....	65	白山本宮の造立(白山比咩神社所蔵).....	105	
第64図	C区出土土器実測図5(S=1/3).....	66	『白山宮莊嚴講中記録』延応元年(1239)8月		
第65図	C区出土土器実測図6(S=1/3).....	67	白山本宮の焼失記事(白山比咩神社所蔵).....	105	
第66図	C区出土土器実測図7(S=1/3).....	68	『白山宮莊嚴講中記録』文明12年(1480)10月		
第67図	C区出土土器実測図8(S=1/3).....	69	白山本宮の焼失記事(白山比咩神社所蔵).....	105	
第68図	C区出土石器・石製品実測図(S=1/6).....	70	『正親町天皇綸旨』天文12年(1584)		
第69図	古宮遺跡木製品の光学顕微鏡写真.....	88	(白山比咩神社所蔵).....	105	
第70図	古宮遺跡と周辺の地質図.....	91	明和7年(1770)4月造立の「白山比咩神社」本殿 ..	105	
第71図	岩石表面の拡大写真(マーカー幅:2mm).....	92			

## 表 目 次

第1表	調査・整理体制 .....	3	第16表	出土土器観察表15.....	85
第2表	出土土器観察表1 .....	71	第17表	出土土器観察表16.....	86
第3表	出土土器観察表2 .....	72	第18表	石器・石製品観察表 .....	87
第4表	出土土器観察表3 .....	73	第19表	木製品観察表 .....	87
第5表	出土土器観察表4 .....	74	第20表	金属製品観察表 .....	87
第6表	出土土器観察表5 .....	75	第21表	銅錢観察表 .....	87
第7表	出土土器観察表6 .....	76	第22表	古宮遺跡出土木製品の樹種同定 結果一覧 .....	88
第8表	出土土器観察表7 .....	77	第23表	石製品とその詳細 .....	89
第9表	出土土器観察表8 .....	78	第24表	石材の特徴と同定結果 .....	90
第10表	出土土器観察表9 .....	79	第25表	年代測定試料名及び処理方法 .....	90
第11表	出土土器観察表10 .....	80	第26表	分析試料一覧 .....	93
第12表	出土土器観察表11 .....	81	第27表	産出花粉孢子一覧表 .....	94
第13表	出土土器観察表12 .....	82	第28表	造営・遷宮史料(中世) .....	104
第14表	出土土器観察表13 .....	83			
第15表	出土土器観察表14 .....	84			

## 図 版 目 次

図版1	遺跡の位置	図版21	B区出土遺物3
図版2	各調査区の全景	図版22	B区出土遺物4
図版3	A区遺構1	図版23	B区出土遺物5
図版4	A区遺構2・B区遺構1	図版24	B区出土遺物6
図版5	B区遺構2	図版25	B区出土遺物7
図版6	B区遺構3	図版26	B区出土遺物8
図版7	B区遺構4	図版27	B区出土遺物9・C区出土遺物1
図版8	B区遺構5	図版28	C区出土遺物2
図版9	B区遺構6	図版29	C区出土遺物3
図版10	B区遺構7	図版30	C区出土遺物4
図版11	C区遺構1	図版31	C区出土遺物5
図版12	C区遺構2	図版32	C区出土遺物6
図版13	C区遺構3	図版33	C区出土遺物7
図版14	C区遺構4	図版34	C区出土遺物8
図版15	A区出土遺物1	図版35	C区出土遺物9
図版16	A区出土遺物2	図版36	C区出土遺物10
図版17	A区出土遺物3	図版37	C区出土遺物11
図版18	A区出土遺物4	図版38	C区出土遺物12
図版19	A区出土遺物5・B区出土遺物1	図版39	C区出土遺物13
図版20	B区出土遺物2	図版40	C区出土遺物14

# 第1章 経緯と経過

## 第1節 調査の経緯

古宮遺跡の発掘調査は、石川県土木部道路建設課(石川土木総合事務所)(以下「県土木」)が所管する地方道改築事業一般県道手取川自転車道線(通称、手取キャニオンロード)の建設工事に係るものである。本道路は、1級河川の手取川河口部を起点とし、堤防上の河川管理用道路を共用しながら上流へと進み、山間部は白山市白山町の手取川七ヶ用水給水口付近の古宮公園横からは平成21年に廃線となった北陸鉄道石川線および昭和62年に廃止となった北陸鉄道金名線の鉄道敷跡を利用して手取川ダム付近に至る全長43.3kmの自転車歩行者専用道路である。平成8年に路線認定・工事が着工され、平成18年にI期区間(白山市白山町～瀬戸)19.6kmが完成した。

今回調査を実施した鶴来地区(古宮公園～北陸電力白山発電所)区間の工事については、平成26年度に事業化されたものである。石川県教育委員会事務局文化財課(以下「県文化財課」)では国、県等の開発部局に対し、次年度以降の土木工事等予定を照会・事業ヒアリングし、埋蔵文化財の保護措置を決定する「埋蔵文化財調査等に関する協議会」を毎年実施している。同協議会は、文化財保護法第94条に基づく埋蔵文化財の保護措置を遺漏なく行うとともに、工事中の不時発見等による法第97条に基づく緊急調査等の保護措置を避け、円滑な埋蔵文化財保護と開発事業の計画的な実施を調整することを目的としている。平成29年度に県文化財課が実施した次年度の事業照会に対し、県土木から同事業の鶴来地区における工事について回答があった。同工事では今回の事業地内に周知の埋蔵文化財包蔵地である古宮遺跡のほか、未確認の包蔵地が含まれることが予想されることから、県文化財課は県土木に対し、事業地の一部に周知の埋蔵文化財包蔵地が含まれていること、また周知外についても新たに包蔵地が確認される可能性があることを伝え、準備が整い次第分布調査が必要である旨を通知した。また、同事業については上流部側に位置する周知の埋蔵文化財包蔵地である白山町遺跡の一部と隣接地において県文化財課により平成28年4月に試掘調査が行われ、事業地内には遺跡の分布が広がらないと判断し、計画通り工事を実施して支障なしと回答している。

平成29年9月に県土木から埋蔵文化財分布調査の依頼が石川県教育長あてにあり、同年11月に県文化財課が試掘調査を実施し、旧加賀一の宮駅と古宮公園周辺に分布する周知の埋蔵文化財包蔵地「古宮遺跡」範囲内(第2図)において、鉄道敷跡にあたる計画部分延長約90mに遺構・遺物を確認、事業範囲内における埋蔵文化財の範囲を確定した。分布調査の結果は同年11月に県文化財課長から県土木あて回答され、事業範囲内で埋蔵文化財が確認されたこと、事業の実施にあたっては文化財保護法第94条に基づく発掘調査等の保護措置が必要である旨回答した。平成30年3月に県土木から「土木工事等のための発掘通知」が提出され、現状で埋蔵文化財包蔵地を迂回するルートに変更することは困難であり、工事の実施も急がれることから、平成30年度に道路敷および付帯工事等で埋蔵文化財が損壊する範囲で記録保存調査を実施することで県土木と調整が進められた。同年3月県教育長から県センター理事長あて「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」が通知された。

発掘調査は、平成30年3月に県土木からの依頼を受けた県教育委員会(以下「県教委」)の委託事業として、公益財團法人石川県埋蔵文化財センター(以下「県埋文センター」)が実施した。現地調査は平成30年度、出土品整理は令和元年度および令和2年度、報告書作成業は令和2年度および令和3年度、報告書編集・刊行事業は令和3年度に実施(作業内容は第1章第3節に記載)した。

## 第2節 発掘作業の経過

### 1. 現地作業の経過

発掘調査の実施については、県教委と県埋文センターとの間で平成30年4月1日付けで発掘調査等業務委託契約を締結、それを受け文化財保護法第92条1項の規定に基づく発掘調査届(同年5月8日付け財理第78号)を県教育委員会あて届出、県教育長から「発掘調査届に対する通知について」(同年5月8日付教文第445号)を受けた。当初依頼面積は500m<sup>2</sup>(遺構面1面)である。

調査範囲は、旧加賀一の宮駅と古宮公園周辺に分布する周知の埋蔵文化財包蔵地「古宮遺跡」範囲内において、鉄道敷跡にあたる延長約110m(調査着手時は延長約90m)、幅約5mの細長い調査区で、への字状にややカーブしている(第4・5図)。調査に先立ち、同年4月に県文化財課と県埋文センターで現地下見を行い、作業ヤードが限定されること、上流部側の道路工事との調整が必要となるなど、調査着手前までに県土木も含め調整が必要な課題を把握した。同年5月県土木、県文化財課、県埋文センターの3者で現地打ち合わせを行い、前回把握した課題等について協議した。

同年6月中旬より、現地作業の準備に着手し、地元挨拶・調査案内後、仮設建物等建上準備および借上機材搬入を行ったが、南側隣接地での道路・橋工事との調整や作業ヤードが狭く限定されることなどから、建物等設置や駐車場の確保、機材搬入など準備完了まで通常より時間を要した。現地調査では表土・排水置き場が限られることから、A・B・C地区の3地区に分けて調査を行うこととし、6月後半に北側のA地区から着手し、7月上旬から作業員を入れて発掘機材搬入後、A区の壁面精査、遺構検出作業を実施した。鉄道建設時の擾乱が遺構面に及んでおり、遺構の遺存状況は良くなかったが、擾乱の穴を精査すると、遺構面が複数面(3面以上)に及ぶことが判明した。7月中旬に県文化財課に報告し、その後も3面以下の状況確認を続け、7月下旬に概要が判明した。また、遺構面の増加に伴う作業の進捗を図るために、さらに広範囲に作業員募集の案内を行った。調査面積および調査期間、調査費の増加が見込まれることから、8月上旬に県文化財課が県土木に状況を報告し、調査計画変更の協議を打診した。変更工程表の提出を求められたため、県センターにて遺構面最大3面の場合、11月上旬調査終了見込みの変更計画表を作成し、県庁にて状況説明と今後の取り扱いについての協議を行った。その結果、これまで県土木は県議会に対し、秋に道路を供用することを2度説明しているため、提示工程案では難しいこと、a. 部分引き渡し後に段階的に工事、b. 一旦調査を中断し盛土のうえ、施工・供用し、11月末の冬季閉鎖後、盛土を撤去し、調査を再開。c. 並行する古宮公園内の管理道理を暫定道路として仮供用などの案が出されたが、解決はつかず、県土木が持ち帰り検討することになった。また、現地で重要な遺構が発見された場合、道路工事は盛土による施工であることから、掘削は遺構面に及ばず現地で保存できることも確認された。その後、県土木から県文化財課に連絡があり、南側から引き続き工事を継続するため、C区を先行して引き渡すこと、調査概要の説明資料を提出するよう依頼があり、県センターでは改めて調査工程表を作成し、A・C区の調査を並行して実施し、C区を9月中旬に先行して引き渡し、その後B区の調査を再開し、11月上旬に全体を撤収する工程を提示した。県教育長から県センター理事長あての委託業務の計画変更協議書(同年8月10日付け教文第1763号)が提出され、調査範囲と遺構面の増加により、調査面積が500m<sup>2</sup>から1,250m<sup>2</sup>へと増加した。県センター理事長から県教育長あてに現地作業の部分完了報告書を提出(同年10月2日付け財理第248号)し、C区200m<sup>2</sup>を先行して県土木に引き渡した。また、さらに遺構面の増加が確認されたことから、再度県教育長から県センター理事長あての委託業務の計画変更協議書(同年10月18日付け教文第2576号)が提出され、調査面積が1,250m<sup>2</sup>から1,350m<sup>2</sup>へと増加した。

10月下旬に現地説明会として発掘調査の内容説明と出土品を一般に公開するため、10月19日に県文教記者室に調査概要の資料提供を行い、当日夕刊および翌20日の地元新聞誌にて、加賀国一宮である白山比咩神社の前身となる「白山宮」の変遷を示す平安時代後半～室町時代後半の遺構と遺構面が4層で確認されたと、大きく報道され、10月27日に現地説明会が開催されることも紹介された。10月27日午前・午後2回、現地説明会を開催し、天気は雨模様であったが、合計約110人が参加し、翌28日の地元新聞誌でも当日の状況が紹介された。その後調査を進め、最終的にB区では最大5面の遺構面を確認し、11月上旬までに4面までの掘削作業および5面以下の確認作業を終了、礎石建物の礎石や石列、石敷き遺構、大型土坑など重要な遺構を透水性のある農業用ポリシートと砂砾にて保護し、埋め戻した。11月9日に調査区を県土木に引き渡し、11月中旬に発掘機材や借上機材、仮設建物等撤収作業も含め、現地での作業を完了した。

平成30年11月13日付け財理第297号で教育長あてに発掘調査現地作業の完了報告を提出、調査完了面積は1,350m<sup>2</sup>(平面積530m<sup>2</sup>)であり、当初から850m<sup>2</sup>増加した。現地調査で出土した遺物については、遺失物法第4条の規定に基づき、同年11月13日付け財理298号で白山警察署長に埋蔵物発見届を提出、同年11月26日付け教文第2690号で古宮跡出土品が文化財として認定された旨、白山警察署長および県埋文センターに通知がなされた。

また、出土遺物の洗浄作業は、県埋文センターにて平成31年2～3月に実施した。

なお、同事業に伴う鶴来地区の自転車道は、工事完了後の同年3月に供用が開始されている。

### 第3節 整理作業の経過

#### 1. 出土品整理

県土木から依頼を受けた県教委の委託事業として、県埋文センターが令和元年度および令和2年度に実施した。作業内容は出土遺物の記名・分類・接合・復元、遺物の実測及びトレース、遺構図トレースである。令和元年度は国関係調査グループが、令和2年度は県関係調査グループが担当した。

自然科学的分析は、令和3年度に株式会社パレオ・ラボに委託して実施した。

#### 2. 報告書作成・刊行

県土木から依頼を受けた県教委の委託事業として、県埋文センターが実施した。報告書作成は令和2年度および令和3年度、編集・刊行は令和3年度であり、県関係調査グループが担当した。

第1表 調査・整理体制

調査年度 平成30年度 (2018)		整理年度 令和元年度 (2019)		整理年度 令和2年度 (2020)		整理・刊行 令和3年度 (2021)	
調査主体	(公財)石川県埋蔵文化財センター	整理主体	(公財)石川県埋蔵文化財センター	整理主体	(公財)石川県埋蔵文化財センター	整理・刊行	(公財)石川県埋蔵文化財センター
理事長	田中 新太郎	理事長	田中 新太郎	理事長	田中 新太郎	理事長	田中 新太郎
監 督	細野 誠一 (専務理事)	監 督	細野 誠一 (専務理事)	監 督	細野 誠一 (専務理事)	監 督	細野 誠一 (専務理事)
事 務	柴崎 和雄 (事務局長)	事 務	柴崎 和雄 (事務局長)	事 務	北谷 俊厚 (事務局長)	事 務	北谷 俊厚 (事務局長)
監 督	山口 仁 (監督GL)	監 督	伊藤 直 (監督GL)	監 督	伊藤 直 (監督GL)	監 督	伊藤 直 (監督GL)
調 査	内山 邦雄 (内山部長) 加藤 光一 (加藤部長) 土屋 亮雄 (特定事業担当GL)	監 理	伊藤 健太 (監修部長) 澤田 利明 (特定事業担当GL)	監 理	川端 城 (監修部長) 入沢 伸弘 (監修延長者GL)	監 当	川端 城 (内山部長) 木村 昭司 (監修延長者)
担 当	特定事業担当G	担 当	特定事業担当G	担 当	監修延長者G	担 当	監修延長者G

G: グループ。GL: グループリーダー

## 第2章 位置と環境

### 第1節 位置と地理的環境

両白山地の北部に位置する白山(2,702m)は、富士山・立山と並ぶ靈山で、山稜から流下した手取川は、山麓の小河川を合流しながら加賀の丘陵地を北流する。中流域では、手取川渓谷や河岸段丘を刻み、下流においては広大な手取川扇状地を形成した。古宮遺跡はこの手取川が丘陵地の谷間を抜け、流路が西方へと曲がり始める谷頭に位置する古代から中世の神社跡である。地籍は白山市白山町地内で、標高109mの段丘は火山疊凝灰岩の岩盤で、15mほどの崖下を手取川が北流している。遺跡名の古宮は、段丘上に造る白山比咩神社の旧社地に対する呼称で、明治初期に描かれた「安久瀧之森」の絵図(図版14)には、東西35間、南北41間と計測され、社地は白山市の古宮公園として管理されている。

白山神社の總本社である白山比咩神社は、古宮遺跡の南東200mの三宮町に鎮座する。これは戦国時代の文明12年(1480)の火災により、当地に置かれた神殿を失い三宮の社殿へ動座したことによる。文明12年まで、白山比咩神社は「古宮」と呼ばれる旧社地に鎮座していた。社地の西側は手取川の断崖で、河畔の景勝は安久瀧ヶ淵と呼ばれている。また南方に広がる白山町の集落は、標高110mほどの河岸段丘に設営された白山比咩神社の氏子集落で、神社に関係した歴史と文化財が残されている。このため本遺跡の地理的な環境は、白山町の四方にみられる地勢を俯瞰することになる。

白山町の東側には、標高140m前後の河岸段丘が広がり、三宮町の集落や農耕地、白山比咩神社や石川県林業試験所が位置する。背後は急峻な丘陵となり、東方1.3kmで標高600mを越える獅子吼高原の稜線となる。丘陵を西方へ流下する谷川は、斜面を刻み手取川へ注ぐ。本遺跡の南辺を流れる後世川、白山町の北を画する大谷川、南を画する桂谷川も、段丘を横断し手取川へ注いでいる。このため、各谷川は土石流などの災害を引き起こし、段丘に立地した遺跡を覆う土砂を運んでいる。

古宮遺跡の崖下を北流する手取川は、川幅150mの広がりをもち、対岸は能美市和佐谷町となる。標高200mを越える丘陵は、西方の能美平野へ向かって標高が下がり、西流する手取川に沿った前山では、開析谷が入り込み、白山信仰に関係した岩本宮や長瀧神社などが所在する。

白山町の段丘を南下する国道157号は、手取川の渓谷を週り、白山麓の白峰町から谷岬を越えて、福井県勝山市へ向かう山間の要路である。かつて古宮遺跡の脇を通過していた国道は、白山麓と手取川扇状地や金沢を結ぶ幹線道として、多くの人と産物が往来していた。白山禪定へ登拝する加賀禪定道も、白山町を通り抜けた白山大路に設けられた内島居を起点として、手取川の中流域を拠点とした加賀馬場の中宮三社(筒笠中宮、佐羅宮、別宮)と結ばれていた。

白山町の北縁は、独立的な丘陵である舟岡山である。標高186mの山上に本丸を置く舟岡山城跡は、戦国時代から江戸時代初期にかけて構築された石垣が残り、本遺跡と白山比咩神社は、その眼下に位置する。古くは、白山本宮の要害であったとみられ、山上にはここを創祭の地と伝える白山比咩神社の記念碑が建立されている。また北方を望むと、金剣宮の門前に広がる鶴来の町場や、手取川扇状地に広がる村里と日本海が遠望される。その舟岡山の西麓は、凝灰岩が露出した崖で、不動明王を刻んだ波切不動の前面を、扇状地の幹線用水である手取川七ヶ用水が流下している。狭い岸辺には、白山町を縦断した道路が通り、白山比咩神社と鶴来の町場や金沢の城下町を結ぶ街道として利用された。さらに手取川の岸辺には、対岸へ渡る船着き場が置かれ、能美郡への往来に利用されていた。

## 第2節 白山本宮の歴史と史跡

文明12年(1480)10月16日の火災で、白山比咩神社(白山本宮)の正殿・講堂・大拝殿・常行堂などの神殿堂宇が焼失するまで、旧社地の安久瀬之森は、白山信仰の神々が祀られ加賀馬場の拠点であった。このため、本遺跡の歴史的環境は、旧社地に所在した白山比咩神社の歴史と、手取川流域に形成された加賀馬場の史跡を俯瞰することになる。

手取川の河岸段丘と能美の丘陵地では、旧石器人の足跡や縄文人の集落跡が残されているが、古宮遺跡と白山町が位置する低位段丘で縄文集落が設営されるのは、縄文時代でも後期と新しい。

弥生時代から古墳時代にかけて、加賀地方でも低地の開発が進み、農耕による生活が展開すると、集落の一角にある水辺では、土器や祭具を使用した古代祭祀がおこなわれた。白雪に覆われた白山は、神々が住む世界に最も近い聖地として仰ぎみられ、いつしか「しらやま」と呼ばれていた。靈峰白山の山岳信仰は、このような自然崇拜から始まり、加賀では白山比咩神社がその中心であった。

平安時代の弘仁14年(823)、越前国の北部に位置した江沼郡と加賀郡を割いて加賀国が立国された。同年には、江沼郡から能美郡、加賀郡からは石川郡が分けられ、当地は加賀国石川郡未智郷に属した。加賀国府の位置は不明であるが、承和8年(841)に国分寺に転用した定額寺「勝興寺」が、小松市古府町にある十九堂山遺跡に北定され、隣接する旧国府村にある台地を所在地とする説が有力である。

仁寿3年(853)、白き神の靈験に期待した律令国家は、白山比咩神社を從三位に叙したことが『日本文德天皇実錄』にみえる。これが白山神の名前が文献に登場する初見である。官社となった白山比咩神社は、天安3年(859)には「加賀国白山比女神正三位」(日本三代実錄)として神位が昇叙され、その後においても、五畿七道の「諸神・名神」の一坐として神位が昇叙している。またこの頃から、神の姿を求めて白山の禪定(山頂)へ登拝する行者が現れたようで、主峰の御前峰には9世紀後半の土器がみられ、山頂祭祀の開始が知られている。古宮に所在した白山比咩神社でも、活動が本格化したことは、遺跡の堆積層の下面から9世紀代の須恵器や土師器が出土したことで知られる。

白山比咩神社に伝わる記録「白山大神宮御鎮座伝記」によると、白山の大神が最初に鎮座したのは舟岡山とされる。この伝記では、舟岡山から手取川の「十八講河原」へ遷座したのち、安久瀬之森の社地に鎮座したとある。白山比咩神社の縁起である「白山之記」では、白山比咩神は靈龜元年(715)に示現し、天長9年(832)に加賀・越前・美濃の三馬場が開かれたと伝えている。

延長5年(927)にまとめられた『延喜式』神名帳(巻十、神祇十)では、加賀国42座のうち石川郡10座の一番に白山比咩神社が登載されている。この時期、官社に位置づけられた白山系の神社は、越前や美濃の馬場にはみられず、加賀の白山比咩神社が唯一であった。また治暦四年(1068)10月に「白山社神殿并御舎等焼亡」(続左丞抄)とあることから、官社として神殿やご神体の整備が進められ、加賀馬場の拠点である白山本宮として「加賀白山本宮焼亡」(東寺王代記)と記録された。

平安時代の末頃、国ごとに定められた鎮守神が「一宮」と呼ばれると、白山比咩神社は加賀一宮の地位を得た。寛治5年(1091)7月に任地へ下向していた国守藤原為房は、神社において年穀物祈祷として最勝講の法会を修している。これは、本地垂迹説による山岳信仰が定着するなか、白山本宮でも仏堂や講堂が所在したことを見出している。天永2年(1111)にも、国守藤原顯輔が白山本宮を神拝しており、国守の勤めとして一宮での法会や神前参拝があった。本遺跡の下層からは、12世紀前半とみられる柱状高台の土器が大量に出土しており、供献に適した土器の大量消費は、神前祭祀の盛行があつたと考えられている。またこの時期、山頂の御前峰では、三馬場から運ばれた土器や陶磁器に加えて、本地垂迹を示す密教具や神具の銅鏡、経筒の出土などがみられる。この本地垂迹説により、御前峰が白山妙理大菩薩で本地仏は十一面觀音、大汝峰は大己貴神で本地仏は阿弥陀如来、別山は小白山大行事で本地仏は聖觀音とする白山三所権現が祀られ、白山禪定の世界が成立したと考えられている。

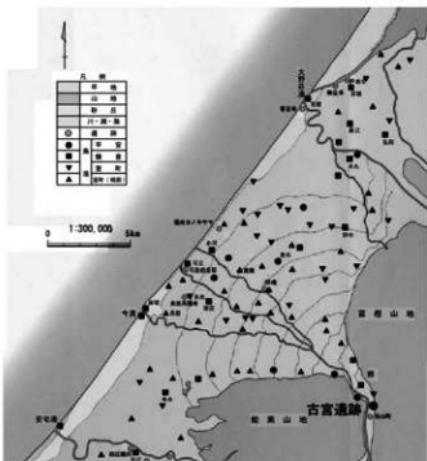
加賀馬場の拠点となった中宮三社(笠置中宮、佐羅宮、別宮)の社殿や講堂等が、手取川の中流域で建立され、禅定道の稜線にある松新宮を能美郡輕海郷の僧が建立したことを『白山之記』は伝えている。中宮や加賀禅定道の遺跡から出土した土器には、小松市南部の窯場で焼成された須恵器もみられ、中宮三社の行人や在家人は、三坂越えの街道を経て、国衙が所在した能美郡とも交流していた。

大治5年(1130)、「神事料物・公物儲料」を火災で失った中宮執行の大法師は、越中の日代に加賀郡津幡津に置かれた倉米40~50石の借用を依頼している。この時期の手取川は、扇状地を潤す大慶寺用水の流路を下り、河口の入江は「小川津」(白山市小川町付近)と呼ばれていた。小川は白山宮の神領として別山大行事を勧請した小白山社が祀られ、神殿跡の脇には宿の町場とみられる小川新遺跡が発掘されている。「白山之記」によると、小川を通過していた海沿い街道には、白山宮の總門が置かれ、往来した旅人が白山を遙拝したとある。加賀馬場では、禪定の聖地に奥宮の建立し、手取谷の要所に中宮や本宮の山岳寺社を構え、手取川河口の要津まで神領を広げ加賀馬場の領域としていた。さらに手取川以北の石川・加賀の両郡においても、白山宮の神免田が国術領の各所に置かれたようで、祭礼や神事の公物が白山本宮へ貢納されたことが史料にみえる。

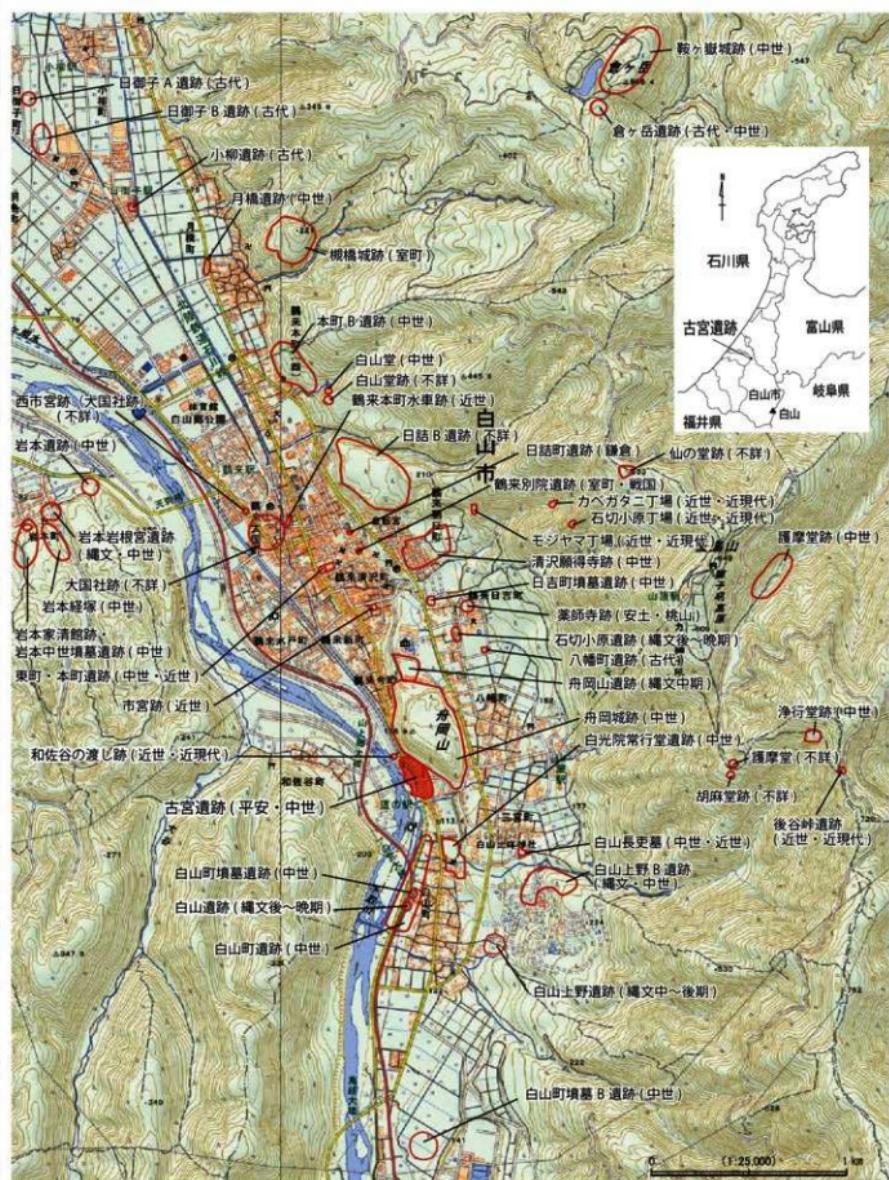
長寛元年(1163)に成立したと推定される『白山之記』によると、白山本宮には宝殿(本殿)・拝殿・彼岸所をはじめ、管理施設の政所・大倉や摂社である荒御前・滝宮などの本殿や拝殿、白山寺の堂宇である大講堂・十一面堂(法華常行堂)・馬頭堂等に、付属施設の鐘楼・武徳殿・五重塔など40余字に及んだとされる。その白山本宮は加賀国の一宮であったことから、神殿の造営料は国衙が国内一円に賦課する一国平均役により賄われていた。神殿の上棟が行なわれた延応元年(1239)、神主の宮保氏盛の宮倉から出火した火炎は、新造の「神殿以下廿一字」を焼亡した。その際、宝殿の御正体は延焼を免れた武徳殿へ渡り、彼岸所の觀音像は大講堂へ遷されている。鎌倉時代に比叡山末の山岳寺院として神殿堂宇の整備が進んだ白山本宮では、古宮の社地に白山大神の神殿などが造営され、講堂や武徳殿等の仏堂は、これより少し離れた仏地に整備されていた可能性が高い。

文明12年に社殿や仏堂が焼亡すると、神社では直ちに再建が企てられたが、造営は進まなかった。そのため、白山本宮は長享2年(1488)6月1日に三宮町の現社地に置かれた神殿へ正式に遷座することになり、再建の準備を進めた旧社地は、江戸時代の頃から古宮と呼ばれるようになった。

明治初期の古宮を描いた安久壽之森の絵図(図版14)には、測量図の甲図と景観図の乙図があり、その景観は今に残されている。また中世の磨崖仏と解説される鶴来今町の「波切不動明王」と、白山町の通称神主町で祀られる「カタガリ地蔵」は、明治36年(1903)に完了した七ヶ用水の合口事業で移設されるまで、舟岡山の西麓に所在した「妙法の岩室」の磨崖仏であった。磨崖仏にみられる信仰は、天台系密教を背景としたもので、白山本宮の鬼門を守護する目的で岩窟に刻まれたものとみられる。

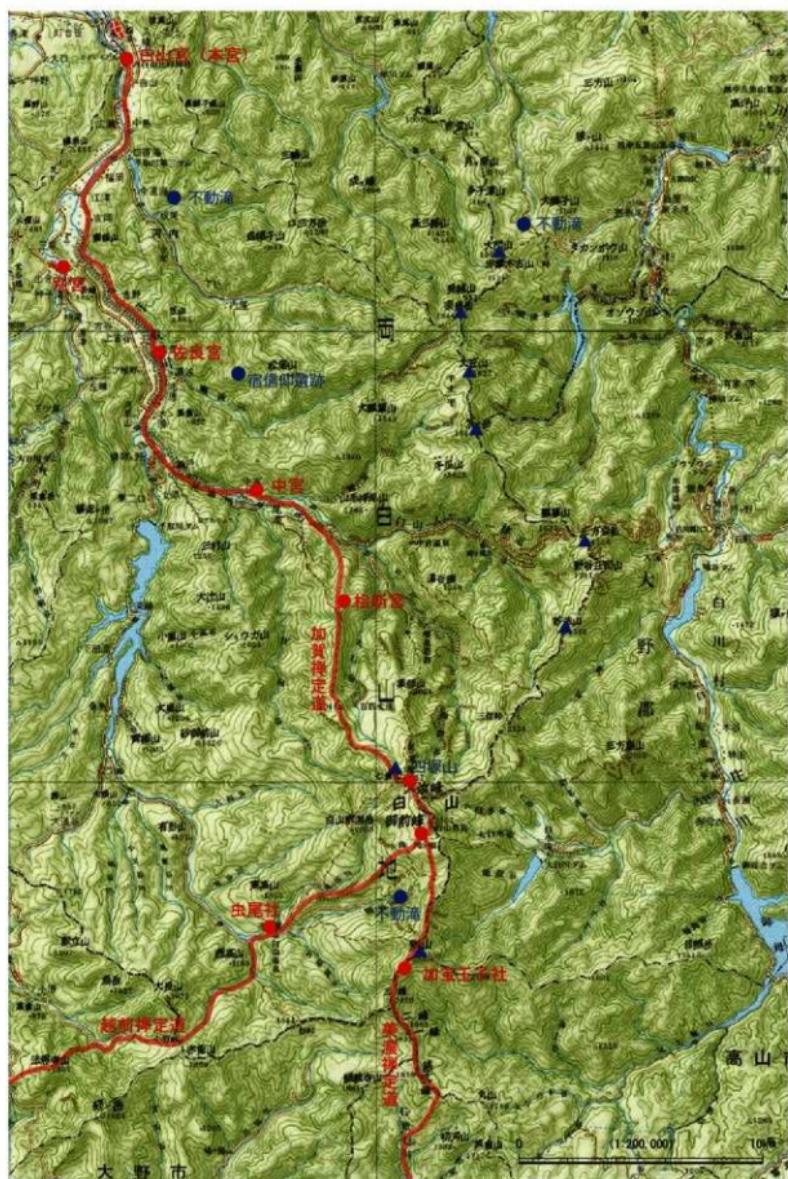


第1図 手取川扇状地を中心とする中世の主要遺跡分布図 (S=1/30万)  
 『米光萬葉寺遺跡』1987 石川県立博物館文化財センター第一回を加工して使用



第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡分布図 (S=1/25,000)

電子地形図 25000 (国土地理院発行)  
「粟生」・「鶴来」を加工して使用



第3図 白山の禪定道と山頂遺跡 ( $S=1/200,000$ )

20万分1地勢図(国土地理院発行)  
「金沢」を加工して使用

# 第3章 調査の成果

## 第1節 調査の方法



第4図 調査区位置図

委による手取川七ヶ用水白山管理センター建設に伴う1996年の発掘調査では、中世のカワラケ(素焼き土器の皿1,700枚以上)が大量にまとまって出土した祭祀遺構とみられる竪穴状遺構などが確認されたことで注目され、公園の一角に発掘当時の遺構を復元した施設がつくられている。

今回の自転車道建設に伴う調査は、北陸鉄道の旧線路敷部分にある幅約5.0~5.5m、延長約110mと細長い調査区が対象であり、調査面積は1,350m<sup>2</sup>(平面積550m<sup>2</sup>)である。自転車道工事との調整から、A区・B区・C区の3地区に分けて調査を行い、B区では平安時代後期~室町時代後期までの最大5層の遺構面を確認した。本章ではA~C区の調査区ごとに遺構と遺物に分けて報告する。

調査区が狭長であることから、任意に幅10m間隔のグリッド杭を設置し、北から南へ1~11のグリッド番号を振り、さらに番号の頭に調査区名のA~Cを組み合わせ、A3区やB6区などと呼称した(第5図)。そのグリッドをさらに2分割し、B8北やC10南など方位を加えた幅5m間隔のグリッドも併用し、遺構の位置管理や図面・写真の整理、出土遺物の取り上げなどに使用した。

第5図の調査区全体図・グリッド剖面図(S=1/500)は、各区ごとに面数の異なる平面図を隣接する区・面と対応する面ごとに合成した全体図を並べて掲示した。上段には前述した10m間隔のグリッドを記載した。各調査区・面ごとの平面図(S=1/300)は第6~9図に掲載した。また、土層断面図・礎石エレベーション図の実測個所は各区・面の平面図・断面図実測箇所図(S=1/100)に赤線を入れて図示し、赤丸数字の断面図番号を付けて遺構平面図と断面図とを対応させた。複数面にまたがる断面図等は同位置に青線と青丸数字を付けて掲示した。また、遺構面の表記はI~V面とローマ数字を使用した。

## 第2節 遺構

### 1. A区(第49~52図、図版1~4)

A区は延長約40mの調査区でA1~A4区のグリッドを設定した。北端は鉄道建設時に上部を削平された岩盤が露出しており、試掘調査でも北へしばらく岩盤が続くことから、遺跡範囲の境界となっている。2面の遺構面を確認したが、I面は攪乱が著しく、遺構も希薄であり部分的な手実測での図化を行った。I・II面間の包含層からは、中世のカワラケが多く出土した。II面は地形の傾斜に合わせた南北方向の断続的な溝や建物柱穴とは復元できない小穴(ピット)を中心であるが、A4区北端で検

周知の埋蔵文化財包蔵地である古宮遺跡(県番号922500)は、手取川右岸の河岸段丘上に位置し、舟岡山裾部を通る県道野々市鶴来線をまたぎ北陸鉄道旧加賀一の宮駅や古宮公園付近に広がる平安時代から中世にかけての遺跡(第2図)である。現在の古宮公園一帯は、安久満之森と呼ばれ文明12(1480)年まで白山本宮(白山比咩神社の前身)が所在していた地とされており(第2章)、鶴来町(現白山市)教

出した不整形な浅い土坑SX13からは、細かく割れた中世後半のカワラケ片が遺構を覆い尽くす形で出土しており、儀礼後のかたづけ行為でまとめて廃棄された可能性がある。SX13北西のP91上面からは中世の青磁碗が、北東のP93上面からは完形に近い土器器皿が割れた状態で出土した。A2区で下層確認トレンチを設定し、Ⅱ面下を掘削したが、無遺物層が続き下層面は確認できなかった。A4南～B5北区にかけては鞍部堆積で地形が低くなり、部分的にⅡ面下に中世の遺物包含層(第14図)を確認した。

#### Ⅱ面 A4 SX13(第6・13・14図、図版3)

長径約2.5m、短径約1.5m、深さ約5～10cmを測る不整形の浅い土坑である。中世後半のカワラケ片が遺構を埋め尽くすように出土しており、142～188を図示した。儀礼後の廃棄とみている。

#### Ⅱ面 A3 SX15(第6・13図、図版3)

調査区外に続く長径約2.6mの浅く方形の堅穴状遺構である。中世前半の珠洲焼や白磁碗・カワラケが出土し、27・28・46・50を図示した。

#### Ⅱ面 A3・4 SX16(第6・13・14図、図版3)

残存長約3.4mを測る中世の浅い堅穴状遺構である。101～104の瀬戸焼壺やカワラケを図示した。

#### Ⅱ面 A3 P91(第6・13・14図、図版4)

直径約50cm、深さ約20cmを測る円形のピットである。上面から中世の青磁碗107が出土した。

#### Ⅱ面 A4 P93(第6・13・14図、図版4)

直径約35cmを測る円形のピットである。上面から中世のカワラケ109・112が出土した。

#### Ⅱ面 A3 SD11(第6・13図、図版4)

幅約70～100cmを測り南北方向に延びる浅い溝である。加賀焼壺26やカワラケ87が出土した。

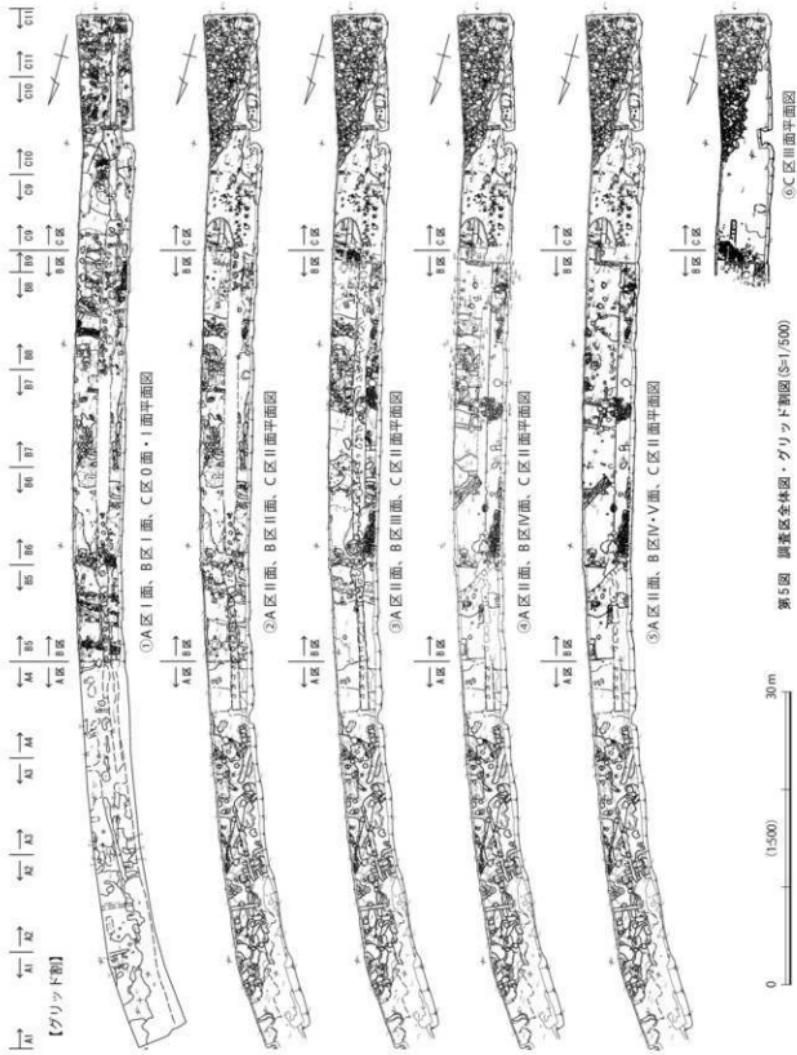
### 2. B区(第53～59図、図版1・2・4～10・14)

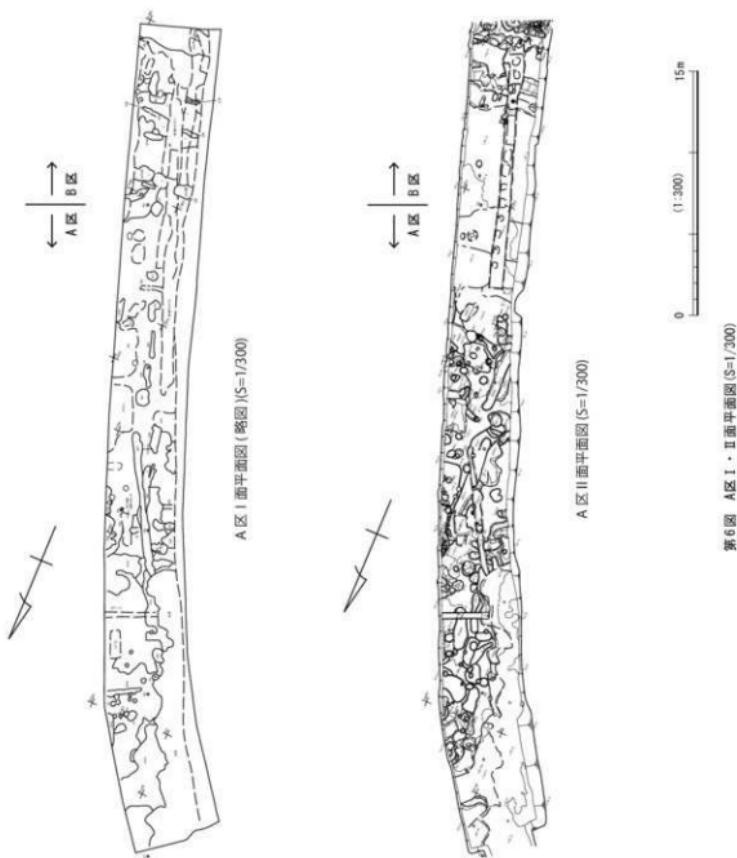
B区は延長約43mで、B5～B9区のグリッドを設定した。平安時代末頃～室町時代後半までの遺構面を5面確認したが、V面以下は部分的な下層確認のみで保存することになり、最下層面の状況は不明である(第41図)。A区との境には堀または水路とみられる溝状遺構と幅約50～80cm大でA区側に平らな面をもつ大型の石列06(石積みの基部か)を検出した。それ以降では焼土粒や炭化物とカワラケ片を大量に含む包含層や整地層により火災後に敷地を嵩上げていった状況が確認できた。B区の古宮公園側にはかつて加賀一の宮駅のホームが存在しており、ホームを支えていた支柱の柱穴と溝状の擾乱が調査区中央を縱断し、線路敷の碎石直下が遺構面であったことから、特にⅠ～Ⅱ面は遺構の遺存状況が悪かった。Ⅰ面では東西方向の石敷きの道状遺構と石段を持つB6区SD18・SX75やB8区SX29を確認した。Ⅱ面以下は、多くの建物の礎石や礎石の根石、配石・敷石状遺構のⅢ面B6区SX76、B7・8区SX65a・b、Ⅳ面B7区SX71、火災後の片付け行為に伴うとみられる土坑Ⅱ～IV面B7・8区SX46・47、飛び石状の道状遺構Ⅳ面B6区SX72などを検出した。礎石建物には同じ場所で建て替えられたⅡ～Ⅳ面B8区SB01a・bや火災により大型の礎石上面が被熱し赤色化したⅣ・V面B7区SB02などを確認した。V面B8区の堅穴状の大型土坑SK19からは底部が柱状高台のカワラケが多く出土した。

B区の遺構面の時期は、第Ⅰ面は室町時代後半～戦国時代、第Ⅱ・Ⅲ面は室町時代中頃～後半、第Ⅳ面は鎌倉時代前半～室町時代前半、第V面は平安時代後半～鎌倉時代前半、第VI面以下は平安時代中頃～後半頃を中心と考えられるが、部分的な整地もあり、各面が全て同時期の遺構ではない。

#### I面 B8 SX29(第7・16図、図版5)

幅約70～90cmを測り、碟で埋められた東西方向の浅い溝である。石敷の道状遺構とみている。





### I～III面 B5・6 SD01・石列04～06（大型石列）（第7・15・19・27図、図版5～7）

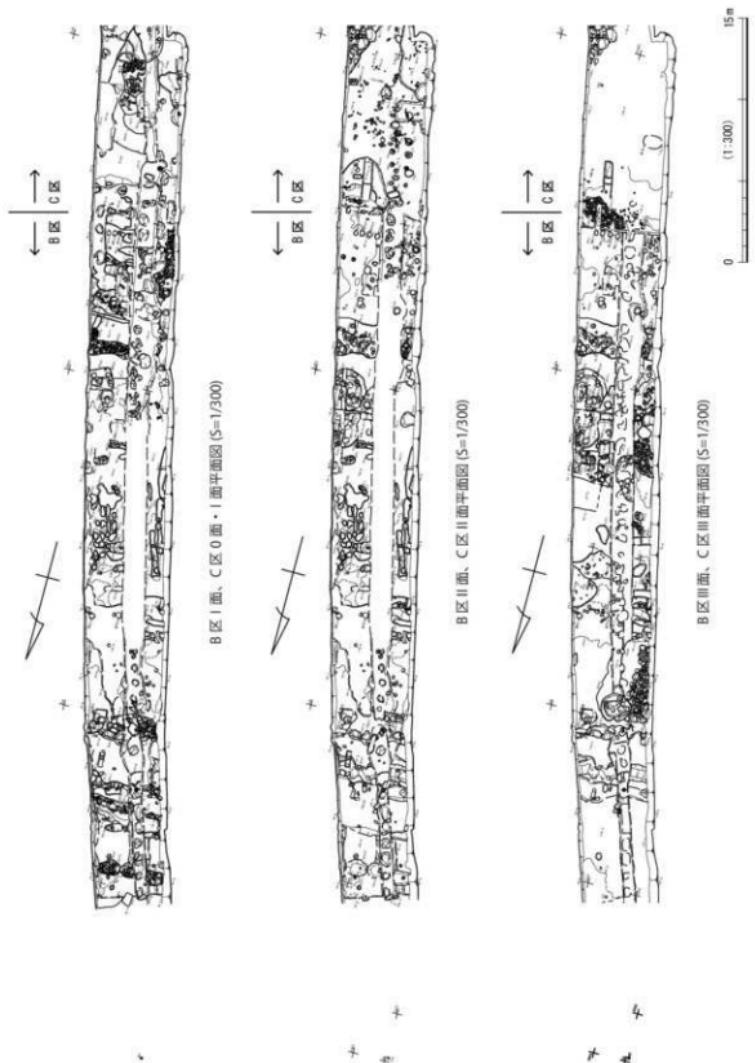
A区側に平坦面を持ち東西方向に延びる大型の石列06と南側の礎で埋められたSD01は、敷地境に積まれた石積みまたは土塼基礎の可能性を想定している。SD01下部には石列04・05を両側に持つ溝があり、炭化物・焼土粒と共に細片となったカワラケが多く出土した。石組み側溝の可能性もある。

### I面 B5 SD02東・西、II面 SD27、III・IV面 SD36（第7・8・15・17・19・38図、図版5～7）

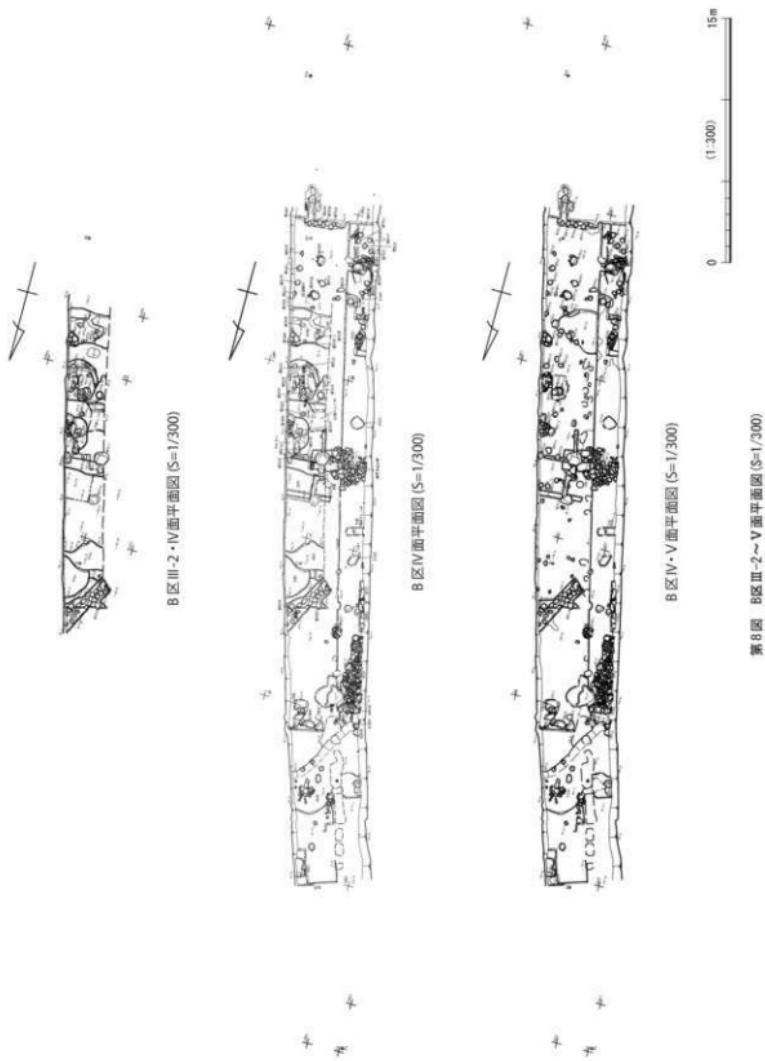
鎌倉時代の珠洲焼・加賀焼・越前焼が出土したIII・IV面の自然流路SD36は、II面SD27、I面SD02とはほぼ同位置で変遷する。SD02は石列を伴い幅約2.5mから約1mの溝へと縮小するが、南側の石列06やSD01と主軸方向が同じであり、敷地境の堀または水路の可能性がある。

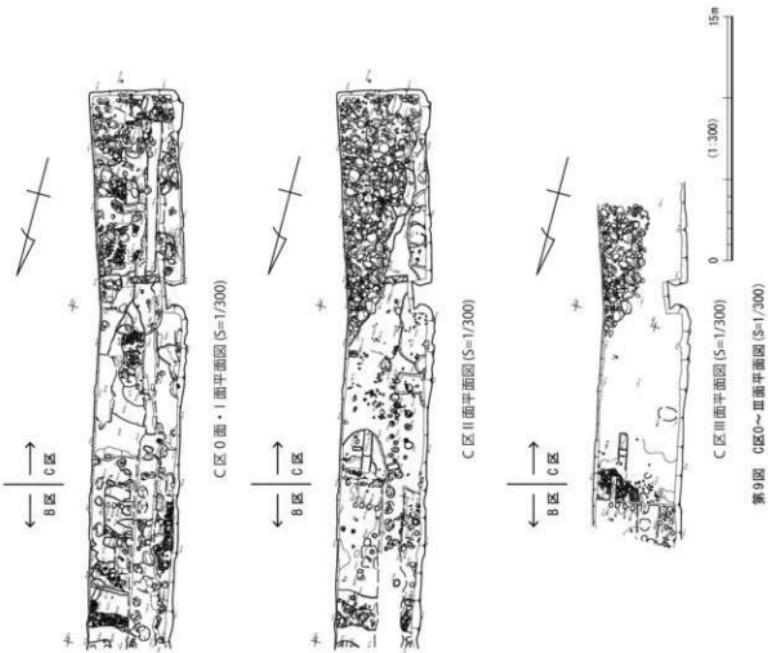
### I・II面 B6 硏石4・5・SD18・SX75（第7・15・17・18図、図版5・9）

I面SD18は東西方向に延びる溝で、礎敷の道状遺構とみている。西壁に接して上部に平坦面を持つ



第7図 B区 I～III面・C区 0～III面平面図 (S=1/300)





第9図 0250~III面平面図 (S=1/300)

石段状のSX75があり、公園側に登る階段状の遺構となる可能性がある。東側にはⅡ面の礎石04・05が重なり、整地土を挟んだ下部には敷石列の道状遺構とみているⅣ面SX72が重なる。

#### II~IV面 B8 SB01a・b (礎石01~03・P109) (第7・8・20・24・25・28・34・35・37図、図版6・8)

柱間2.2m、1×1間の礎石建物で、礎石01~03が検出された。P109は礎石の抜き取り痕である。IV面SB01bは約1.1m離れた東側に南北方向で80cm間隔の礎石列25~28を伴い、堂舎前面の屋根を支えた柱の礎石になる可能性がある。Ⅱ・Ⅲ面では整地層を挟み同じ場所に礎石を重ねたSB01aが建て替えられているが、前面の礎石列は伴わない。IV面礎石01b東側から銅錢の開元通寶が出土した。

#### II~IV面 B7・8 SX46・47・礎石19(第7・8・20・22・28・36・37図、図版7・8)

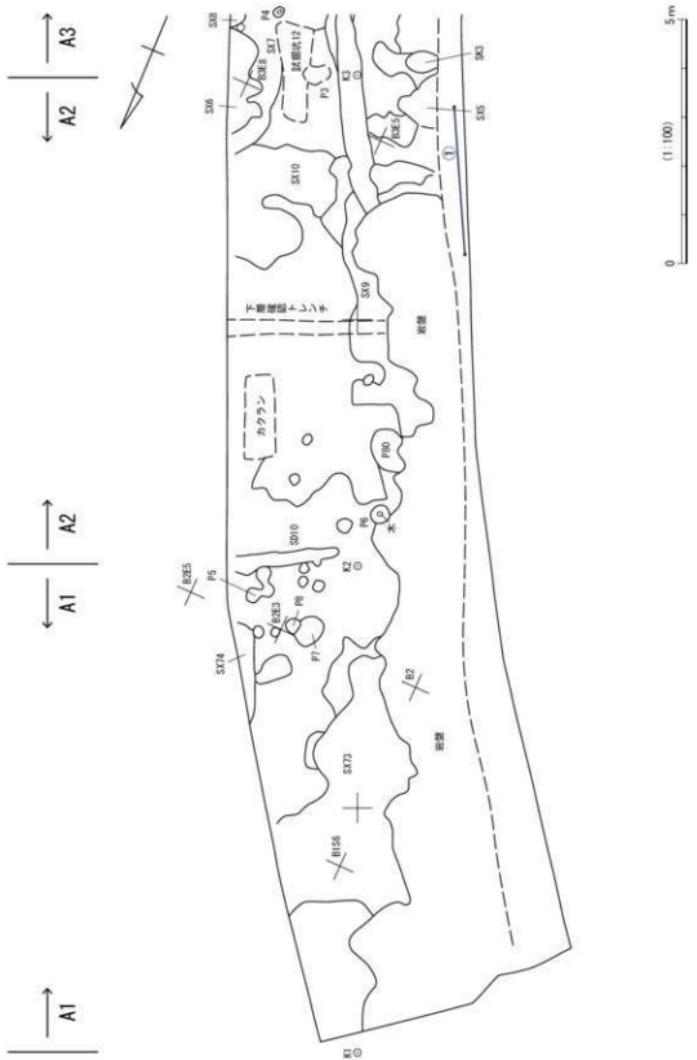
直径約25mの円形で底が擂鉢状の浅い土坑SX46・47を並んで検出した。どちらも炭化物や土器小片を多く含む覆土で、火災後の廃棄土坑の可能性がある。礎石や礎石の根石が重複している。

#### II・III面 B8 SX48・49・55(第7・20・24・28図、図版5)

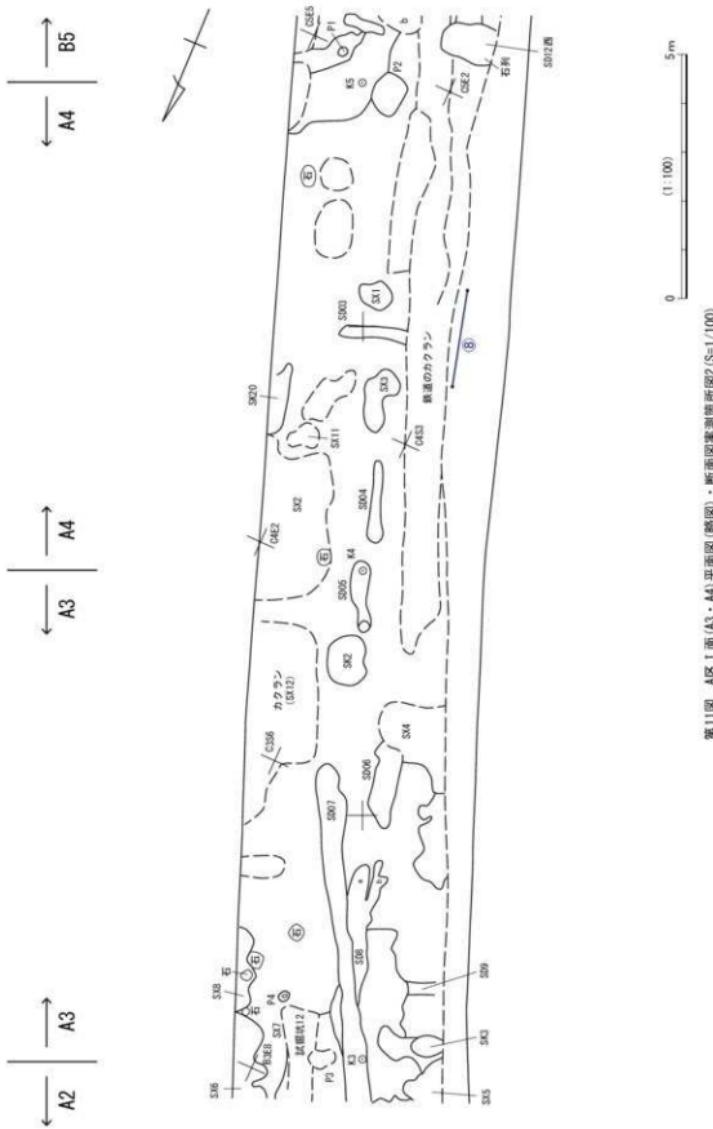
I面の道状遺構SX29の下部に位置する幅約2mの溝で1段深いSX48には大型の礎が、上層のSX49は固くしまった小礎交じりの土で埋められており、東西方向の道状遺構とみている。西側の石列SX55の裏側は固くしまった土で埋められており、石段または階段状の遺構とみられる。

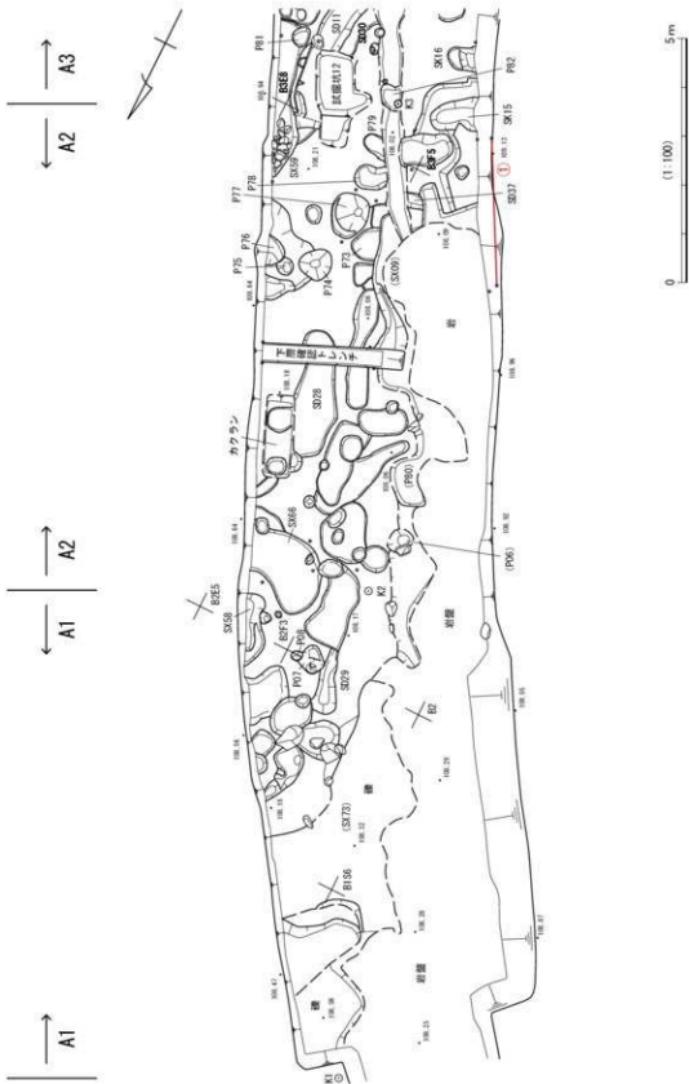
#### II・III面 B9 級石07~10(第7・20・26・28図、図版5・9)

径約30~35cm大の礎石を約45cm間隔で並べた礎石列で、小規模な堂舎に伴う可能性がある。

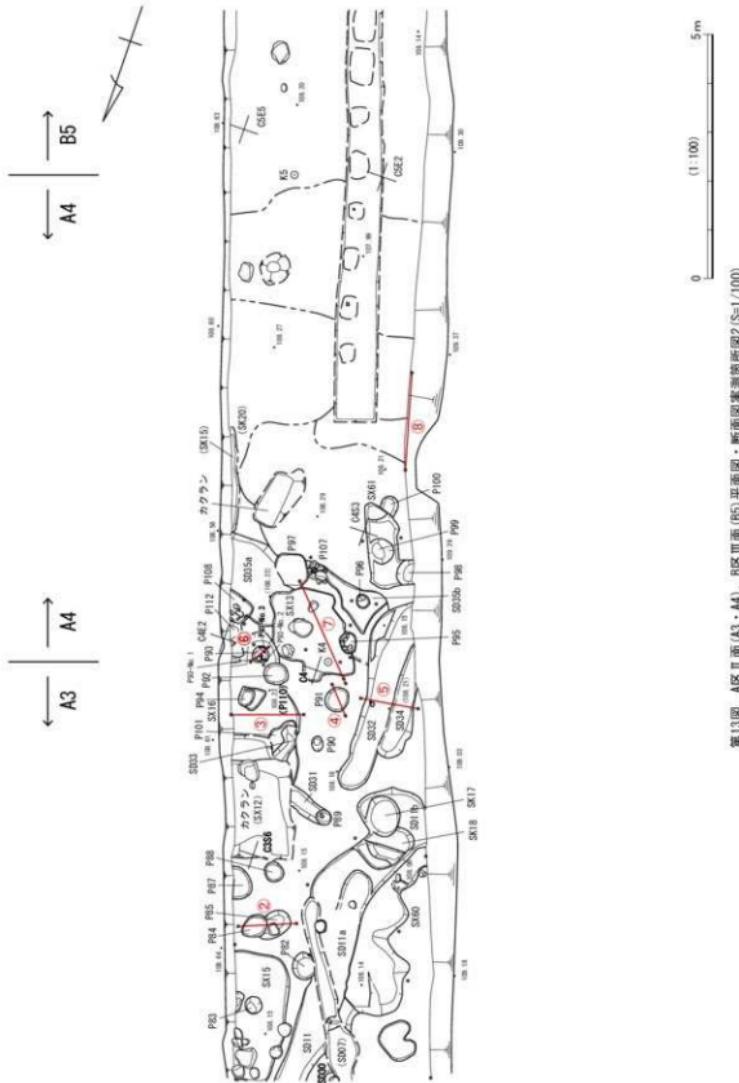


第10図 A区1面(A1・A2)平面図(略図)・断面図実測値所図1(S=1/100)

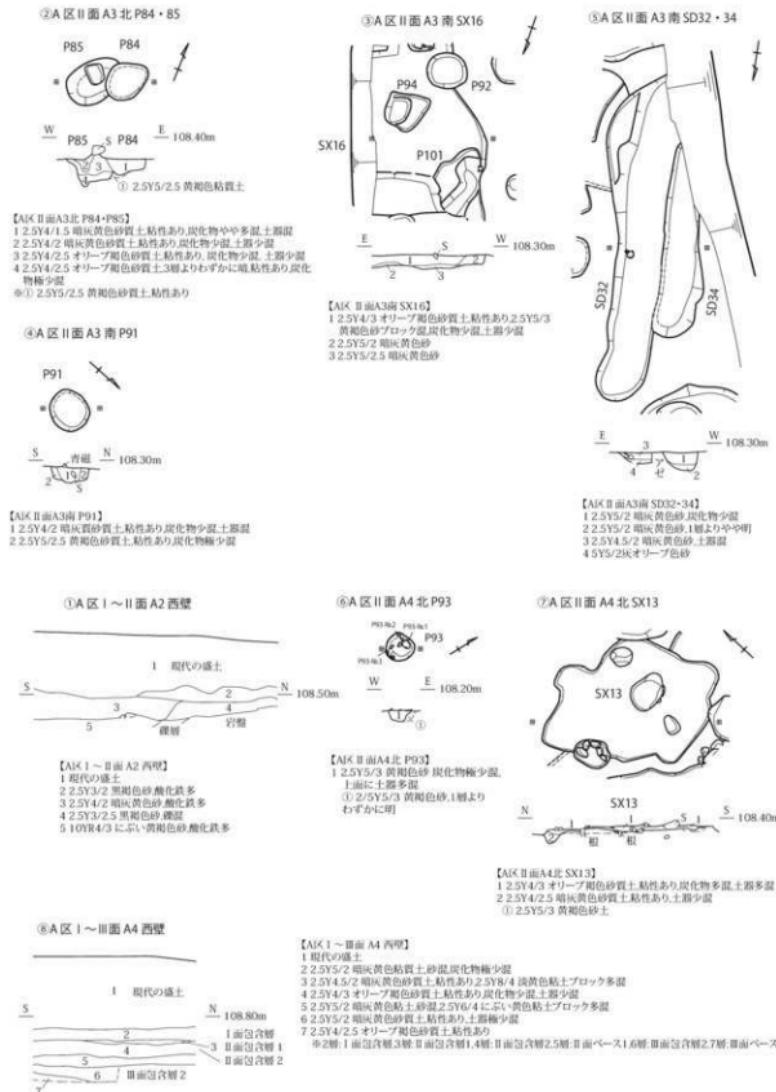




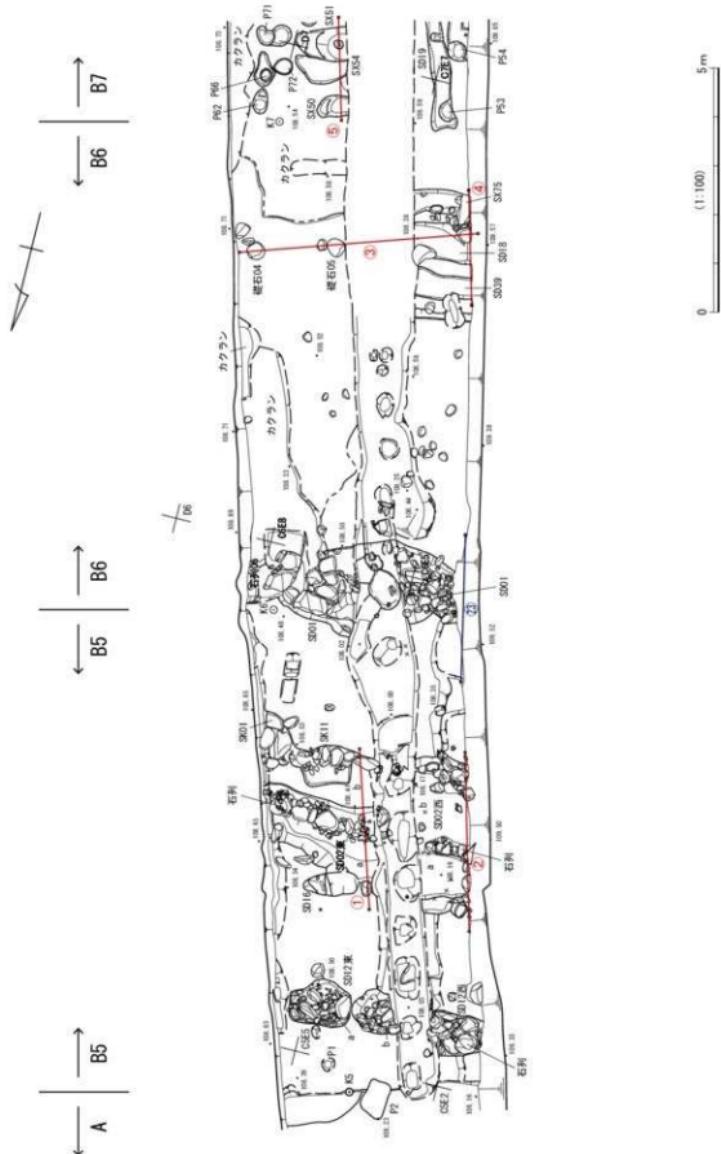
第12図 A区II面(A1)~(A3)平面図・断面図実測箇所図(S=1/100)

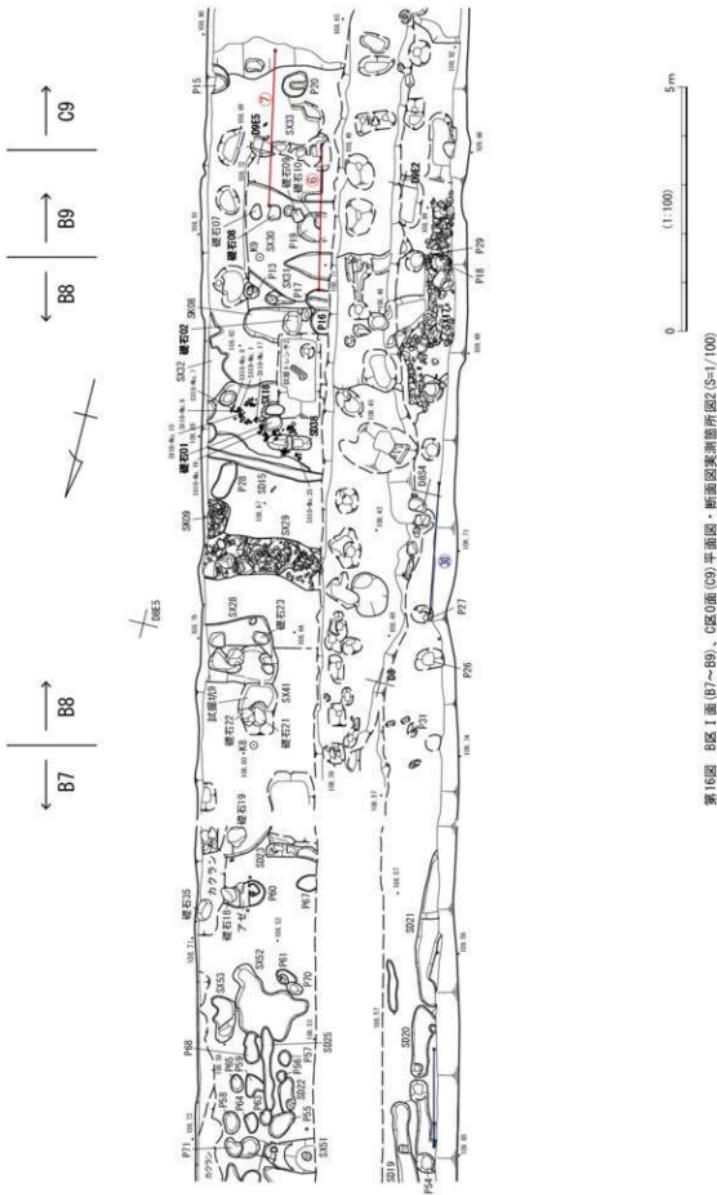


第13図 A区Ⅱ面(A3・A4)、B区Ⅲ面(B5)平面図・断面実測箇所図2(S=1/100)



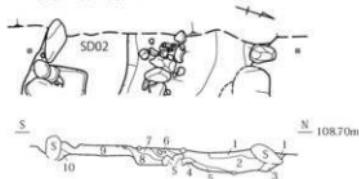
第14圖 A區II面(A2≈M)平面圖：土壤斷面圖(S=1/60)





第16図 B区1面(87~89)、C区0面(C9)平面図・断面図実測値・図2(S=1/100)

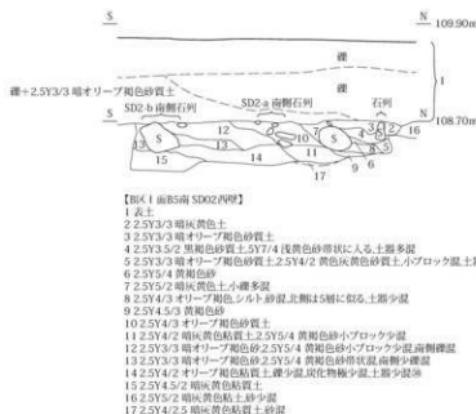
①B区 I面 B5南 SD02



## 【B区 I面B5南 SD02】

- 1 2.5Y5/2 喀灰黄色砂 2.5Y3/3 明オリーブ褐色砂ブロック状に混土少混
- 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂ブロック状に混
- 2 2.5Y3/2 黒褐色砂
- 3 2.5Y3/3 喀灰リープ褐色砂
- 4 2.5Y3/3 喀灰リープ褐色砂 5層小ブロック少混
- 5 2.5Y4/2 黒褐色砂 6層少混
- 6 2.5Y4/2 黒褐色砂 7層
- 7 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂由よりや明
- 8 2.5Y3/3 喀灰リープ褐色砂 2.5Y3/2 黒褐色砂小ブロック少混
- 9 2.5Y5/4 黄褐色砂 2.5Y3/2 黑褐色砂が互層状に混上位に混底
- 10 2.5Y3/2 黑褐色砂

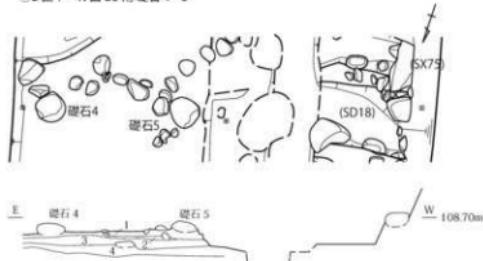
②B区 I面 B5 南 SD02 西壁



## 【B区 I面B5南 SD02西壁】

- 1 表土
- 2 2.5Y3/3 喀灰黄色土
- 3 2.5Y3/3 喀灰リープ褐色砂質土
- 4 2.5Y3/2 黑褐色砂 5層 10.5m厚 5層黄色砂層に入る土層多混
- 5 2.5Y4/2 黄褐色砂 2.5Y4/2 黄褐色砂質土上 小ブロック混 土層多混
- 6 2.5Y3/2 黄褐色砂
- 7 2.5Y5/2 喀灰黄色土 小礫多混
- 8 2.5Y3/3 オリーブ褐色シルト混 北側は5層に似る 土層少混
- 9 2.5Y4/5 黄褐色砂
- 10 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土
- 11 2.5Y4/2 喀灰黄色質土 2.5Y5/4 黄褐色砂少ブロック少混
- 12 2.5Y3/3 オリーブ褐色砂 2.5Y4/2 喀灰白色砂少ブロック少混側壁混
- 13 2.5Y4/2 黄褐色砂少混
- 14 2.5Y4/2 黄褐色砂少混
- 15 2.5Y4/2 喀灰黄色砂少混
- 16 2.5Y5/2 喀灰黄色砂少混
- 17 2.5Y4/2 喀灰黄色砂質土少混

③B区 I～IV面 B6 南 硬石 4・5



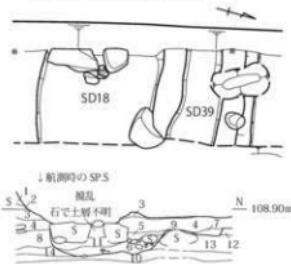
## 【B区 I～IV面 B6南 硬石4・5】

- 1 2.5Y4/2 喀灰黄色砂質土 少混 小石・漂砾土層少混 坚化物少混
- 2 2.5Y6/2 喀灰色粘土 坚化物少混 3層が1位で複数の層に混
- 3 2.5Y7/4 浅黄色粘土 2.5Y5/2 喀灰粘土ブロック層
- 4 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質土 砂混 坚化物極少混 土層少混
- 5 1層 基面含積1.2m 基面ベース1.3m 基面ベース2.4m IV面含積1

0 (1:60) 2m

第17図 B区 I面 (B5・B6) 平面図・土層断面図 (S=1/60)

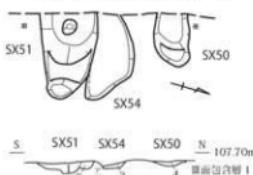
④B区 I ~ III面 B6 南 SD18・39



【B6 I - III面B6 南 SD18・SD39】

- 1 2.5Y5/5.2 黄色粘土質土 少量
  - 2 2.5Y7/4 浅黄色粘土質土 下部は3層漸移的に混
  - 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質土 砂質化物極少 混土少泥
  - 4 2.5Y5/2 黄褐色粘土質土 小石隕少 混土少泥
  - 5 2.5Y3/1 黒褐色粘土質土 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質土 小石隕少 混化物極少 混土少泥
  - 6 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土質土 上部硬
  - 7 2.5Y5/2 黄褐色粘土質土 小石隕少
  - 8 2.5Y5/2 黄褐色粘土質土 少量
  - 9 2.5Y5/2.5 單純黄色土 小石隕少 混化物極少 混土少泥 2.5Y4/4に似る黄色粘土 2.5Y5/2 單純黄色土ブロックとの段土層
  - 10 2.5Y6/4 に似る黄色粘土 2.5Y5/2 單純黄色土ブロックとの段土層
  - 11 2.5Y4/2 單純黄色土質土 混土少泥
  - 12 2.5Y4/2.5 オリーブ褐色粘土質土 2.5Y5/4 黄褐色粘土質土 ブロック隕 小石隕少 泥土少泥
  - 13 2.5Y5/2 黄褐色粘土質土 少量
  - 14 2.5Y4/3 オリーブ褐色土
- ①縦近代段鉄道地盤2.2倍 ②面ベース4層 ③ II面包含層1.5・6層 SD18.7層 III面包含層 1.9層 ④面ベース、10層 直面ベース、11層 SD18.13層

⑤B区 I・II面 B7 北 SX50・51・54



【B7 I・II面 SX50・51・54】

- 1 2.5Y4/2 單純黄色土 質土少泥 上部少泥
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 硬化物少泥
- 3 2.5Y5/3 黄褐色土 硬化物少泥 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ブロック混 地下水少泥
- 4 2.5Y4/2 單純黄色土質土 少泥
- ① 1層 SX51.3層 SX54.4層 SX50

⑥B区 I・II面 B9 北中央アゼ



【B9 I・II面B9 北 中央アゼ】

- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 上面鉄道の碎石
- 2 10YR4/4 に似る褐色粘土質土 (上面鉄道の碎石) 砂質化物混 土器や多量残存高率
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質土 柔軟性強め 有機黄褐色微砂 ブロック少泥化物少泥
- 4 2.5Y4/5 3 オリーブ褐色粘土質土 黄褐色微砂 ブロック少泥
- 5 2.5Y5/3 黄褐色砂質土 砂多泥

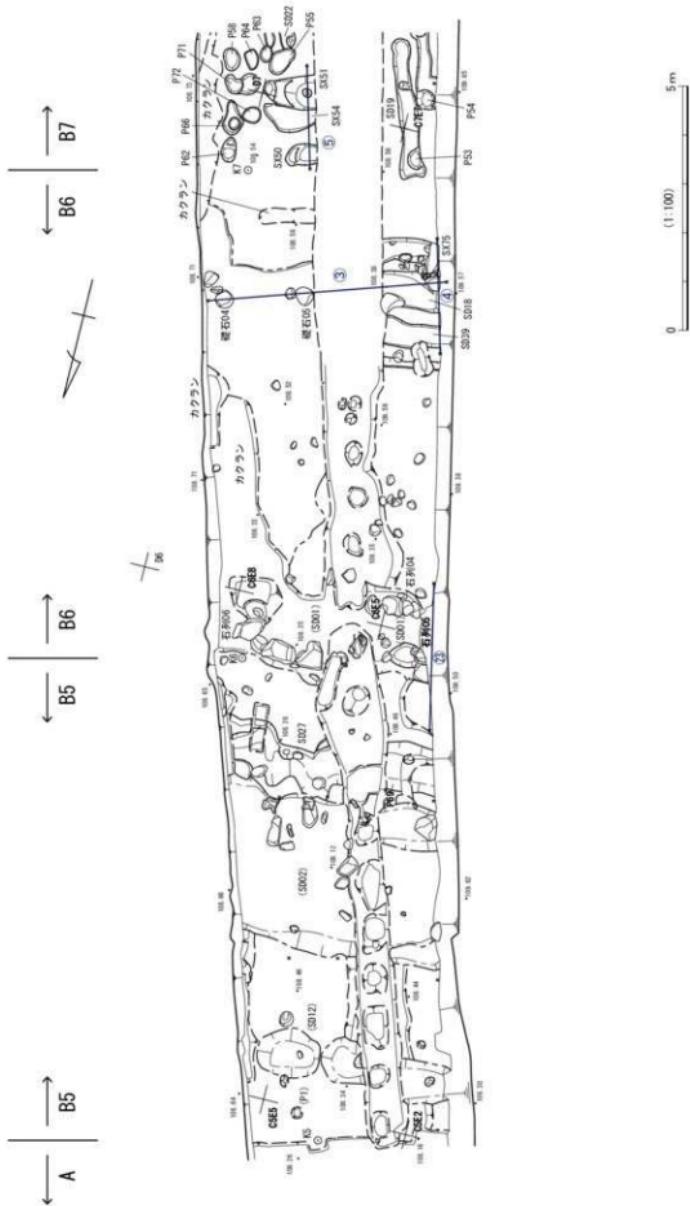
⑦B区 I・II面 B9北 (C区 0面 C9北) 中央アゼ (SX33)



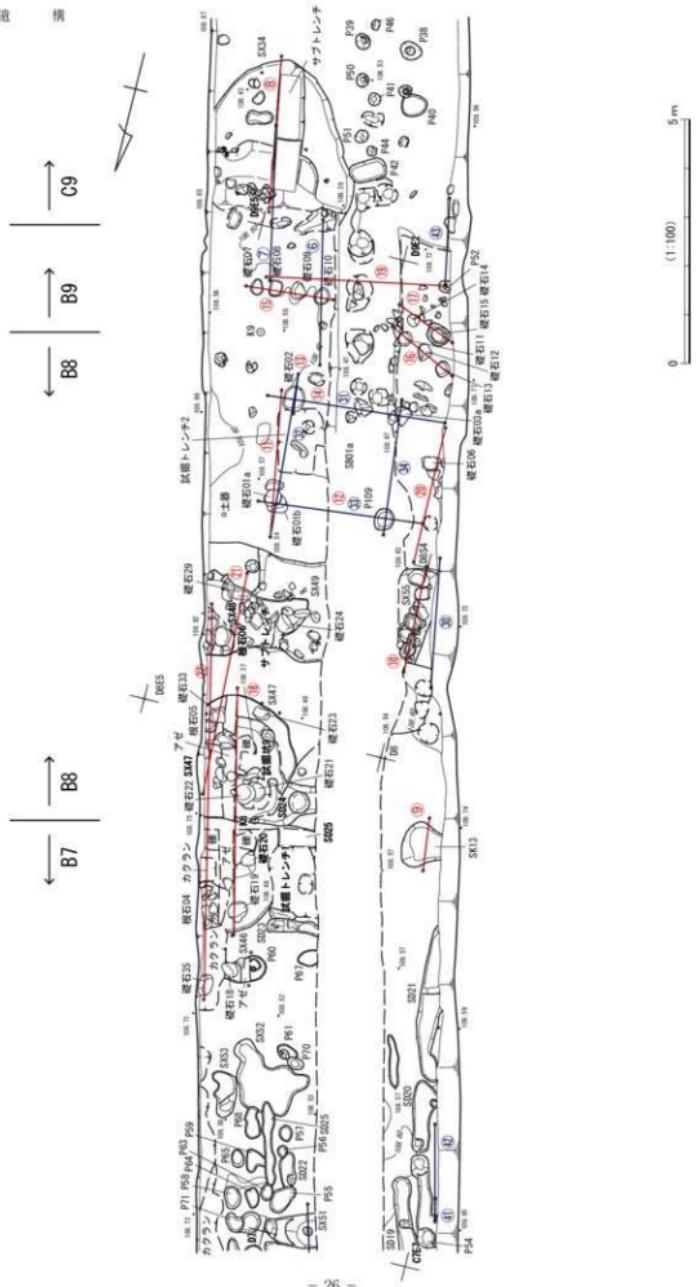
【B9 I・II面B9北 (C0面C9北) 中央アゼ (SX33)】

- 1 2.5Y6/6 單純褐色粘土質土 砂化物少泥 2層小ブロック少泥 (礫石~10cm 2層)
  - 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 2.5Y4/8 明黄褐色粘土シルトに近いブロック混
  - 3 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 砂多泥
  - 4 10YR4/6 褐色土 遊離多泥 混化物少泥 混土少泥
  - 5 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質土
  - 6 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 砂質化物少泥 混土少泥 (B9北西壁-5層)
  - 7 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土質土 土器混 5層よりわずかに明 (B9北壁-6層)
  - 8 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘土質土 砂質化物少泥 混土少泥 (B9北壁-7層)
  - 9 10YR4/4 黄褐色シルト土質土 (SX34-2層)
  - 10 10YR4/4 黃褐色土質土 (SX34-3層)
- ① 1層 II面ベース3・4層 SX34上部断面1層 5層 P110.6層 III面包含層1.7層  
② III面包含層 2.5層 III面包含層3

第18図 B区 I面 (B6・B7・B9) 平面図・土壌断面図2 (\$=1/60)

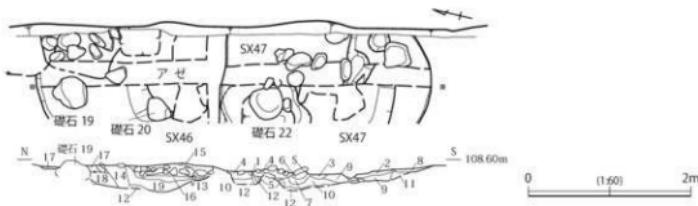


第19図 B区II面(B5~B7)平面図・断面図兼測量所図(S=1/100)



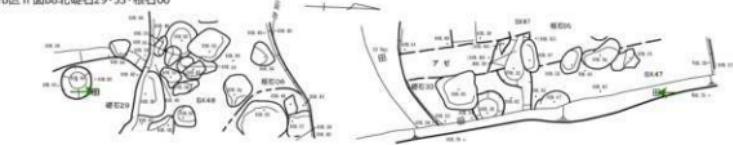
第20回 B区II面(B7~B9)、C区I面(C9)平面図・断面実測図所図2(S=1/100)

⑧B区Ⅱ～Ⅳ面 B7南・B8北 SX46・47・礎石19

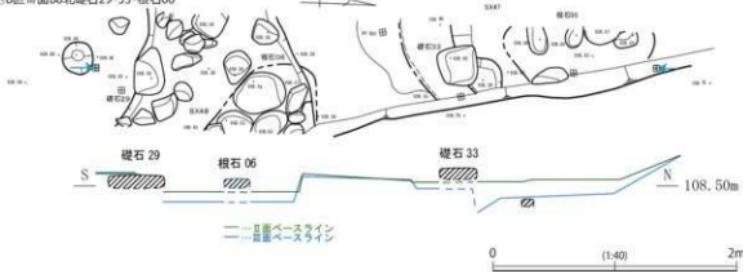


第21図 B区Ⅱ面(B7・B8)平面図・土層断面図(S=1/60)

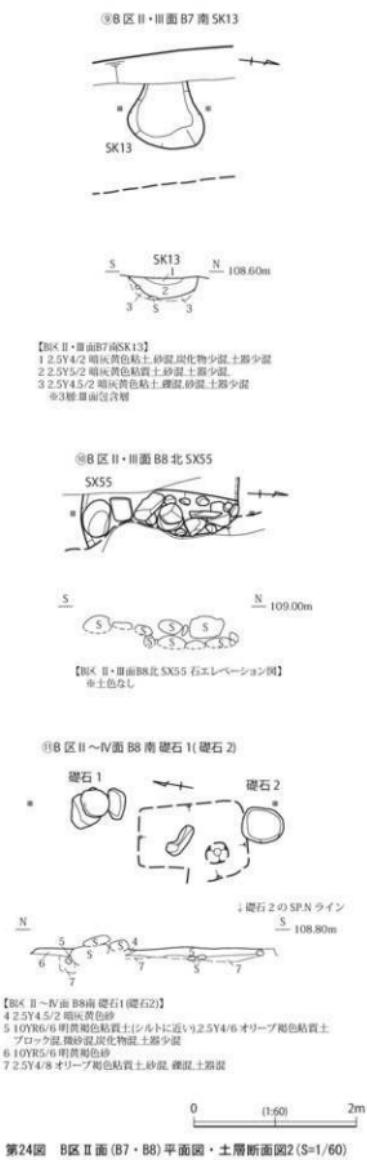
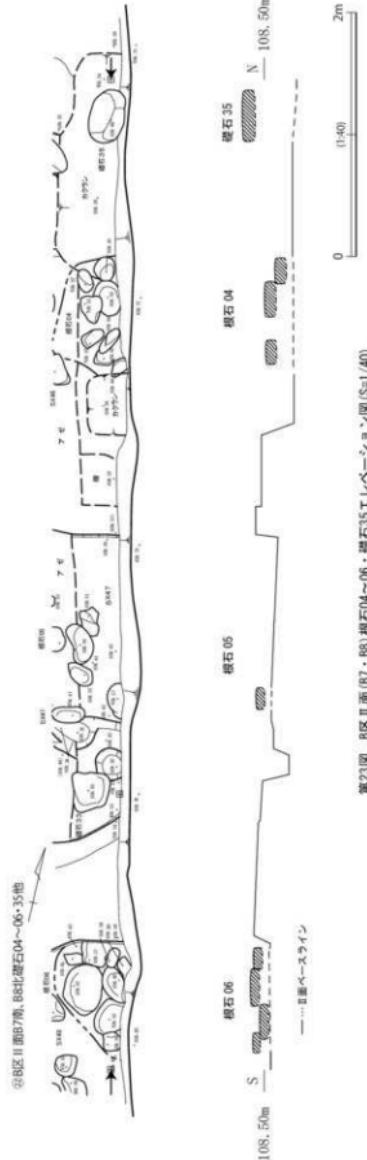
⑧B区Ⅱ面B8北礎石29・33・根石06



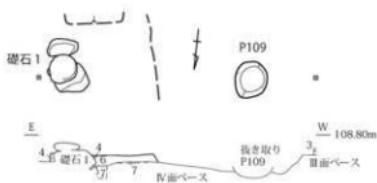
⑧B区Ⅲ面B8北礎石29・33・根石06



第22図 B区Ⅱ・Ⅲ面(B8)礎石29・33・根石06エレベーション図(S=1/40)

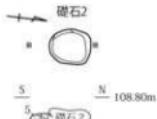


④B区II～IV面 B8南 磐石1・P109



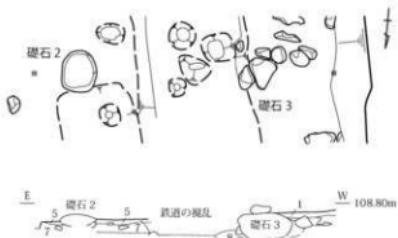
【B区 II～IV面 B8南 磐石1・P109】  
 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土砂混成物混土層  
 2 2.5Y4/5.2 前灰黄色  
 3 10YR5/6 黄褐色粘土  
 4 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘质土砂混成物  
 5 5層: III面ベース

④B区 II～IV面 B8南 磐石2



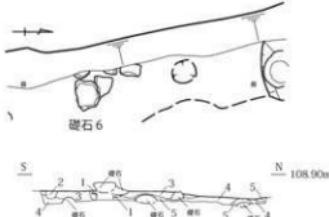
【B区 II～IV面 B8南 磐石2】  
 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土砂混成物混土層  
 2 2.5Y4/5.2 前灰黄色  
 3 10YR5/6 黄褐色粘土  
 4 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘质土砂混成物  
 5 5層: III面ベース

④B区 II～IV面 B8南 磐石2・3



【B区 II～IV面 B8南 磐石2・3】まとめて  
 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土砂混成物混土層  
 2 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土砂混成物  
 3 10YR6/6 黄褐色粘质土砂混成物少混  
 4 2.5Y4/6 前灰黄色粘质土砂混成物少混  
 5 10YR6/6 黄褐色粘质土砂混成物少混  
 6 2.5Y4/8 オリーブ褐色粘质土砂混成物  
 7 2.5Y4/8 オリーブ褐色粘质土砂混成物  
 8 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘质土砂混成物

④B区 II面 B8南 磐石6



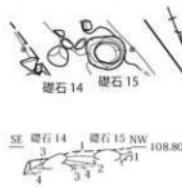
【B区 II面 B8南 磐石6】  
 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土砂混成物少混  
 2 10YR4/2.5 前灰黄色  
 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘质土砂混成物少混  
 4 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘质土砂混成物少混  
 5 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘质土砂混成物少混  
 6 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘质土砂混成物少混  
 7 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘质土砂混成物少混  
 8 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘质土砂混成物少混

④B区 II・III面 B8南 磐石11・12・13



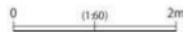
【B区 II・III面 B8南 磐石11・12・13】  
 1 10YR5/6 黄褐色粘土 (磐石14-15sec1層)  
 2 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘土 (磐石14-15sec2層)  
 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土 (磐石14-15sec3層)  
 4 1層: III面ベース 2層: 砂層包含層1の上層, 4層: III面包含層1

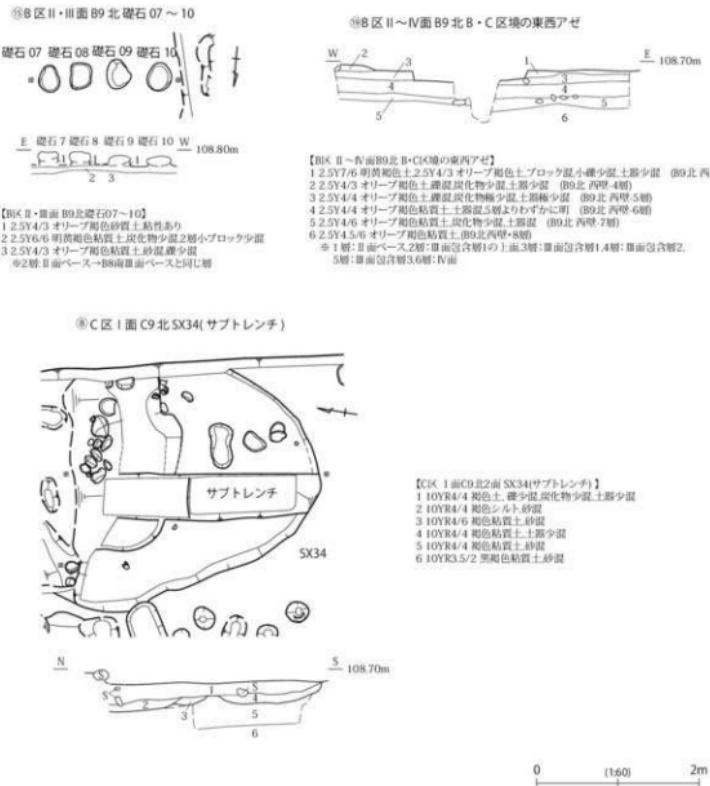
④B区 II・III面 B8南 磐石14・15



【B区 II・III面 B8南 磐石14・15】  
 1 10YR5/6 黄褐色粘土  
 2 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘质土砂混成物  
 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘质土砂混成物少混  
 4 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘质土砂混成物少混  
 5 1層: III面ベース 2層: 砂層包含層1の上層, 4層: III面包含層1

第25図 B区 II面 (B8) 平面図・土層断面図3 (S=1/60)





第26図 B区II面(B9)平面図・土層断面図4・C区I面(C9)平面図・土層断面図1(S=1/60)

**II・III面B8・9 磨石11～15(第7・20・25・28図、図版5・9)**

II面礎石11～13とIII面礎石14・15は両者とも約50cmの間隔で並べられており、近接した場所で建て替えられた小規模な堂舎に伴う礎石または、飛び石状の道状遺構になる可能性がある。

**II・III面B7・8 磨石29・33・35・板石04～06(第7・20・22・23・28図、図版5)**

B7・8区東側で礎石や礎石の根石を検出した。複数列並ぶようにみえるが、他の遺構との重複や調査区際にあることから礎石建物の復元はできず、礎石エレベーション図を示した。

**III・IV面B6 SK14(第7・8・27・29・30・38図、図版6・7)**

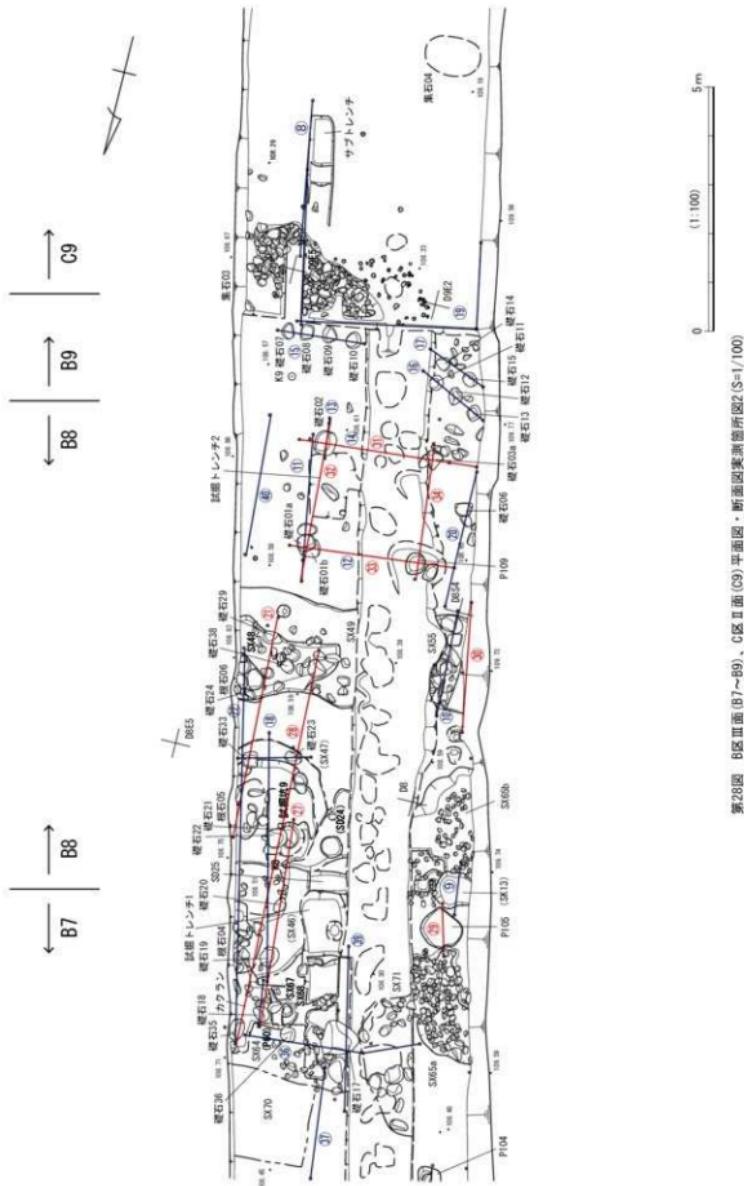
径30～50cm大の礎が出土した直径約18mで略円形の土坑であり、石列04・配石SX76を切る。

**III面B7・8 SX65a・b(第7・28図、図版8)**

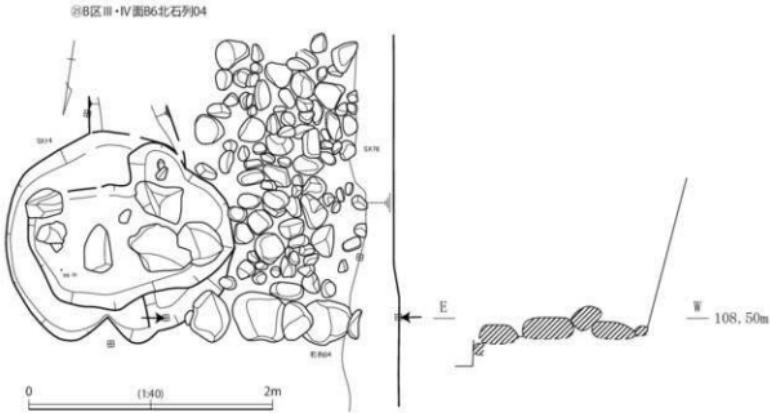
径6mの浅い窪みに小礎が敷き詰められた全形不明の遺構で、北側のSX65aが礎の密度が濃い。



第27図 B区III面(B5~B7)平面図・断面図実測箇所1(S=1/100)

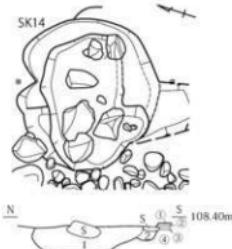


第28区 B区III面(B7~B9)、C区II面(C9)平面図・断面図実測箇所図2(S=1/100)



第29図 B区III面(B6)北石列エレベーション図(S=1/40)

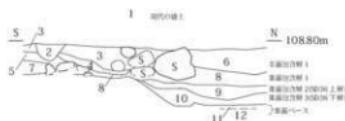
◎B区III面 B6 北 SK14



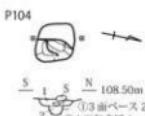
## 【B6C III面B6北 SK14】

1. 2.SY4/2 噴灰黄色粘土 2.SY7/2 灰黄色粘土ブロック少混 少混少泥
2. 2.SY4/5.2 噴灰黄色粘土  
  - ① 2.SY3/1 黒褐色粘土質土
  - ② 2.SY7/6 噴灰黄色粘土
  - ③ 2.SY5/2 噴灰黄色粘土/⑦層の遷移層
  - ④ 2.SY4/2 噴灰黄色粘土質土 粘性あり

## ◎B区I～III面 B6北西壁 (SD01・36・石列04～06)



## ◎B区III(2.5)面B7北 P104



## 【B6C III(2.5)面B7北面 P104】

1. 2.SY4/3 オリーブ褐色粘土 賽羽根
2. 2.SY4/2.5 噴灰黄色粘土/⑨層のブロック少混
3. ⑩.1 曲面ベース2.5面面合層

## 【B区I～III面 B6北 SD01・36・石列04～06 周辺 調査区西壁】

- 1 現代の底土、裸 2.SY3/1 黒褐色土、裸層
2. 2.SY5/4 黄褐色粘土、少泥多泥
3. 2.SY5/3 噴灰オリーブ褐色土、少泥多泥、炭化物混、土層混
4. 2.SY3/2 黒褐色土、少泥多泥、炭化物混、土層混
5. 2.SY4/2 噴灰黄色粘土質土、少泥少泥、炭化物少混、土層少混
6. 2.SY5/2 噴灰黄色粘土、炭化物極少混、土層少泥
7. 2.SY4/2 噴灰黄色粘土、裸多泥
8. 8.1 噴灰黄色粘土、上部に 2.SY8/3 噴灰黄色粘土ブロック層、炭化物少混、土層少混
9. 2.SY4/5.2 噴灰黄色粘土 (厚層よりやや暗)、炭化物少混、土層極少混、少泥少泥
10. 2.SY4/2 噴灰黄色粘土質土、砂混、裸泥、炭化物少混、土層混
11. 2.SY4/3 オリーブ褐色粘土質土、粘性あり
12. 2.SY4/6 オリーブ褐色砂質土

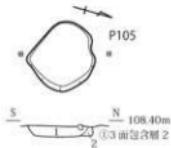
※2層：カララン、5層：Ⅱ面包含層 1.6層：Ⅱ面包含層 1.7層：Ⅲ面包含層 2.8層：Ⅲ面包含層  
 1.9層：Ⅲ面包含層 2/SD36 上層 1.0層：Ⅲ面包含層 3/SD36 下層)

11. 12層：無面ベース



第30図 B区III面(B6・B7)平面図・土層断面図(S=1/60)

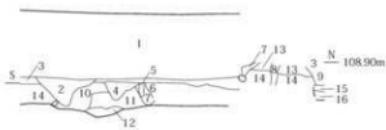
②B区III(II-2)面B7南P105



【B1<三(II-2)面B7南 P105】

- ① 2.5Y5/2 晴灰黄色粘質土・砂混・炭化物少  
② 2.5Y4.5/2 晴灰黄色粘質土・砂混・炭化物極少  
③ 2.5Y4.5/2 晴灰黄色粘質土(2層よりやや暗)・砂混  
④ ③上面包含種2

#### ⑧B 区 1～III面 B8 北 (SX55 配石の西側) 調査区西壁



#### 【B1K 1～画面B8北(SX55配石の西側調査区西壁)】

1. 一般地盤の土質  
2. 土被り  
3. 2.5Y5/4 黄褐色粘土質砂、小礫質、土質少混  
4. 2.5Y5/4.5 黄褐色粘土質砂、粗化成物少、土質多混  
5. 2.5Y5/4.5 オリーブ色粘土質砂、土質少混  
6. 2.5Y5/4.5 オリーブ色粘土質砂、2.5Y5/4 黄褐色粘土質小ブロック混、潤澤  
7. 2.5Y5/4.5 黄褐色粘土質砂、潤澤  
8. 2.5Y5/4.5 オリーブ色粘土質砂、活性あり、2.5Y5/4 黄褐色粘土質小ブロック混、潤澤  
9. 2.5Y5/4.5 黄褐色粘土質砂、小礫混、湿润少混  
10. 2.5Y5/4.5 オリーブ色粘土質砂、潤澤少混  
11. 2.5Y5/4.5 オリーブ色粘土質砂、潤澤少混  
12. 2.5Y5/4.5 黄褐色粘土質砂、潤澤少混  
13. 2.5Y5/4.5 黄褐色粘土質砂、潤澤少混  
14. 2.5Y5/4.5 オリーブ色粘土質砂化成物少、土質少混、潤澤  
15. 2.5Y5/4.5 黄褐色土(土中に混じる)16個の珊瑚礁の構成  
16. 2.5Y5/4.5 黄褐色粘土質砂、潤澤少混  
17. 2.5Y5/4.5 黄褐色粘土質砂、潤澤少混  
18. 2.5Y5/4.5 黄褐色粘土質砂、潤澤少混  
19. 10-11 黄褐色砂X55%、潤澤量面ベース

162316/4に示す調色鉛筆上之314/23暗灰鉛色鉛筆上小プロテクション  
色10-11-12附SK55-16號用紙ペー

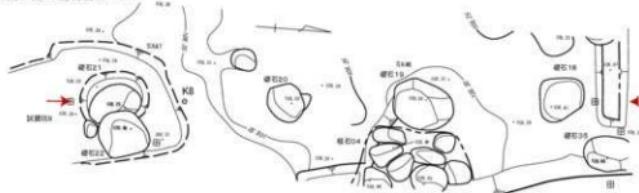
0 (1:60) 2m

第31図 B区断面(B7・B8)平面図・土層断面図2(S=1/60)

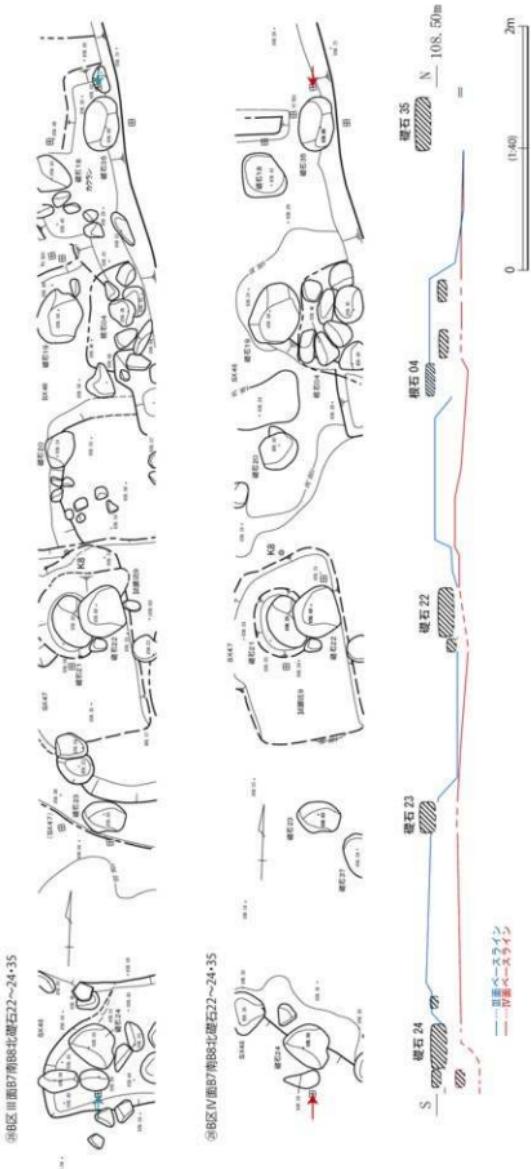
②B区Ⅲ面B7南B8北礫石18~21



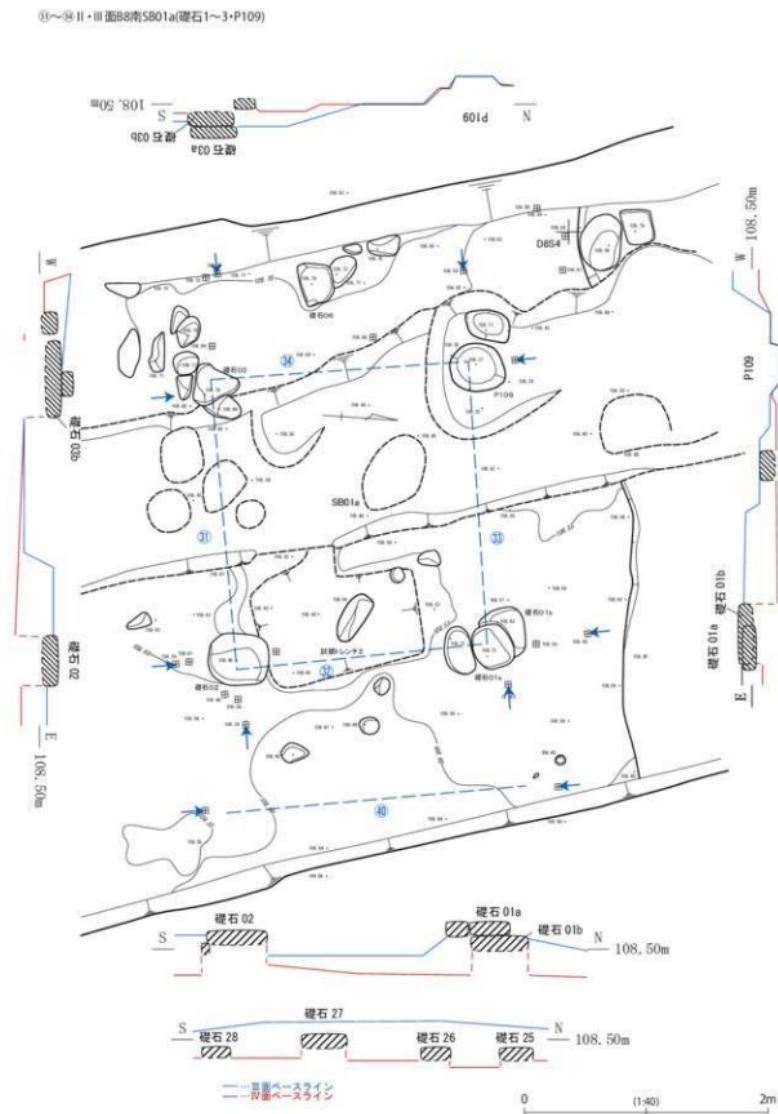
② B区IV面B7南B8北砾石18~21



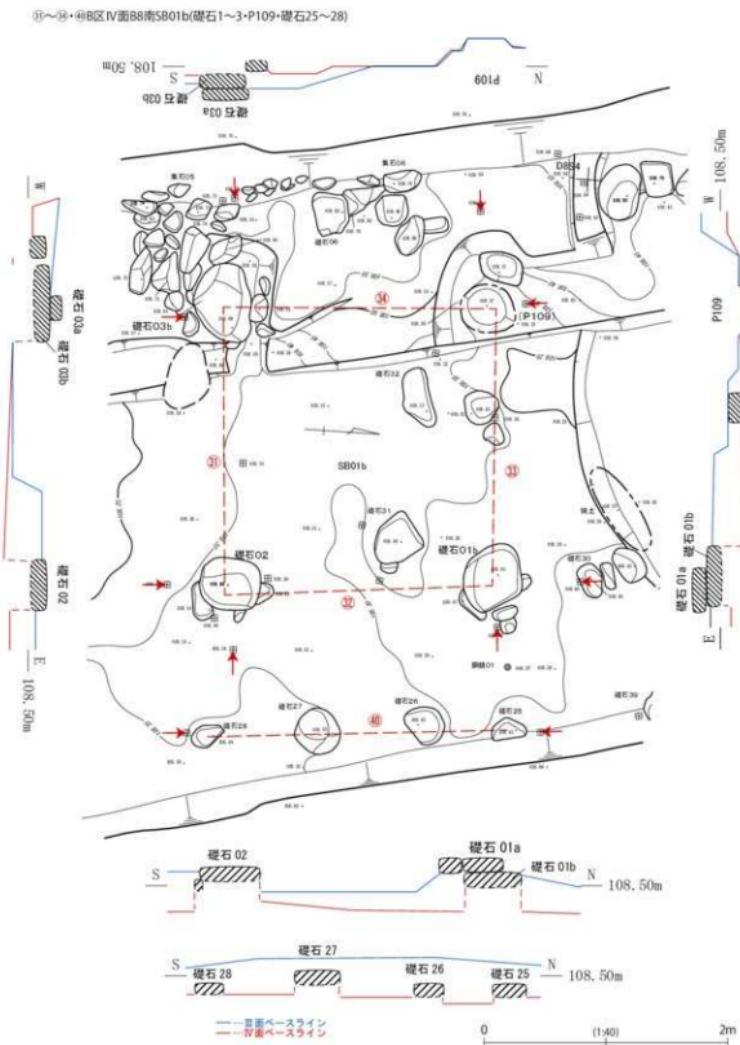
第32図 B区Ⅲ・Ⅳ面(B7・B8)礎石18~21エレベーション図(S=1/40)



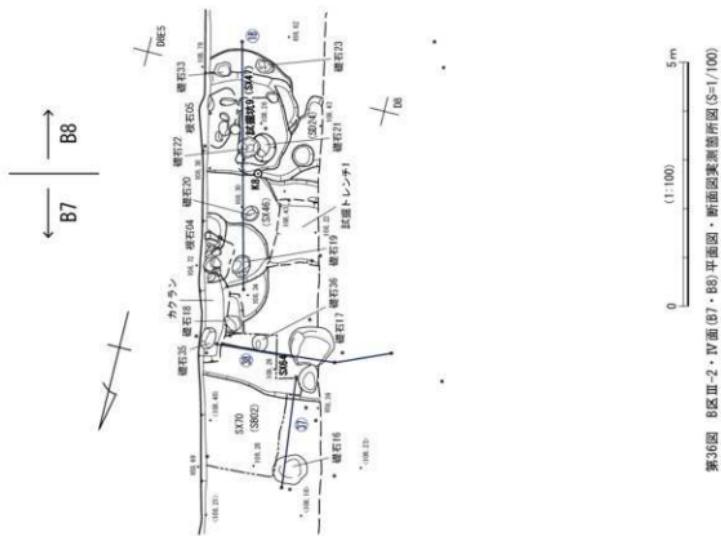
第33図 B区III・IV面(B7・B8) 磁石22~24・35エレベーション図(S=1/40)



第34図 B区 II・III面(B88 SB01a(磐石1~3・P109)エレベーション図 (S=1/40)



第35図 B区IV面(B8)SB01b(礫石1～3・P109・礫石25～28)エレベーション図(S=1/40)



36図 8区III-2・IV面(87・88)平面図・断面図実測縮図(S=1/100)

三面 B6 SX76(SX56) (第7・27図、図版6・7)

浅い窪みSX56内で検出した配石遺構で、東辺約4.5mは礫が直線状で、北側は石列04と接する。

III・N面 B7・8 磺石18~24・35(第7・8・28・32・33・37図、図版7~9)

II・III面と同様にB7・8区で複数の礎石列を検出し、エレベーション図を作成した。

N面 B7 SB02(SX70) (礫石16・17・35) (第8・37・39・42図、図版9・10)

SB02は径約80cmの礎石16と径約100cmの礎石17を伴う大型礎石建物で、礎石の上面が赤く焼けており、火災により柱が焼けた痕跡とみている。柱間の距離は南北方向2.2~2.5mであるが、東西方向は調査区外に延び不明である。SX70とした建物内部には炭化物やカワラケ小片が多量に混入する固く踏みしまった粘質土の整地土で覆われており、土間状の施設または門の可能性も考えている。

IV面 B7 SX71(第8・37・39・42図、図版9・10)

石畳状に上面が平らな石が敷かれた遺構で、北側は擾乱により残っていなかったがSB02の西側全面に敷き詰められていたとみられる。火災後に焼土や炭化物交じりの整地土で埋められていた。

N面 B6・7 SX72(第8・37・38・41図、図版9)

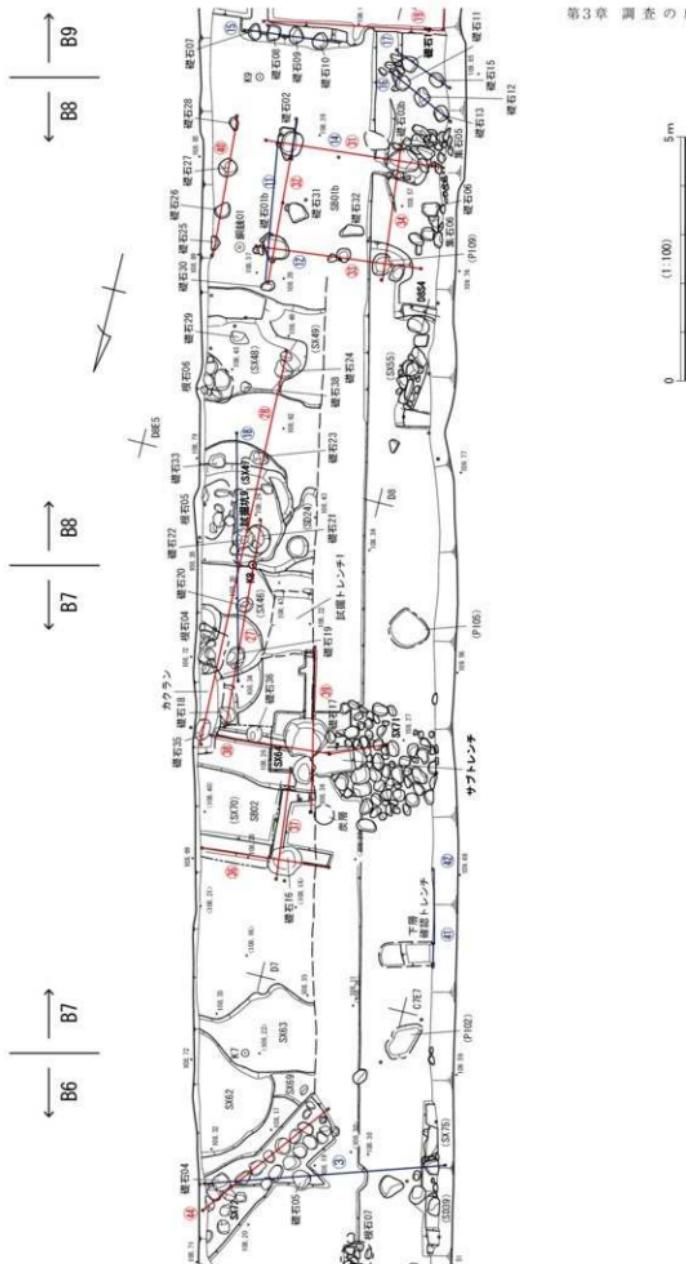
径20~30cm太の上皿が平らな石を2列に並べた遺構で、敷石列の道状遺構とみている。

### V面 B8 SK19(第8・39図、図版9・10)

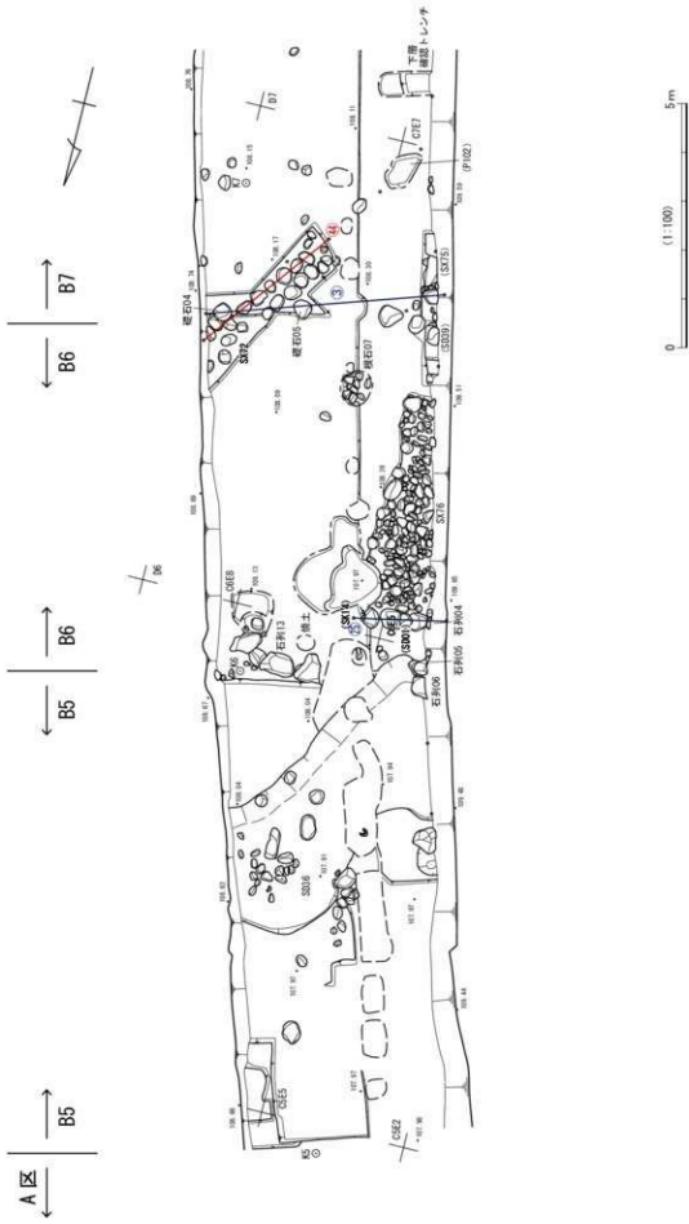
全形は不明であるが深さ約10~15cmを測る堅穴状の土坑で、東西・南北方向とも約25m分を検出した。東側の壁面の一部が被熱により赤褐色化しており、カワラケの皿や壺587~594が出土した。

### 3 C区(第60~68図、図版1:2:11~14)

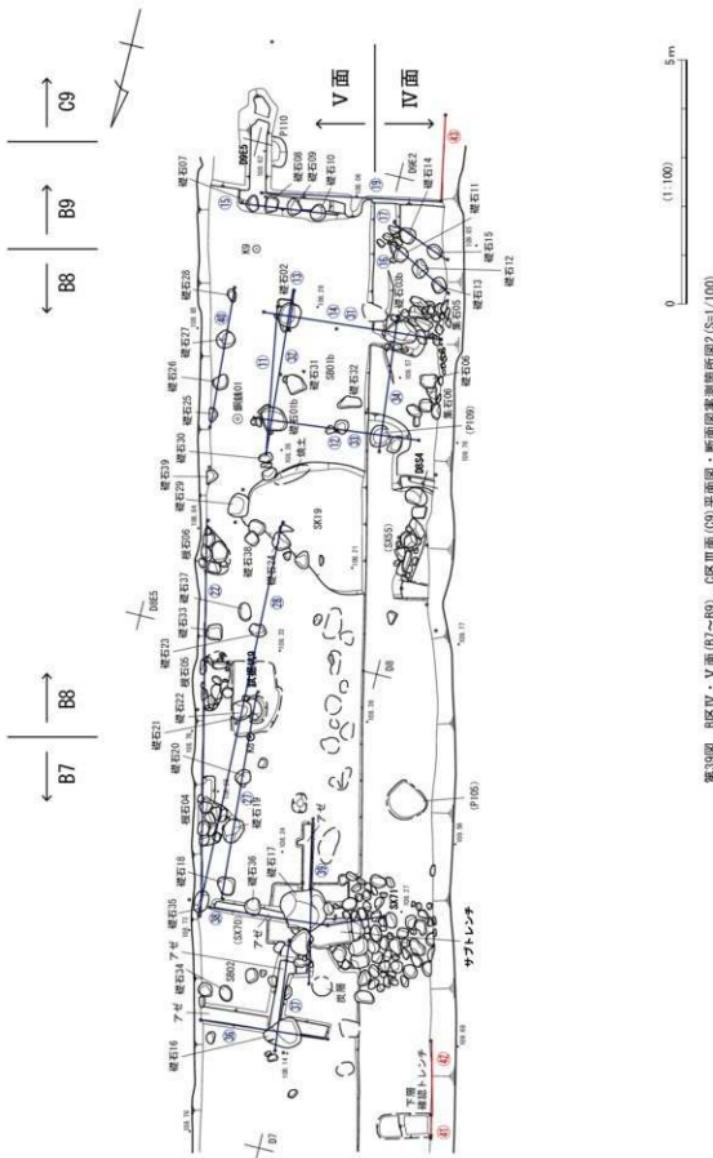
C区は延長約24mで、C9～C11区のグリッドを設定した。平安時代後期～室町時代後半の遺構面4面を確認し、0面はC10・11区の西側部分のみ遺存していた。土壙SK04上層から中世のカワラケがま

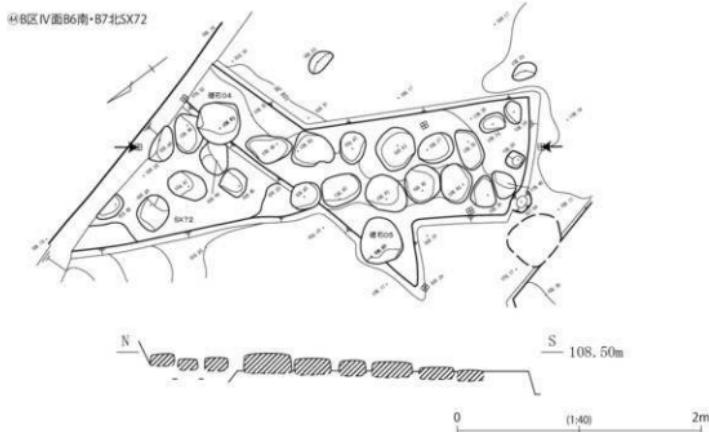


第37図 B区IV面(66~69)平面図・断面図実測箇所図(S=1/100)



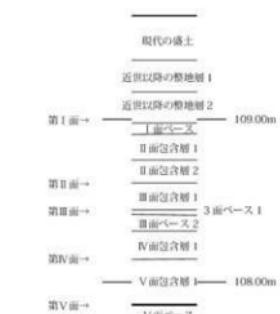
第38図 B区IV・V面(B5~B7)平面図・断面図実測図! (S=1/100)



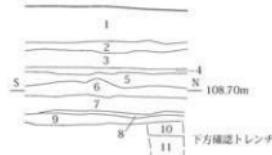


第40図 B区IV面(B6・B7)SX72エレベーション図(S=1/40)

④B区 I～V面 B7北D-7杭付近西壁基本層序



④B区 I～V面 B7北西壁



## 【B区 I～V面 B7北西壁】

- 1.2.5Y2/1 黒小石散在の活土
  - 2.2.5Y6/2 黄色粘土質土(近世以降の整地剝1)
  - 3.2.5Y5/2 黄色粘土質土小石混(近世以降の整地剝2)
  - 4.2.5Y7/1 黄色粘土質土、下部は3層兼続的に混
  - 5.2.5Y4/4 オリーブ色粘土質土砂混灰化物極少混土器少混
  - 6.2.5Y5/3 黄色粘土質土
  - 7.2.5Y5/3 黄色粘土質土灰化物少混
  - 8.2.5Y5/2 黄色粘土質土灰化物少混
  - 9.2.5Y5/3 黄色粘土質土灰化物少混
  - 10.2.5Y4/2 黄色粘土質土灰化物少混
  - 11.2.5Y1.5/2 黄色粘土質土粘性弱
  - 12.2.5Y5/2.5 黄色粘土質土粘性弱
- \* 半4層 I面ベース3層 II面包含層1層 II面包含層2.7層 V面包含層1.8層 - V面ベース  
- 3.1.0層 V面ベース - 2.2.0層 II面包含層1.1層 V面包含層1.12層 V面ベース

0 (1:40) 2m

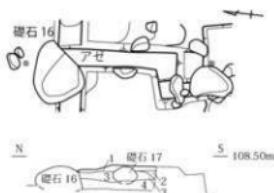
【B区 I～V面 B7北D-7杭付近西壁基本層序】

- 1.2.5Y2/1 黑小石散在の活土
  - 2.2.5Y6/2 黄色粘土質土(近世以降の整地剝1)
  - 3.2.5Y5/2 黄色粘土質土小石混(近世以降の整地剝2)
  - 4.2.5Y7/4 浅黄色粘土質土上部は3層兼続的に混
  - 5.2.5Y4/3 オリーブ色粘土質土砂混灰化物極少混土器少混
  - 6.2.5Y5/2.5 黄色粘土質土小石混少混土器混
  - 7.2.5Y5/3 黄色粘土質土
  - 8.2.5Y5/2 黄色粘土質土灰化物少混
  - 9.2.5Y5/3 黄色粘土質土灰化物少混
  - 10.2.5Y4/2 黄色粘土質土灰化物少混
  - 11.2.5Y1.5/2 黄色粘土質土粘性弱
  - 12.2.5Y5/2.5 黄色粘土質土粘性弱
- \* 半4層 I面ベース3層 II面包含層1層 II面包含層2.7層 V面包含層1.8層 - V面ベース  
- 3.1.0層 V面ベース - 2.2.0層 II面包含層1.1層 V面包含層1.12層 V面ベース

0 (1:30) 1m

第41図 B区 V面 (B7) 平面図・土層断面図1 (S=1/30・1/60)

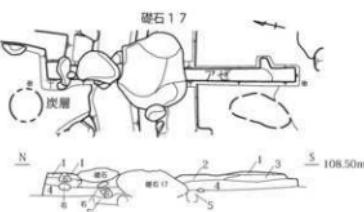
◎B区III・IV面B7北 磁石16・17A



【B区 III・IV面B7北 磁石16・17A】

1.2.5Y5/3 黄褐色粘土質化物泥土層多混  
2.2.5Y5/2.5 黃褐色粘土質化物泥土層多混  
3.2.5Y5/2.5 黃褐色粘土・2.5Y6/4にぶ・黃色粘土  
プロック下位に見炭化物多混・土層極少混  
4.2.5Y4/1.5 黄色灰粘土・2.5Y6/4にぶ・黃色粘土  
プロック少混・炭化物泥土器多混  
※1層 Ⅲ面包含層1.2層 IV面包含層2.3層 Ⅳ面  
※2～3層 IV面包含層1

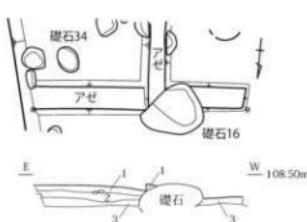
◎B区III・IV面B7南 磁石16・17B



【B区 III・IV面B7南 磁石16・17B】

1.2.5Y5/3 黄褐色粘土質化物泥土層多混 (磁石16・17Asec-1層)  
2.2.5Y4/5.2 黃褐色粘土・炭化物泥土層多混 (磁石16・17Dsec-6層)  
3.2.5Y4/5.2 黃褐色粘土・2.5Y6/4にぶ・黃色粘土プロック位に炭化物泥土器 多混 (磁石16・17sec-3層)  
4.2.5Y4/1.5 黄色灰粘土・2.5Y6/4にぶ・黃色粘土プロック少混・炭化物泥土器 多混 (磁石16・17sec-3層)  
5.2.5Y4/1.5 黄色灰粘土・2.5Y6/4にぶ・黃色粘土プロック少混・炭化物泥土器 多混 (磁石16・17sec-3層)  
※1層 Ⅲ面包含層1.2層 Ⅲ面包含層2.3層 Ⅳ面ベース 4層 Ⅳ面 包含層1  
※2～3層 Ⅳ面包含層1

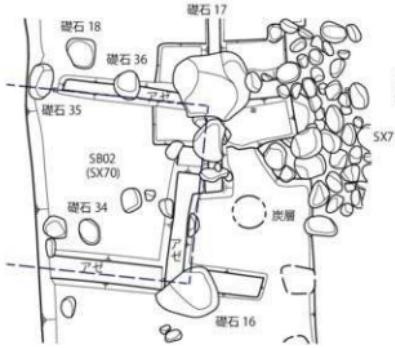
◎B区IV面B7北 磁石16C



【B区IV面B7北 磁石16C】

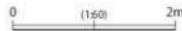
1.2.5Y5/3 黄褐色粘土質化物泥土層多混 (磁石16・17Asec-1層)  
2.2.5Y5/2.5 黄褐色粘土・2.5Y6/4にぶ・黃色粘土プロック位に炭化物泥土器少混 (磁石16・17Asec-3層)  
3.2.5Y4/1.5 黄色灰粘土・2.5Y6/4にぶ・黃色粘土プロック少混炭化物泥土器多混 (磁石16・17Asec-4層)

◎B区IV・V面B7南 磁石16・17D 5B02(SX70)



【B区IV・V面B7南 磁石36・17D 5B02(SX70)】

1.2.5Y5/3 黄褐色粘土質化物泥土層多混 (磁石16・17Asec-1層)  
2.2.5Y4/1.5 黄色灰粘土・2.5Y6/4にぶ・黃色粘土プロック少混・炭化物泥土器多混 (磁石16・17Asec-4層)  
3.2.5Y4/2 黃褐色粘土炭化物泥土少混・土層少混・難少混  
4.2.5Y4/2 黃褐色粘土・2.5Y6/4にぶ・黃色粘土プロック3層よりや少層  
5.2.5Y5/2.5 黄褐色粘土・2.5Y6/4にぶ・黃色粘土プロック位に混・炭化物多混・土層極少混 (磁石16・17Asec-3層)  
6.2.5Y4/5.2 黃褐色粘土・2.5Y6/4にぶ・黃色粘土プロック少混 (磁石16・17Asec-2層)  
※1層 Ⅳ面包含層1.2層 Ⅳ面包含層2.3層 Ⅳ面包含層2.4層 Ⅴ面包含層1.5層 Ⅴ面ベース 6層 Ⅴ面包含層2



第42図 B区IV面(B7)平面図・土層断面図2(S=1/60)

◎B区II～IV面 B9北(C区I～II面C9北)西壁



第43図 B区IV面(B9)平面図・土層断面図3(S=1/60)

とまつて出土した。検出面から火災に伴う被熱により、表面の釉薬が溶けた青磁花瓶片が出土し、被熱した大型の礫を多く検出した土坑SK05も検出した。1面にはC9・10区に集石状遺構SX20、C10・11区東側には土石流または洪水により堆積したとみられる径約1mの大型自然礫を含む河原石の堆積層や礫敷状の集石群を検出した。I・II面には礫群を掘り込む石列01・SX23・SX43、II面には炭層を検出したC9区P32、落ち込み状の浅い窪みC10区SX37から柱状高台を持つカワラケの底部や須恵器双耳瓶などが出土した。II面下包含層掘削後のIII面は、集石遺構以外の遺構密度は希薄である。

#### 0面 C10 SK04(第9・44・14図、図版11)

南北方向約1.6m、深さ約35cmを測る土坑である。上面から中世のカワラケ1555～1591がまとまって出土し、儀礼後の片付け行為とみている。他に被熱痕跡がある龍泉窯系の青磁花瓶が出土した。

#### 0面 C11 SK05(第9・44・14図、図版11)

南北方向約2.6m、深さ約20cmを測る土坑であり、被熱痕跡のある大型の礫を多く検出した。

#### I面 C9・10 SX20・24・25(第9・44図、図版12)

南北方向約6mの範囲に広がる礫敷遺構で、中央のSX20d・eでは集石が3か所でみられた。

#### I・II面 C10・11 SX43(第9・45・14図、図版12・13)

径約50～80cm大の河原石を周りに並べ、自然礫層を掘り込んだ溝または土坑である。

#### I・II面 C11 石列01(第9・44・45図、図版12)

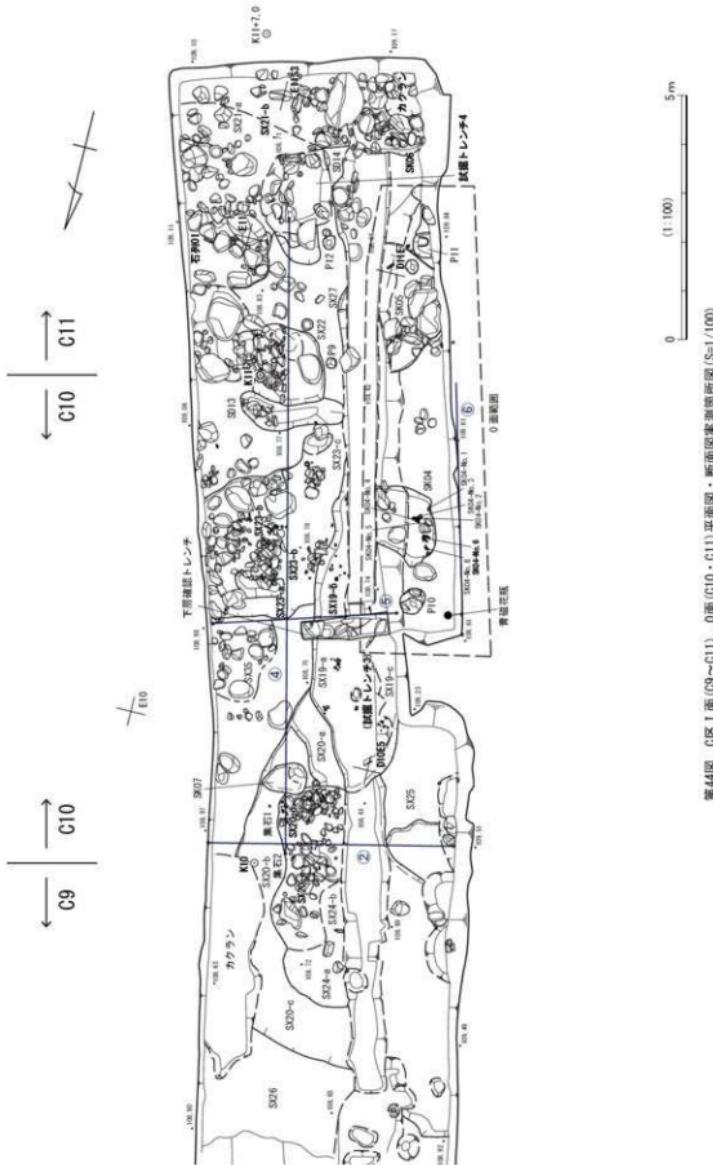
自然礫層を掘り込む幅約50cmの溝の中に、約30～40cm大の河原石が東西方向約4mに渡り並べられた石列で、北側に平らな面を意識して置かれていた傾向が強い。

#### II面 C9・10 SX37(第9・45・48図、図版13・14)

南北方向約10.5m、深さ15～20cmで検出した落ち込み(堅穴)状の遺構で、古代末～中世初頭の柱状高台を多く含むカワラケや底部に糸切り痕が残る土師器壇・皿、須恵器双耳瓶などが出土した。

#### II面 C9 P32(第9・45・47図、図版13)

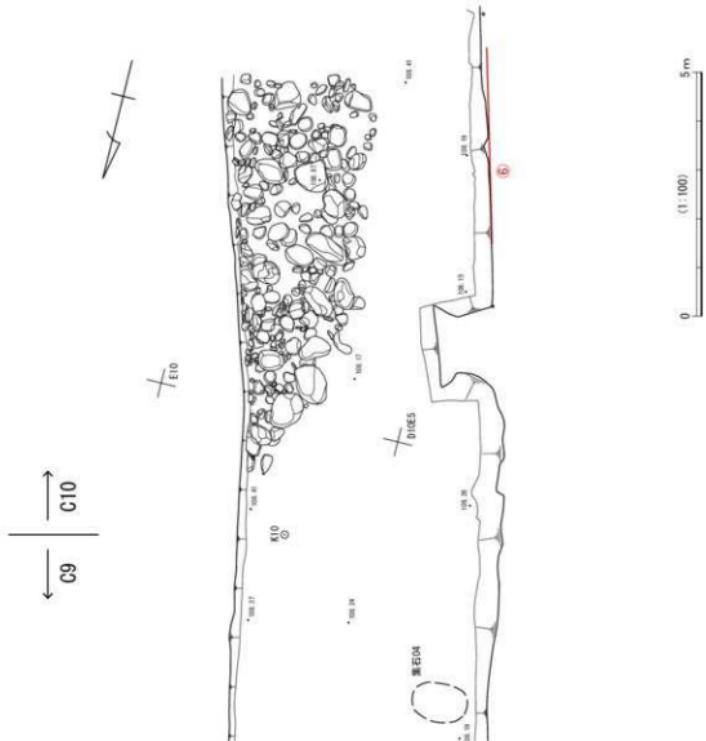
中央部に炭化物と焼土層を検出した直径60×75cmの深いピットで、カワラケ片が出土した。



第44図 C区1面(C9~C11)、0面(C10・C11)平面图・断面実测箇所図(S=1/100)

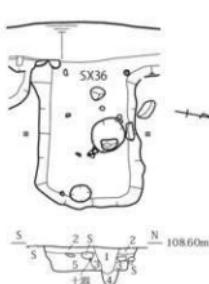


第45図 C区II面(C9~C11)平面図・断面図実測箇所図(S=1/100)

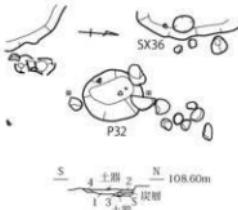


第46図 C区III面(C9・C10)平面図・断面図実測所図(S=1/100)

①C区 II面 C9南 SX36 アゼ



②C区 II面 C9 南 P32



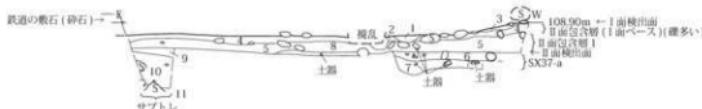
【C9 II面 SX36アゼ】

- 1 2.5Y4/2.5 オリーブ褐色土 小窪や多湿炭化物少
- 2 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 小窪↑位多湿土層少
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土 膨脹炭化物少泥土都少
- 4 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土
- 5 2.5Y4/5/4 オリーブ褐色土 疊少泥炭化物少泥土层

【C9 II面 C9南 P32】

- 1 10YR4/4 褐色粘質土 小窪少泥炭化物多泥土層(燒土も混る)少
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 炭化物や多泥土層
- 3 10YR4/4 褐色粘質土 炭化物少泥
- 4 10YR4/4 褐色土

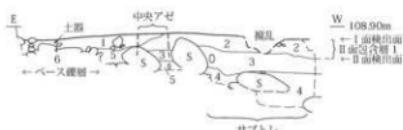
③C区 I・II面 C10北 東西アゼ1



【C10 北東西アゼ1】

- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 小窪少
- 2 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 少
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 小窪多(1層・中央アゼ21層と同?)?
- 4 2.5Y4/4 オリーブ褐色土 硫酸塩土層少(中央アゼ-34層)
- 5 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 炭化物混 土器混(中央アゼ-35層)
- 6 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土 炭化物少泥 土器少(II面SX37-a)
- 7 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土 土器多(II面SX37-a)
- 8 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土
- 9 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土 疊
- 10 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘質土 粘性やや強 疊少
- 11 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘質土 粘性やや強 疊少

④C区 I・II面 C10北 東西アゼ2

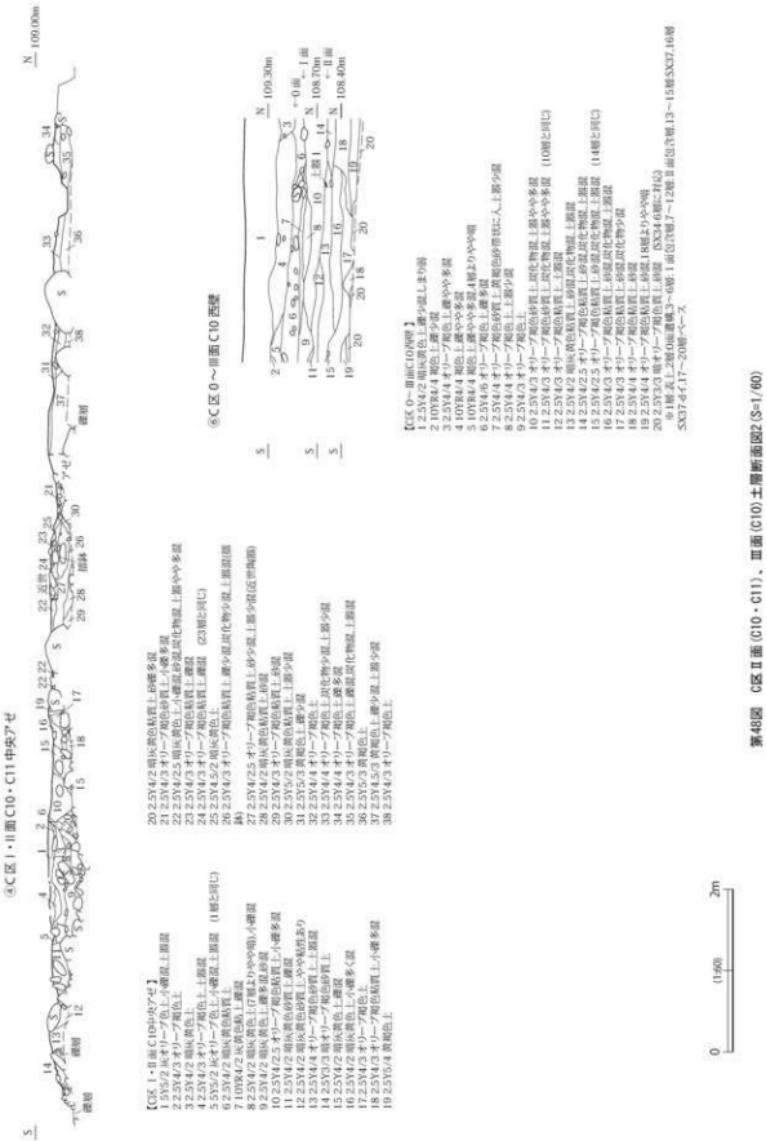


【C10 北東西アゼ2】

- 1 2.5Y3/2 暗オリーブ褐色粘質土 疊少
- 2 2.5Y4/5 暗褐色土 小窪混 土器混 中央アゼ-37層
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土 炭化物少
- 4 2.5Y4/2 暗褐色粘質土(無透水層)少泥ベース(東西アゼ 10層に対応)
- 5 2.5Y5/2 暗褐色粘質土 疊少
- 6 窓跡(ベース)

0 (1:60) 2m

第47図 C区 II面 (C9・C10) 平面図・土層断面図1 (\$=1/60)



第48図 C区II面(C10+C11)、III面(C10)土層断面図2(S=1/60)

### 第3節 遺物(第49~68図、第2~21表、図版21・22・32)

出土遺物は、調査区ごとに土器、石器・石製品、木製品・金属製品・銅錢に分けて図示した。調査地は後世の攪乱が著しく、同じ遺構面でも部分的な敷地の整地や建て替えなどで遺物の時期がずれているものもあり、遺物実測図・遺物観察表とも基本的にはA3北区やB8南区など5mグリッドごとに、上から下の面(層)へと遺構や包含層ごとに遺物を並べ提示した。また、遺物実測図・遺物写真記載の各面の表記はアラビア数字を使用しており、ローマ数字を用いた遺構図・遺構写真と対応する。

今回の調査では、平安時代後半～鎌倉時代前半頃の素焼きの土師器皿であるカワラケの出土量が大多数を占めている。その中で、塊・皿類の底部形態は、①無台なもの、②柱状高台という中実で厚くなつたもの、③有台皿など輪状の高台持つものの3種類に大きく分けられる。さらに②柱状高台と③輪状高台それぞれ、底部の厚さが薄いもの～極めて厚くなるものまであり、後者の中で中実の高台(第56図772)と輪状の高脚台を持つもの(第56図592)は、横からの見た目は高坏の脚状を呈する。

また、かわらけの成形方法には、回転台を用いて製作し、外面がロクロナデで底部に糸切り痕を残す「ロクロ成形(A)」と、いわゆる京都系土師器皿に代表される手づくねでつくられた「非ロクロ成形(B)」の2種類があり、遺物観察表では、土師器皿(カワラケ)の中で(A)は調整欄の外外面にロクロナデの表記が、(B)は一番右の備考欄に非ロクロ(調整欄にはナデ・ヨコナデの表記が多い)と表記している。法量欄で「底厚」とした数値は中実の柱状高台を含む土器の底部の厚さを示し、「底高」としたものは、有台塊の台部や輪状高脚台を持つ土器の底部の高さを示している。

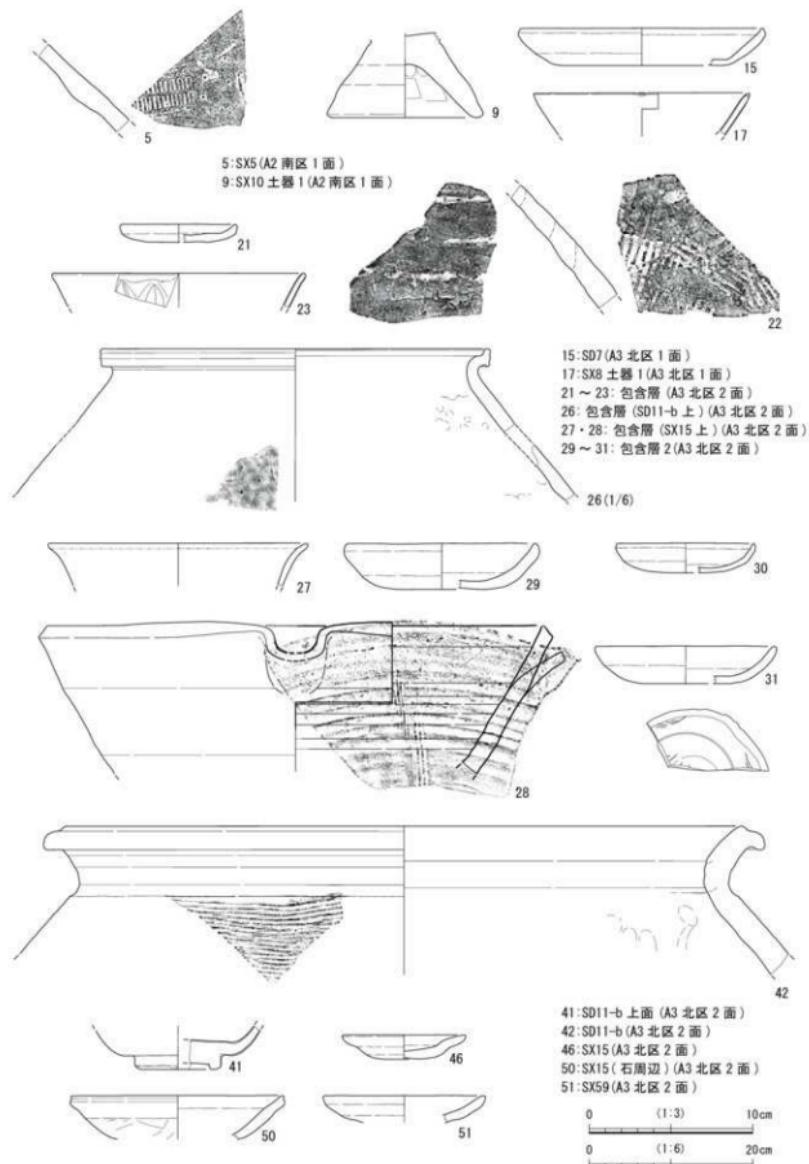
今回、未実測だが法量を計測・記録した土器にも遺物番号を振ったため、報告番号は連続していない。未実測土器の計測値も含めた検討は別稿に譲るが、掲載したカワラケは、形態の違いだけでなく、色調や胎土の違いなどの要素からも分類できる。今後、調査区・出土層位(面)・形・法量などを総合的に検討することで、古代～中世のカワラケの変遷を明らかにしていきたいと考えている。

#### 1. A区(第49~52図、第2~4・18表、図版15~19)

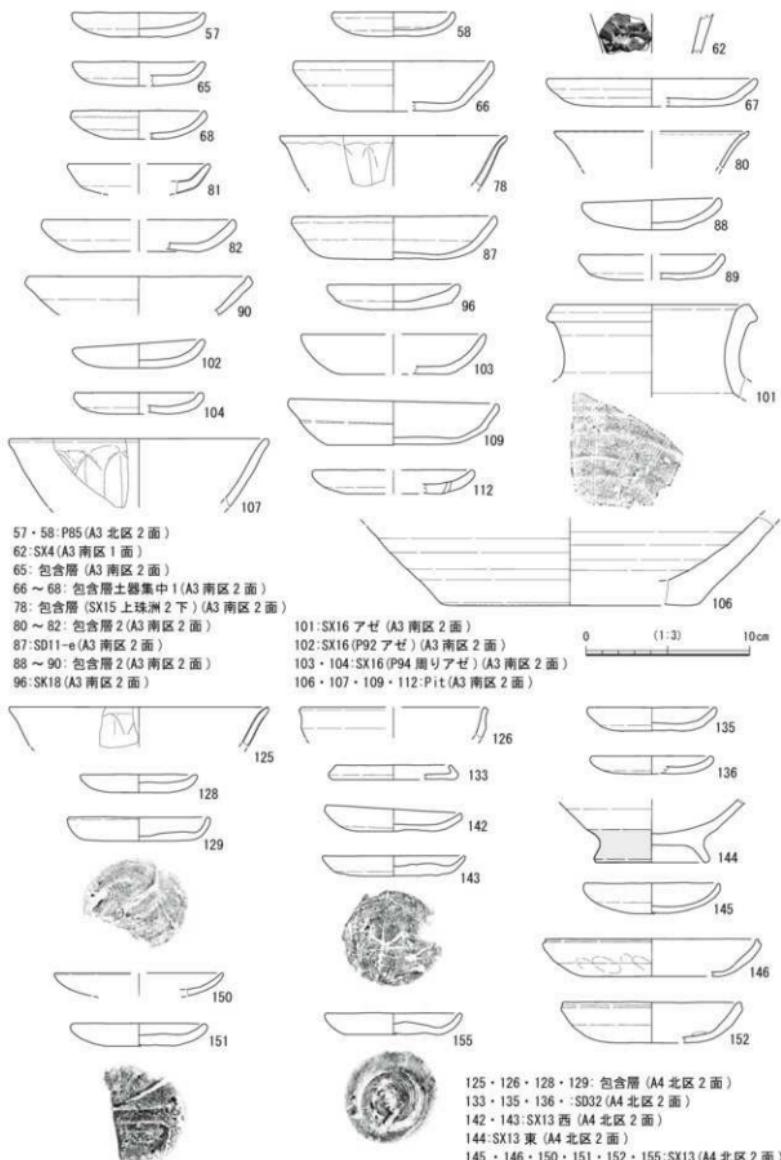
2面の遺構面を確認し、1・2面間の包含層からは、中世のカワラケ片が多く出土した。A4北区2面の土坑SX13からは、鎌倉時代前半とみられる細かく割れたカワラケ142～187がまとまって出土した。口径は7～15cm代のもので幅があるが、169の口径6.4cmでいわゆる「コースター形」を呈する底部から口縁がすぐ折り返された浅いカワラケも含まれる。107はP91上面から出土した龍泉窯系鎮蓮弁文の青磁碗である。P93上面からは完形に近い土師器皿194・195が割れた状態で出土し、他に193の加賀焼Ⅱ期のすり鉢も出土した。A4南～B5北区にかけては部分的にⅡ面下に中世の遺物包含層を確認した。A区からはカワラケや白磁・青磁の他にも珠洲・加賀・越前・瀬戸・常滑などの壺器系陶器の出土が目立つ。石3は凝灰岩製の石鉢口縁、石4は鳴滝産の仕上げ砥石である。

#### 2. B区(第53~59図、第4~9・18表、図版19~27)

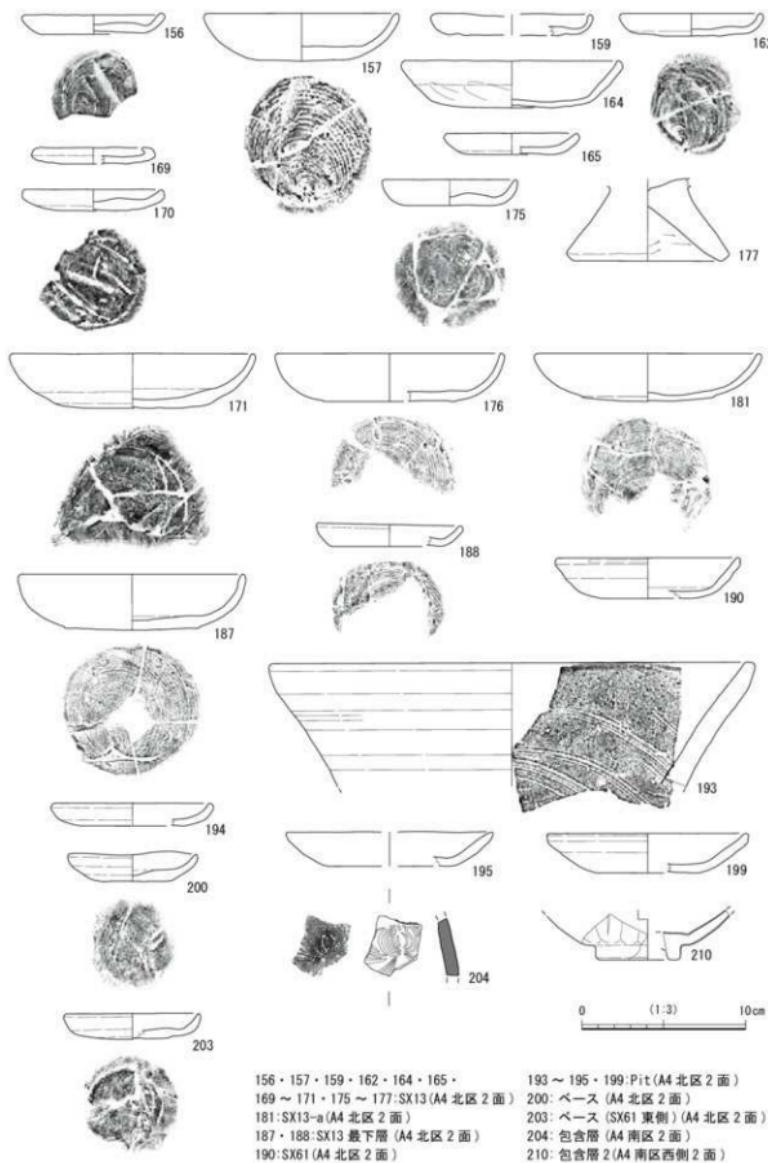
平安時代末頃～室町時代後半までの遺構面を5面確認し、各面の間には火災後の整地層に伴い炭化物や焼土とともに細かく割れたカワラケ片が多量に出土しており、遺物包含層として取り上げた。238～241・245は1面B5南区 SD02aから出土した非ロクロのカワラケで、口径7～9cm代を測る。他に246の青磁龍泉窯系割花文碗が出土した。SD02bからは251の珠洲焼Ⅰ期の壺と252の加賀焼壺が出土した。下部に位置する2面B5南 SD27からは280～282の非ロクロのカワラケが出土し、口径6～9cm代を測る。さらに下部の3面SD36からは285・290の非ロクロのカワラケや286の菊花文の押印を持つ加賀



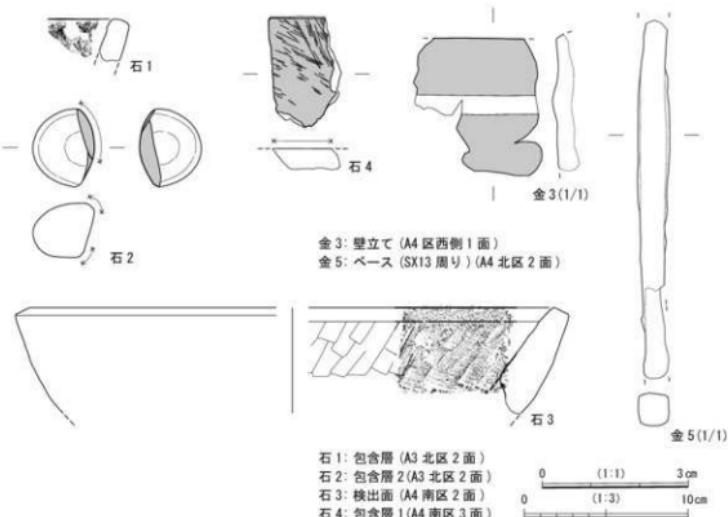
第49図 A区出土土器実測図 I (S=1/3・1/6)



第50図 A区出土土器実測図2 (S=1/3)

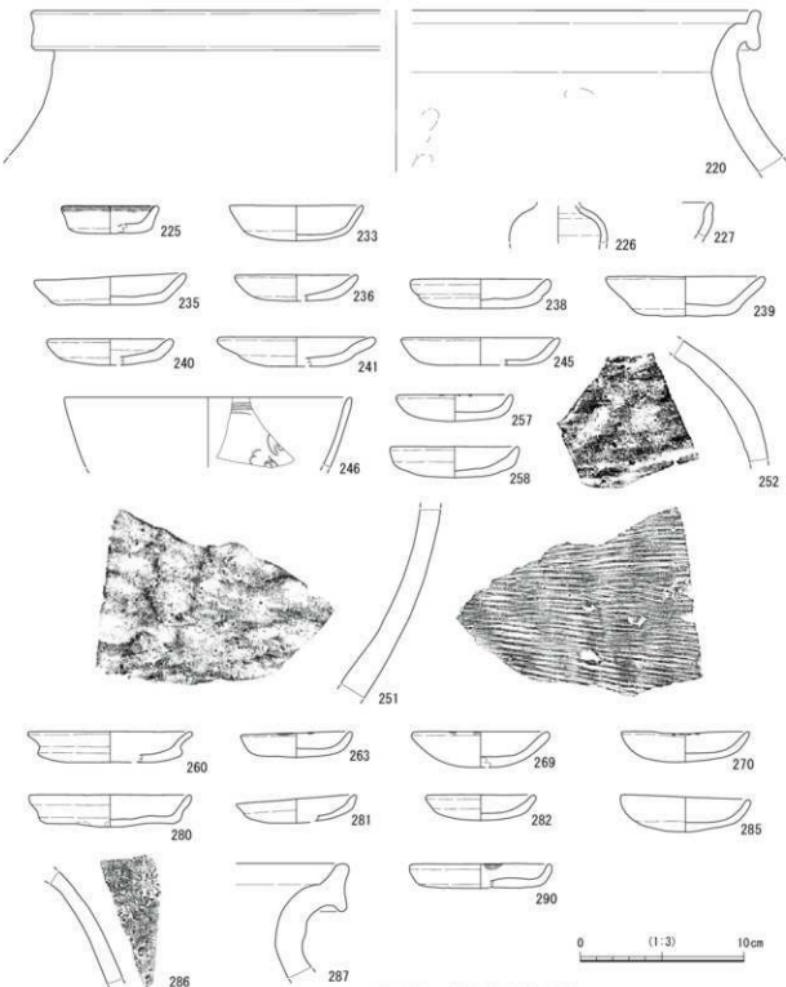


第51図 A区出土土器実測図3 (\$=1/3)



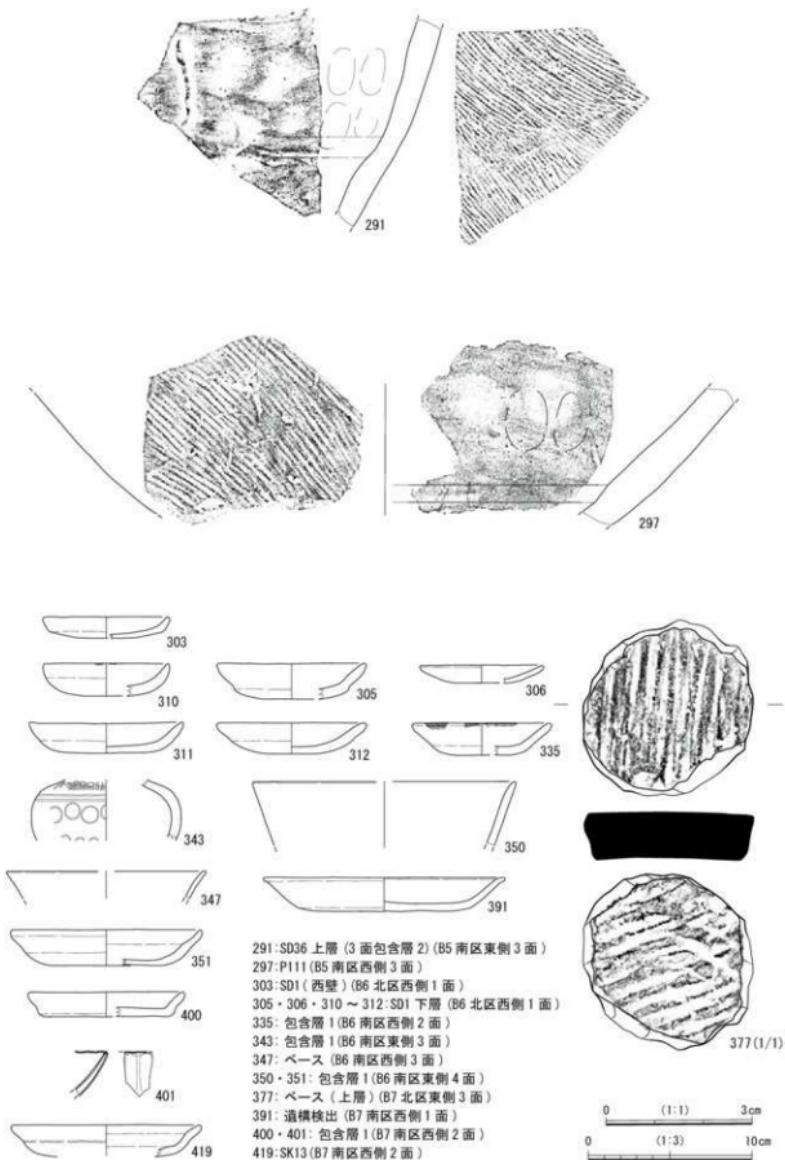
第52図 A区出土石器・石製品・金属製品実測図 (S=1/1・1/3)

焼甕、287の越前焼甕、291の珠洲焼甕が出土した。303～312は、B6北1面SD01出土の非ロクロのカワラケで、口径7～9cm代を測る。310は口縁に燈芯油痕が残る灯明皿、343はB6南3面包含層1出土の古瀬戸中期の合子である。401はB7南区2面包含層1出土の白磁口鑄の菊皿で室町時代後半とみている。420・421はB7南区2面SX46出土のカワラケで、421は口縁に燈芯の油痕が残る灯明皿である。B7南区3面SX64出土の439は龍泉窯系鍋進弁文を持つ青磁鉢または碗で、440は非ロクロのカワラケである。B7南区3面SX67出土の451は輪状の高脚台を持つ有台皿で、452は底部に回転糸切り痕を残す口径12cm、器高3.3cmの土師器皿で、4面SX64出土の破片と接合する。B8北区1面SX28(土器溜まり)から496～498の口径8～11cm代の非ロクロカワラケとともに499の円盤状土製品や500の有台皿の輪状高脚台が出土した。506・509はB8北区1面SX29の道状遺構出土の非ロクロカワラケである。B8北5面SK19の竪穴状遺構からは594の非ロクロ成形のカワラケ以外はロクロ成形が主であり、587・589は(無台)塊、588・591是有台塊、590・593は(無台)皿、592は輪状高台を持つ有台皿の脚台部である。元々中実につくられた底部糸切りの柱状高台の内面を工具で削り取り輪状に成形したとみられ、粘土の節約や乾燥の進展などの効果があるとを考えている。外見からは中実タイプの柱状高台との区別はできない。B8南区1面の礎敷遺構SX17から口径6～9cm代を測る606～621の非ロクロカワラケが出土した。607は焼成時に還元状態で須恵器のように硬質化している。622～669はB8南区1面SX18(土器溜まり)出土の非ロクロカワラケで、口径5～11cm代を測る。B8南区2面包含層1・2と3面ベースからは口径5～11cm代を測る685～762の非ロクロカワラケが出土した。礎石建物SB01や礎石列07～10周辺のB8南区4面包含層1・2からは、口径7～13cm代を測る773～778の非ロクロのカワラケとともにロクロ成形の無台塊779・807や中実タイプの柱状高台で底部が糸切りされ底厚な772・806、須恵器広口瓶780などが出土した。

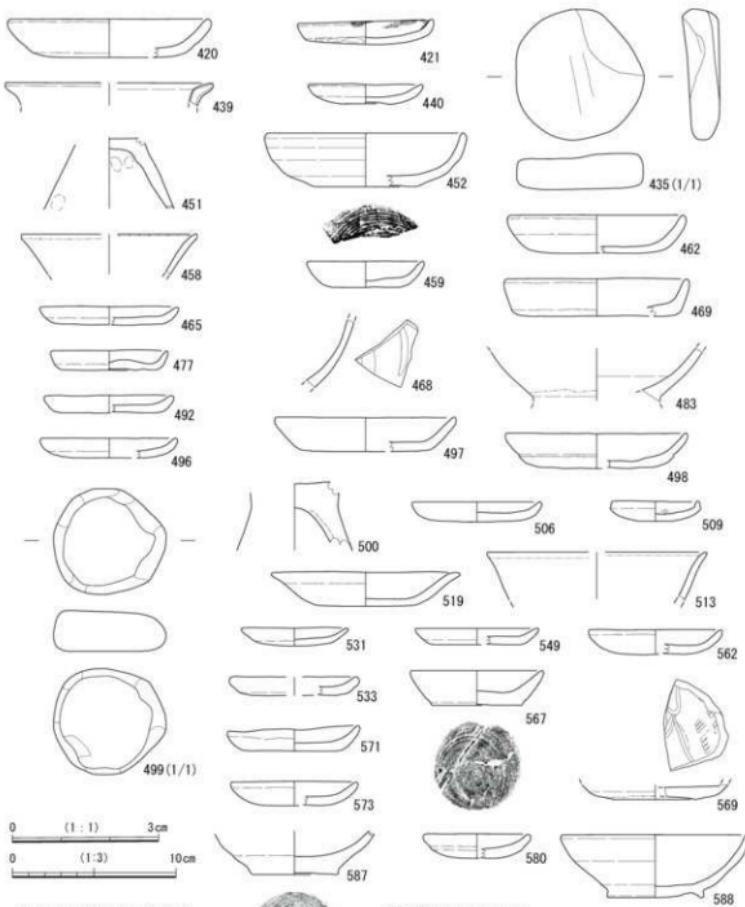


- 220: SD2-a 底 (B5 北区 1面)  
 225: 包含層 1 (B5 北区西側 2面)  
 233: 包含層 1 (B5 北区中央 3面)  
 226・227: 包含層 1 (B5 北区東側 2面)  
 235: SD1-a (B5 南区 1面)  
 236: SD1-a 西 (B5 南区西側 1面)  
 238～241: SD2-a (B5 南区 1面)  
 245: SD2-a 下層 (B5 南区東側 1面)  
 246: SD2-a 底 (B5 南区西側 1面)  
 251・252: SD2-a 底 (集石) (南側石列下含む) (B5 南区東側 1面)  
 257: 包含層 (B5 南区東側 2面)  
 258: 包含層 土跡 1 (B5 南区 2面)  
 260: 包含層 (B5 南区 2面)  
 263: 包含層 (B5 南区西側 2面)  
 269・270: 包含層 2 (B5 南区東側 2面)  
 280～282: 包含層 1 (SD27 下) (B5 南区東側 3面)  
 285～287・290: SD36 上層 (3面包含層 2) (B5 南区東側 3面)

第53図 B区出土土器実測図 (S=1/3)

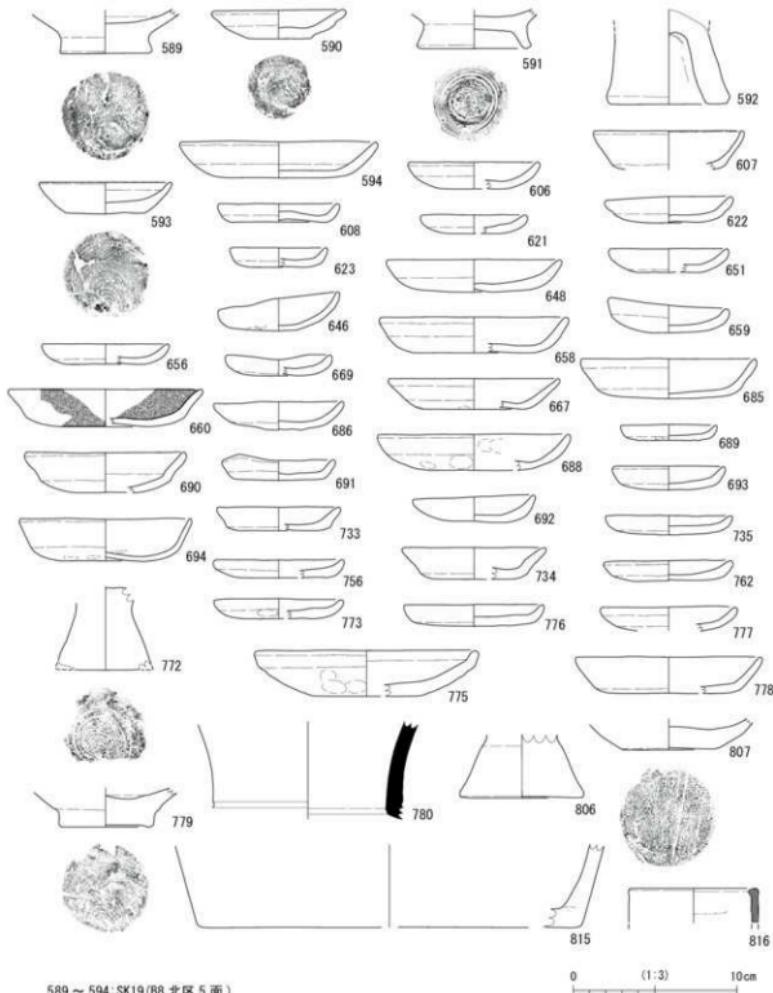


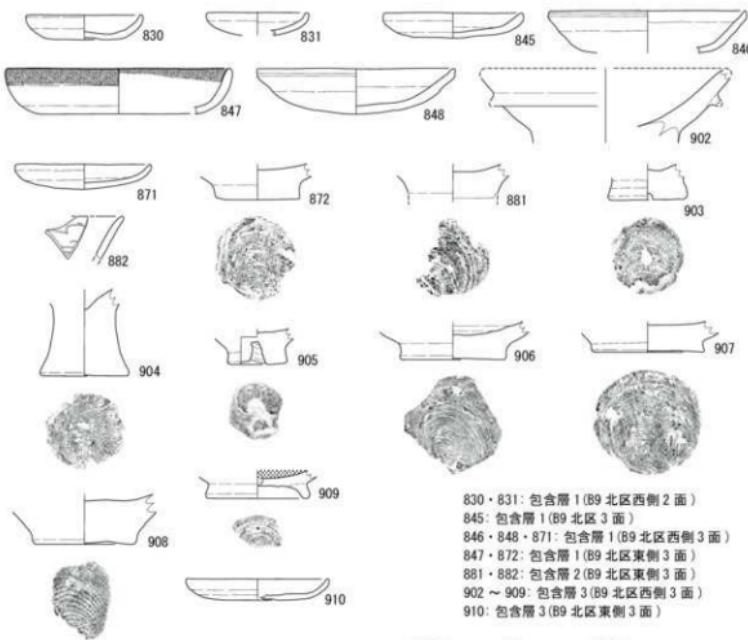
第54図 B区出土土器実測図2 (\$=1/3)



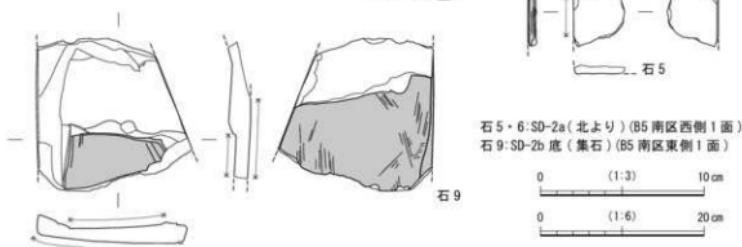
- 420・421: SX46(B7 南区 2面)  
 435: 包含層2(B7 南区 東側 3面)  
 439・440: SX64(B7 南区 3面)  
 451・452: SX67(B7 南区 3面)  
 458: SX68(B7 南区 東側 3面)  
 459: SX70(B7 南区 東側 3面)  
 462: ベース(礎石 17 南側アゼ)(B7 南区 東側 3面)  
 465: 包含層1(SX46 西側周辺)(B7 南区 東側 4面)  
 468: 包含層1(SX68 下)(B7 南区 4面)  
 469: 包含層1(SX68 下)(B7 南区 東側 4面)  
 477: 包含層1(礎石 16 ~ 17 アゼ)(B7 南区 東側 4面)  
 483: 包含層1(礎石 17 南側アゼ)(B7 南区 東側 4面)  
 492: SK9 石下(B8 北区 1面)  
 496 ~ 500: SX28(B8 北区 1面)
- 506: SX29(B8 北区 1面)  
 509: SX29 下層(B8 北区 1面)  
 513: P26(カクラン)(B8 北区 1面)  
 519: 包含層1(B8 北区 西側 2面)  
 531: 包含層2(B8 北区 西側 2面)  
 533: SX47(B8 北区 2面)  
 537: SX49(B8 北・南区 2面)  
 549: ベース(SX47・48 間)(B8 北区 東側 3面)  
 567: ベース(SX55 北側)(B8 北区 北西側 3面)  
 569: 包含層1(B8 北区 東側 4面)  
 571: 包含層1(SX47 南側)(B8 北区 東側 4面)  
 573: 包含層1(SX47 ~ 49 下周辺)(B8 北区 東側 4面)  
 580: 包含層1(SX48・49 下周辺)(B8 北区 東側 4面)  
 587・588: SK19(B8 北区 5面)

第55図 B区出土土器実測図3 (S=1/1・1/3)

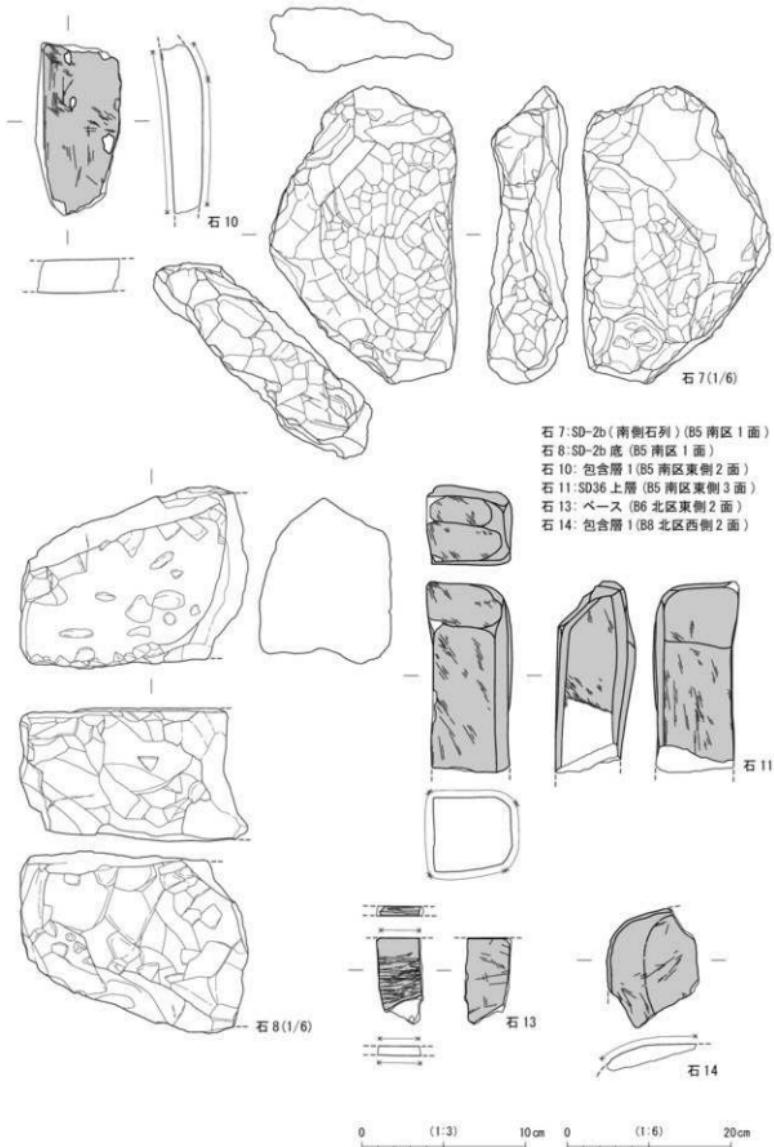




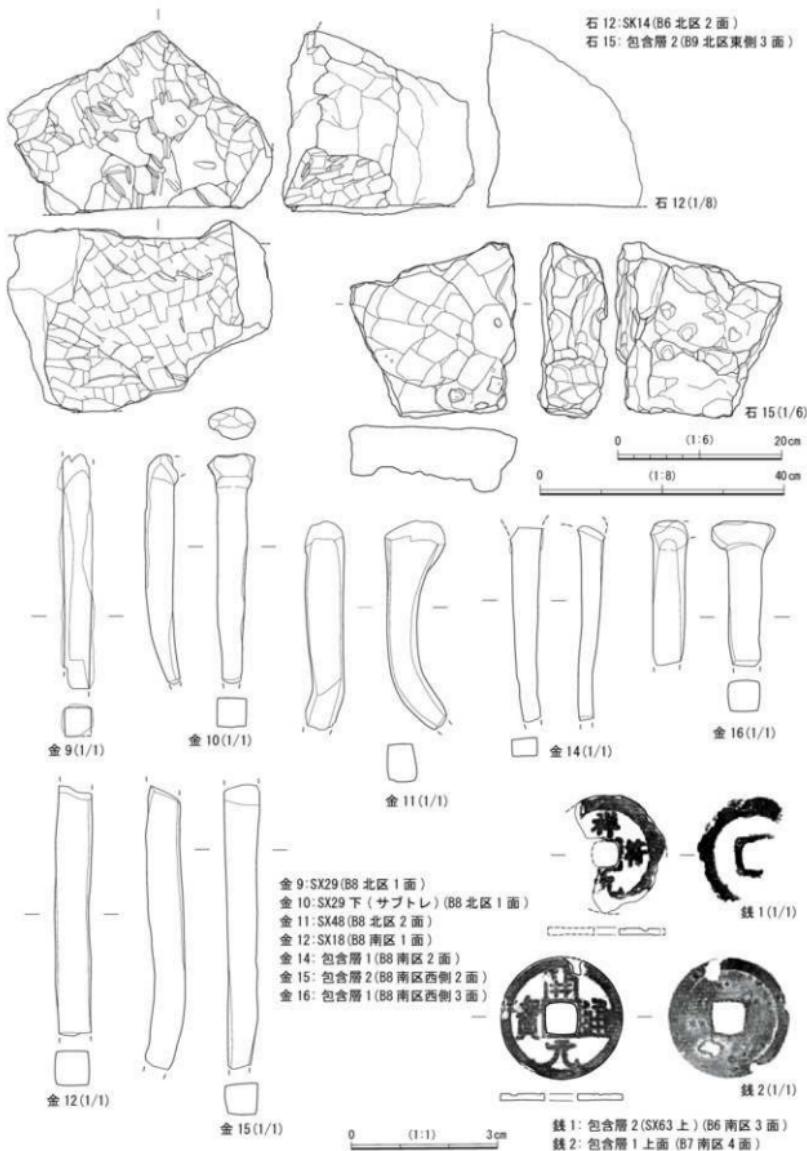
木 1: 包含層(SD-2a 下) (B5南区2面)

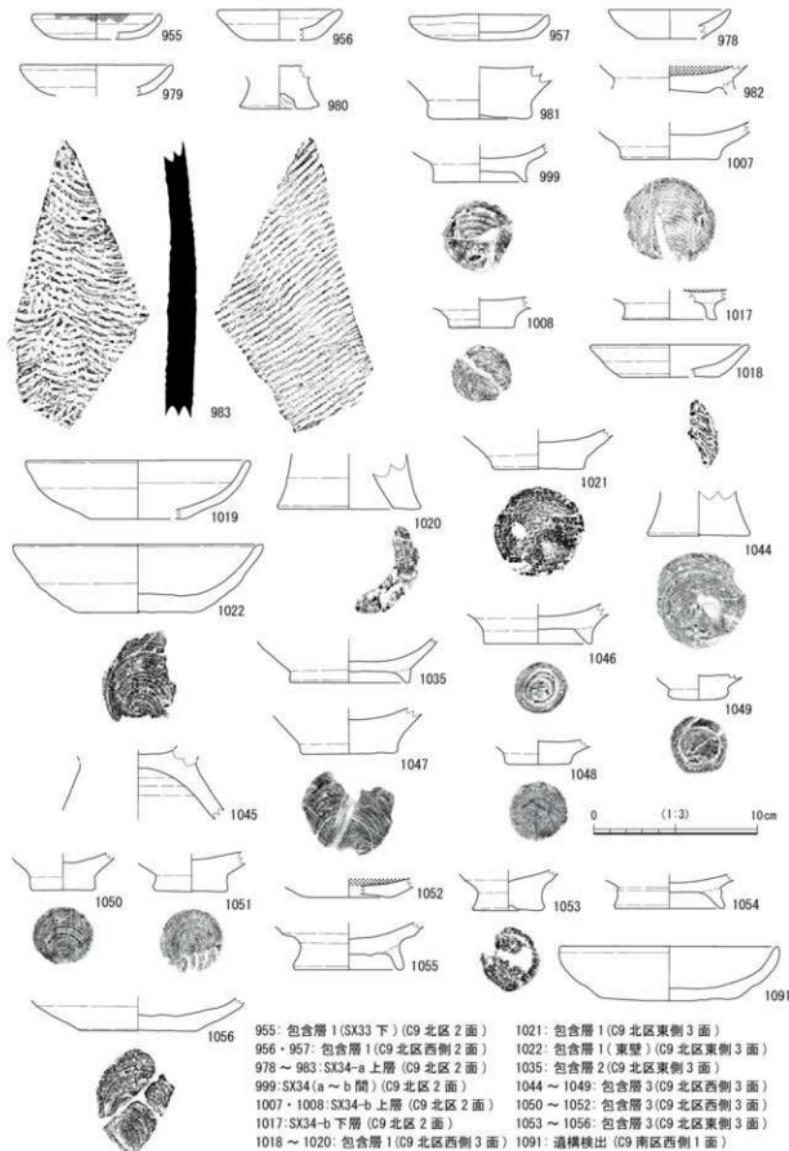


第57図 B区出土土器実測図5・木製品・石器・石製品実測図1 (S=1/3・1/6)

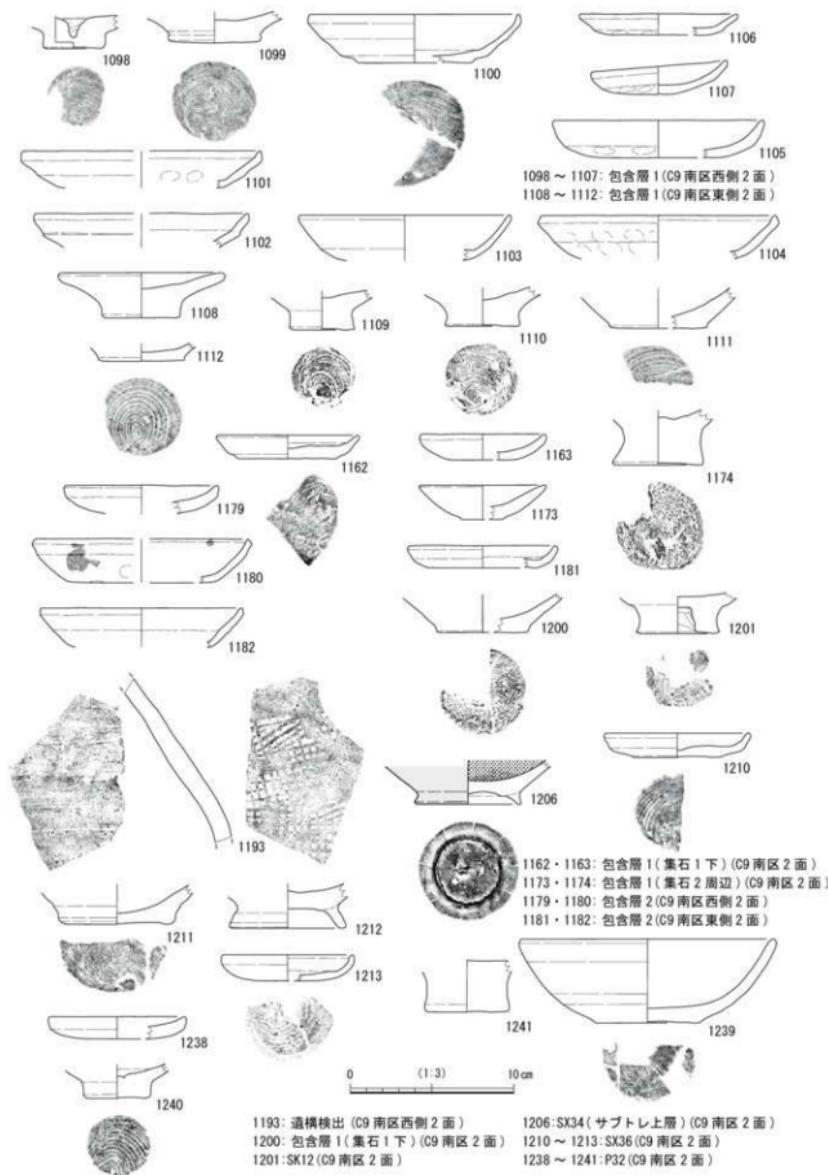


第58図 B区出土石器・石製品実測図2 (S=1/3・1/6)

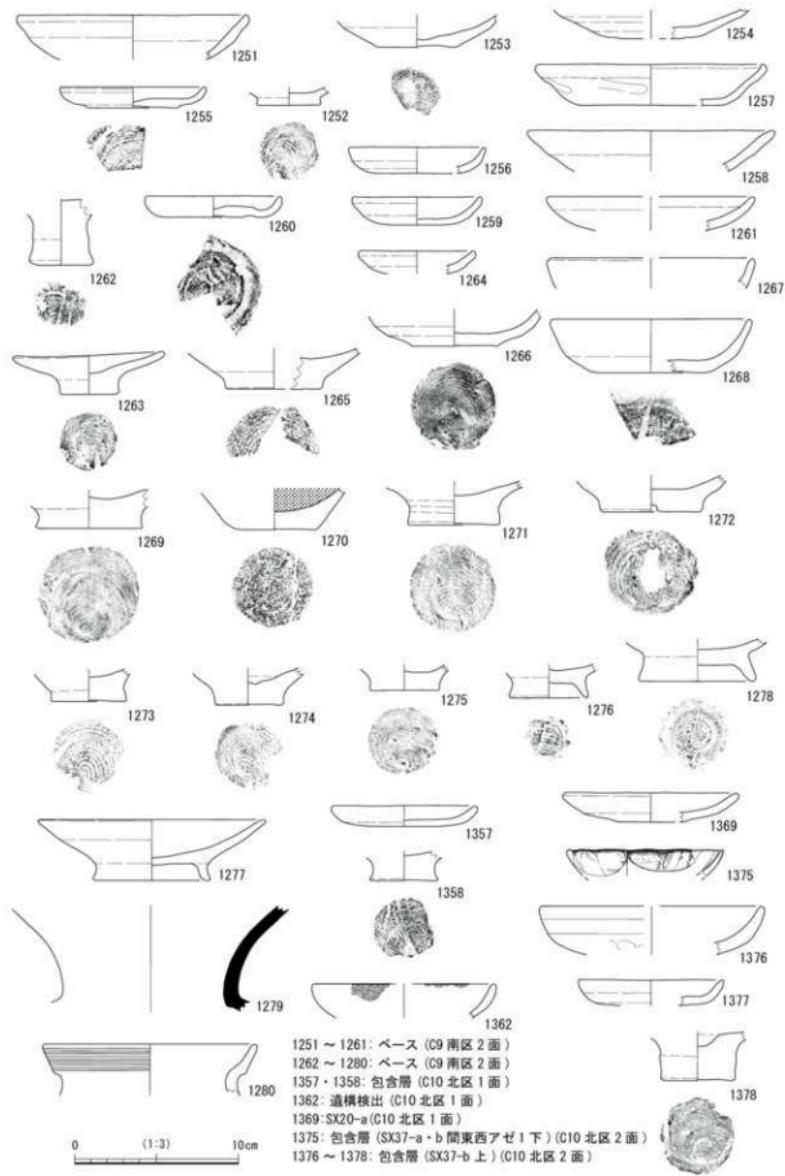
第59図 B区出土石器・石製品実測図3・金属製品・銅銭実測図 ( $S=1/1 \cdot 1/6 \cdot 1/8$ )



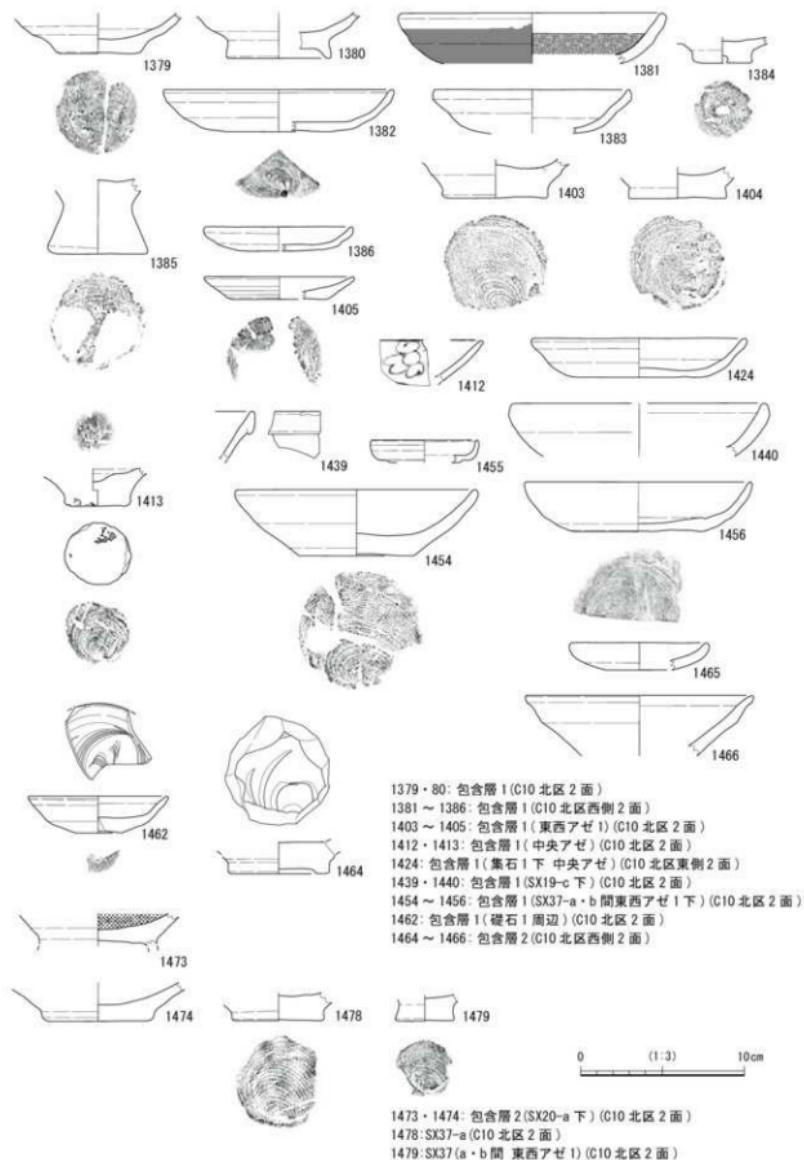
第60図 C区出土土器実測図 (S=1/3)



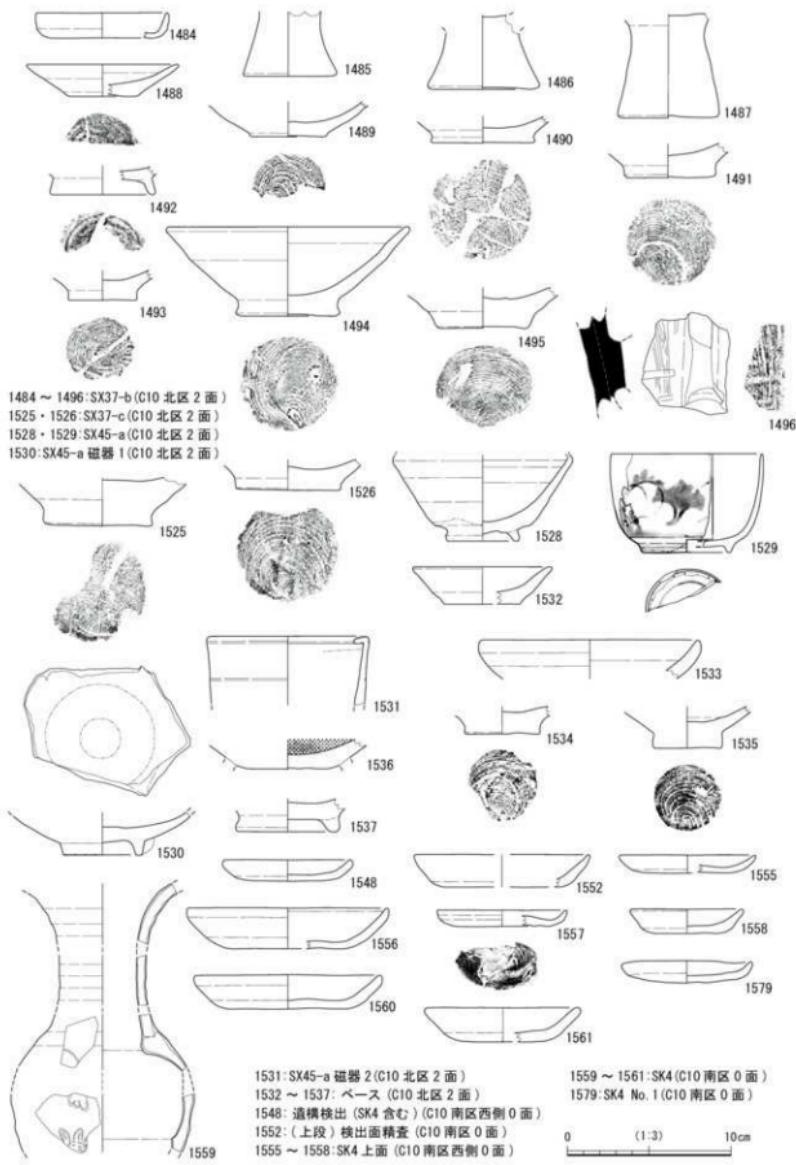
第61図 C区出土土器実測図2 (\$=1/3)



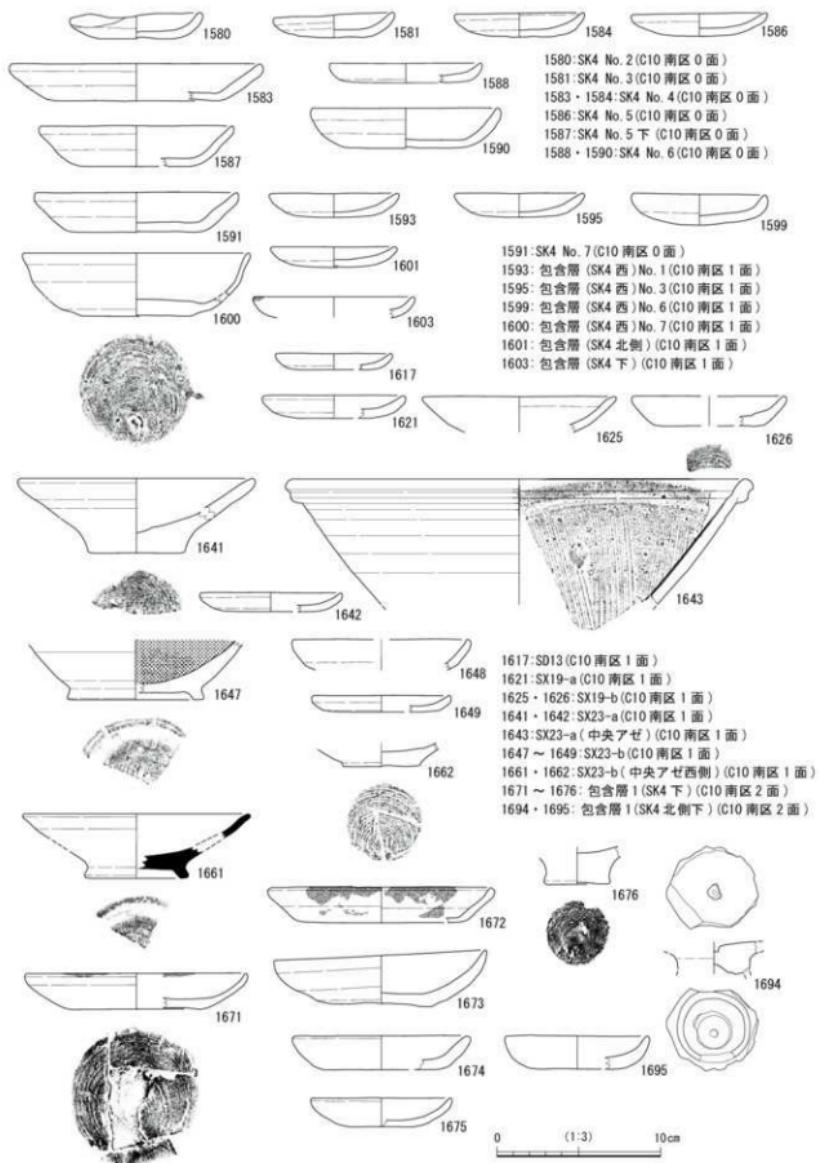
第62図 C区出土土器実測図3 ( $S=1:3$ )



第63図 C区出土土器実測図4 (S=1/3)



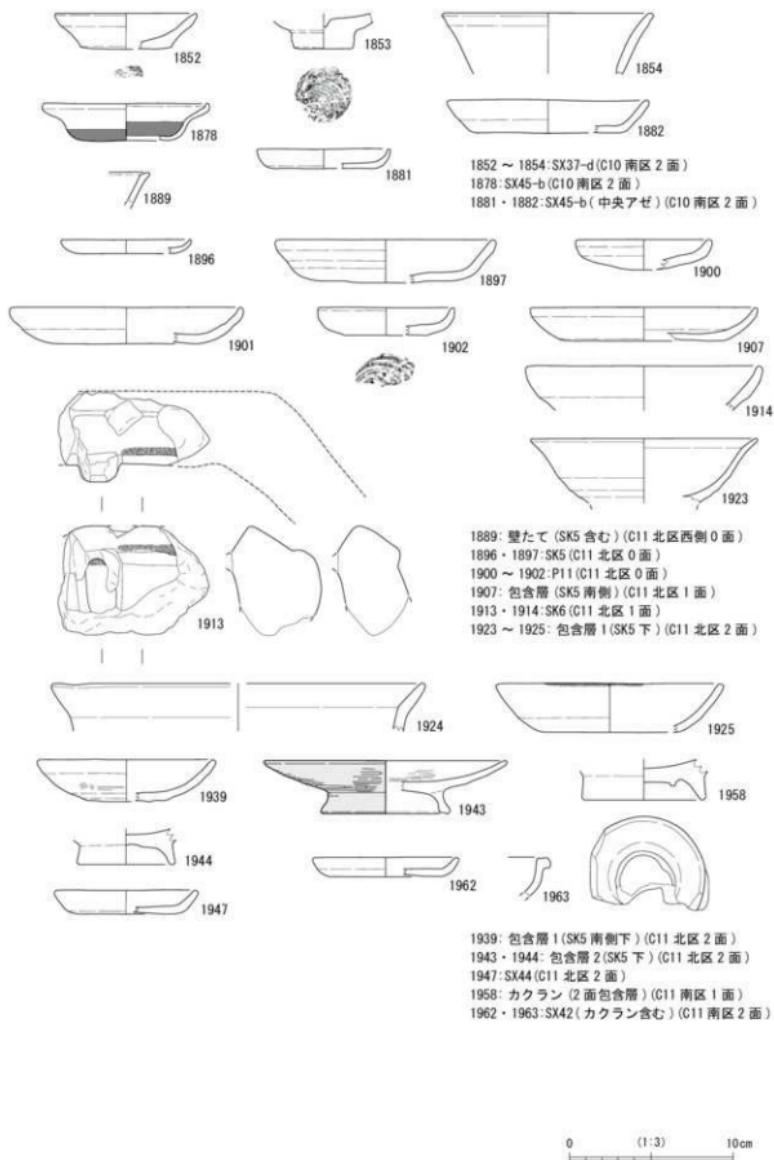
第64図 C区出土土器実測図5 (S=1/3)



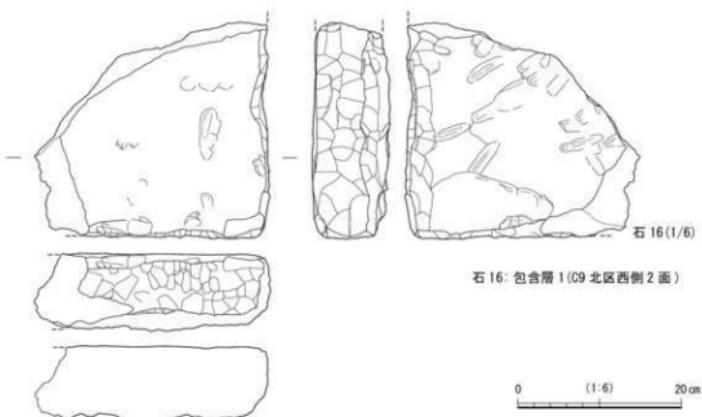
第65図 C区出土土器実測図6 (\$=1/3)



第66図 C区出土土器実測図7 ( $S=1/3$ )



第67図 C区出土土器実測図 8 (S=1/3)



第68図 C区出土石器・石製品実測図 (S=1/6)

石5は1面SD02a出土の砥石、石9はSD02b出土の硯、石11は3面SD36出土の砥石、石13は2面ベース出土の鳴滝石の仕上げ砥石である。B8区1・2面を中心金9~16の鉄釘が出土している。銭1はB6南区3面包含層2(SX63上)出土の祥符元寶、銭2はB7南区4面包含層1出土の開元通寶である。

### 3. C区(第60~68図、第9~18表、図版27~40)

平安時代後期~室町時代後半の遺構面4面を確認し、A・B区に比べクロ成形で柱状高台のカワラケが多く出土している。978~1034はC9北区2面SX34出土の土器でロクロ成形の柱状高台皿・有台塊・内黒有台塊、手づくね成形のカワラケ、須恵器壺が出土した。980の中実タイプの柱状高台は、高台部分の粘土紐を回転させながらつくる際に中央部分が埋まらずに凹みができるまでのものである。C9区2・3面の包含層やベース土からは、ロクロ成形の柱状高台カワラケが多く出土している。C9南区はC9北区に比べて手づくね成形の非ロクロカワラケの割合が多く、C10区の包含層やベース土も同様な傾向を示す。1478~1526はC10北区2面落ち込みSX37出土のカワラケで、ロクロ成形の柱状高台塊・皿が中心であり、1485~1487は中実タイプで底厚の高い柱状高台皿である。1496は南加賀窯産の須恵器双耳瓶である。1555~1591はC10南区0面土坑SK04出土のカワラケで、非ロクロ成形の手づくねカワラケがまとまって出土した。すぐ横の検出面とSK04から火災に伴う被熱により表面の釉薬が溶けた青磁花瓶片1559が出土した。石17はC9北区2面包含層2出土の打製石斧、石19はC11北区1面SX22出土の砥石、石20はC11北区2面SX44出土の打製石斧で、金18~20は鉄釘である。

表2表 出土土器観察表1

件名 番号	資料名 番号	種類	区	遺跡・寺町	出土地		色	質	内面	外觀	施土	備考	
					地番 (地番)	高さ (cm)							
5 0002	甕	加賀	A38R	160	SX55	-	-	-	(54)	-	灰	直筒、縦縫、手取	
9 0006	甕	加賀	A38R	160	SX50 土師1	-	-	-	15	52	5.72	直筒、縦縫、手取	
15 0002	甕	土師器	A38R	160	SX57	(150)	(113)	0.4	-	2.3	2.12	直筒、縦縫	
17 0014	甕	土師器	A38R	160	SX58	(132)	-	-	(26)	-	直筒、縦縫	直筒、縦縫	
21 0349	甕	土師器	A38R	160	SX59	(70)	(38)	0.5	-	1.1	2.12	直筒、縦縫	
22 0353	甕	瓦罐	A38R	160	SX60	-	-	-	(76)	-	直筒、縦縫	直筒、縦縫	
25 0349	甕	瓦罐	A38R	160	SX61	(152)	-	-	(21)	1.12	直筒、縦縫	直筒、縦縫	
26 0353	甕	瓦罐	A38R	160	SX62	(150)-11.1	-	-	(02)	* 1.12	直筒、縦縫	直筒、縦縫	
27 0336	甕	白磁	A38R	160	SX63	(160)	-	-	(26)	1.12	直筒(白磁)	直筒、白磁	
28 0354	円桶	白磁	A38R	160	SX64	(310)	-	-	(94)	2.12	-	直筒(白磁)	
29 0356	甕	土師器	A38R	160	SX65	(120)	(78)	0.5	-	2.8	3.72	直筒(白)	
30 0371	甕	土師器	A38R	160	SX66	(83)	(76)	0.3	-	1.8	3.12	直筒(白)	
31 0367	甕	土師器	A38R	160	SX67	(109)	(54)	0.5	-	2.3	2.12	直筒(白)	
41 0097	甕	瓦罐	A38R	160	SX68-1-上瓶	(53)	1.4	1.8	(27)	-	4.12	直筒(白)、手取	
42 0088	甕	瓦罐	A38R	160	SX69-1	(418)	-	(91)	-	1.5	1.12	直筒(白)	
46 0316	甕	土師器	A38R	160	SX70	(74)	(46)	0.7	-	1.5	2.12	直筒(白)	
50 0320	甕	土師器	A38R	160	SX71-6(切妻)	(125)	-	-	(27)	3.12	-	直筒(白)、手取	
51 0011	甕	土師器	A38R	160	SX72	(98)	-	-	(17)	2.12	-	直筒(白)	
57 0116	甕	土師器	A38R	160	SX73	(80)	2.65	0.6	-	1.5	5.12	直筒(白)	
58 0118	小鉢	土師器	A38R	160	SX74	7.4	0.4	-	1.5	5.12	-	直筒(白)	
62 0013	小鉢	土師器	A38R	160	SX75	-	-	-	(25)	-	直筒(白)	直筒(白)	
65 0176	甕	土師器	A38R	160	SX76	8.0	-	0.7	-	1.5	4.12	-	直筒(白)
66 0135	甕	土師器	A38R	160	SX77	(127)	(62)	0.6	-	3.1	2.12	直筒(白)	
67 0129	甕	土師器	A38R	160	SX78	(120)	(96)	0.6	-	1.7	2.12	直筒(白)	
68 0142	甕	土師器	A38R	160	SX79	(83)	(32)	0.4	-	1.7	2.12	直筒(白)	
76 0370	甕	瓦罐	A38R	160	SX80	(140)	-	-	(31)	1.12	-	直筒(白)、手取	
80 0179	甕	白磁	A38R	160	SX82	(118)	-	-	(23)	1.12	-	直筒(白)	
81 0136	甕	白磁	A38R	160	SX83	(86)	-	-	(19)	1.12	-	直筒(白)	
82 0164	甕	土師器	A38R	160	SX84	(115)	(76)	0.4	-	2.0	2.12	直筒(白)	
87 0001	甕	土師器	A38R	160	SX85-SX81-7	(123)	67	0.4	-	2.6	7.12	直筒(白)	
88 0005	甕	土師器	A38R	160	SX82-SX81-7	8.4	-	(03)	-	2.0	6.12	直筒(白)	
89 0006	甕	土師器	A38R	160	SX83-SX82-SX82-7	(86)	(76)	0.4	-	1.6	3.12	直筒(白)	
90 0008	甕	土師器	A38R	160	SX84-SX82-7	(126)	-	-	(24)	3.12	-	直筒(白)	
96 0028	甕	土師器	A38R	160	SX85	80	-	(03)	-	1.6	9.12	-	直筒(白)

第3表 出土土器觀察表2

第4表 出土土器観察表3

件名 番号	資料名 番号	種類	性別	年齢	性別・年齢			性別・年齢			性別・年齢			性別・年齢			性別・年齢		
					性別	年齢	性別	年齢	性別	年齢	性別	年齢	性別	年齢	性別	年齢	性別	年齢	
171 0369	黒 土器	A42K	男	50代-60代	11件	6件	5件	6件	5件	5件	2/12	2/12	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件
175 0663	黒 土器	A42K	男	50代-60代	96	65	-	34	16	11/12	12/12	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件
176 0664	黒 土器	A42K	男	50代-60代	80	51	51	-	(30)	2/12	7/12	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件
177 0665	青白陶 土器	A42K	男	50代-60代	128	80	66	-	100	12	51	49	9/12	6/12	1件	1件	1件	1件	1件
181 0374	黒 土器	A42K	男	50代-60代	126	80	65	-	30	4/12	9/12	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件	
187 0370	黒 土器	A42K	男	50代-60代	126	82	67	-	35	4/12	11/12	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件	
188 0382	黒 土器	A42K	男	50代-60代	68	68	65	-	14	4/12	6/12	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件	
190 0384	黒 土器	A42K	男	50代-60代	112	60	64	-	25	4/12	2/12	6/12	6/12	3/12	3/12	3/12	3/12	3/12	
193 0315	青白陶 土器	A42K	男	50代-60代	193	196	-	-	(76)	1/12	-	灰	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件
194 0313	黒 土器	A42K	男	50代-60代	196	196	64	-	14	1/12	2/12	12/12	12/12	12/12	12/12	12/12	12/12	12/12	
195 0312	黒 土器	A42K	男	50代-60代	193	126	74	05	-	21	1/12	2/12	5/12	5/12	5/12	5/12	5/12	5/12	5/12
199 0334	黒 土器	A42K	男	50代-60代	122	64	05	-	24	2/12	2/12	5/12	5/12	5/12	5/12	5/12	5/12	5/12	
200 0358	黒 土器	A42K	男	50代-60代	78	52	67	-	18	5/12	7/12	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件	
210 0320	黒 土器	A42K	男	50代-60代	84	48	66	-	16	6/12	9/12	二重袋	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件
234 0168	瓶	瓶	男	50代-60代	100	100	100	-	-	-	(35)	-	-	瓶(底)(1)	瓶(底)(1)	瓶(底)(1)	瓶(底)(1)	瓶(底)(1)	瓶(底)(1)
210 0396	瓶	瓶	男	50代-60代	100	100	100	-	(46)	18	-	(31)	-	-	2/12	2/12	2/12	2/12	2/12
220 0332	甕	甕	男	50代-60代	106	106	106	106	(99)	1/12	-	1/12	1/12	1/12	1/12	1/12	1/12	1/12	1/12
225 0271	小豆	土器	50代-60代	香料	106	106	106	106	(58)	5/12	-	1/12	-	-	1件	1件	1件	1件	1件
230 0327	天王寺陶	天王寺陶	50代-60代	香料	106	106	106	106	106	106	-	-	(21)	1/12	1/12	1/12	1/12	1/12	1/12
235 0328	天 瓶	天王寺陶	50代-60代	香料	106	106	106	106	106	106	-	22	6/12	-	1件	1件	1件	1件	1件
236 0300	天 瓶	天王寺陶	50代-60代	香料	106	106	106	106	106	106	-	19	6/12	9/12	1件	1件	1件	1件	1件
239 0381	天 瓶	天王寺陶	50代-60代	香料	91	64	63	-	16	4/12	4/12	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件	
239 0322	天 瓶	天王寺陶	50代-60代	香料	106	106	106	106	106	106	-	15	1/12	2/12	1件	1件	1件	1件	1件
240 0323	天 瓶	天王寺陶	50代-60代	香料	106	106	106	106	106	106	-	3/3	3/12	3/12	1件	1件	1件	1件	1件
241 0317	天 瓶	天王寺陶	50代-60代	香料	106	106	106	106	106	106	-	16	1/12	2/12	1件	1件	1件	1件	1件
245 0328	天 瓶	天王寺陶	50代-60代	香料	106	106	106	106	106	106	-	18	5/12	7/12	二重袋	1件	1件	1件	1件
246 0313	瓶	瓶	50代-60代	香料	106	106	106	106	106	106	-	19	2/12	2/12	1件	1件	1件	1件	1件
251 0207	甕	甕	50代-60代	香料	106	106	106	106	106	106	-	-	(16)	-	-	1件	1件	1件	1件

第五表 出土器物觀察表4

編號 番号	資料 名	墓號 番号	性別 性別	年 代	出土地 所		法 器		玉 器		金 銀 器		青 銅 器		鐵 器		陶 器		外 觀		地 質	地 質	
					區 域	面 積	遺物 數量	全 物 數	高 度 (cm)	寬 度 (cm)	厚 度 (cm)	形 狀	材 質	形 狀	材 質	形 狀	材 質	形 狀	材 質	形 狀	材 質		
252	1984	東	灰質	1656区 東側	166	166	166	166	—	—	—	(23)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
253	0211	東	土牆	166区 東側	70	20	66	—	16	10.12	12.12	12.12	圓柱形	木製	12.12	12.12	12.12	圓柱形	木製	12.12	12.12	12.12	木質, 有漆, 十字形刻痕, 有漆, 木質
258	0216	東	土牆	166区 東側	726	230	235	—	19	10.12	12.12	12.12	圓柱形	木製	12.12	12.12	12.12	圓柱形	木製	12.12	12.12	12.12	木質, 有漆, 木質
260	0216	東	土牆	166区 東側	100	59	—	19	1.12	1.12	1.12	球形	黃銅	1.12	1.12	1.12	球形	黃銅	1.12	1.12	1.12	黃銅	
263	0217	東	土牆	166区 東側	67	30	63	—	16	9.12	12.12	12.12	圓柱形	木製	12.12	12.12	12.12	圓柱形	木製	12.12	12.12	12.12	木質, 有漆(油漆)
269	0232	東	土牆	166区 東側	872	246	247	—	22	3.12	3.12	3.12	圓柱形	木製	3.12	3.12	3.12	圓柱形	木製	3.12	3.12	3.12	木質(漆油漆)
270	0234	東	土牆	166区 東側	76	280	65	—	19	6.12	4.12	4.12	圓柱形	木製	4.12	4.12	4.12	圓柱形	木製	4.12	4.12	4.12	木質(漆油漆)
280	0265	東	土牆	166区 東側	96	85	—	20	3.12	1.12	1.12	圓柱形	木製	1.12	1.12	1.12	圓柱形	木製	1.12	1.12	1.12	木質	
281	0266	東	土牆	166区 東側	74	—	0.3	—	1.8	10.12	—	—	圓柱形	木製	10.12	—	—	圓柱形	木製	10.12	—	—	木質
282	0286	東	土牆	166区 東側	66	—	0.4	—	1.6	5.12	—	—	圓柱形	木製	5.12	—	—	圓柱形	木製	5.12	—	—	木質
285	0288	東	土牆	166区 東側	2	166	2	—	2.3	6.12	—	—	圓柱形	木製	6.12	—	—	圓柱形	木製	6.12	—	—	木質
286	0285	東	灰質	166区 東側	—	—	—	—	—	—	—	—	圓柱形	木製	—	—	—	圓柱形	木製	—	—	—	木質(漆油漆)
287	0286	東	墓前	166区 東側	—	—	—	—	—	—	—	—	圓柱形	木製	—	—	—	圓柱形	木製	—	—	—	木質(漆油漆)
289	0285	東	土牆	166区 東側	166	166	166	166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
290	0285	東	土牆	166区 東側	75	36	63	—	1.3	3.12	3.12	3.12	圓柱形	木製	3.12	3.12	3.12	圓柱形	木製	3.12	3.12	3.12	木質(漆油漆)
297	0287	東	灰質	166区 東側	166	166	166	166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
300	0294	東	土牆	166区 東側	166	166	166	166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
206	0200	東	土牆	166区 東側	166	166	166	166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
206	1983	東	土牆	166区 東側	166	166	166	166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
310	0286	東	土牆	166区 東側	166	166	166	166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
311	0287	東	土牆	166区 東側	166	166	166	166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
312	0286	東	土牆	166区 東側	166	166	166	166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
335	0275	東	土牆	166区 東側	166	166	166	166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
343	0233	合子	牆	166区 東側	166	166	166	166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
347	0289	東	骨頭	166区 東側	166	166	166	166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
350	0217	東	骨頭	166区 東側	166	166	166	166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
351	0239	東	骨頭	166区 東側	166	166	166	166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
377	0247	東	漆器	166区 東側	166	166	166	166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
391	0289	東	漆器	166区 東側	166	166	166	166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
400	0286	東	二輪車	166区 東側	166	166	166	166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

表6表 出土土器観察表5

順位	資料番号	器物名	種別	出土地点		法面		底面		側面		蓋		備考	
				区	面	底径	高さ	底径	高さ	側面	蓋高	側面	蓋高		
401	0365	壺	口縁	17段目 土牆	17段目 土牆	55.0	11.0	55.0	11.0	直	-	1.9	1.12	直	1.05 1.05 1.05
419	0366	壺	上縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	2.4	4.12	直	1.05 1.05 1.05
420	0370	壺	上縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.5	1.12	直	1.05 1.05 1.05
421	0373	壺	上縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.5	1.12	直	1.05 1.05 1.05
425	0382	壺	上縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.5	1.12	直	1.05 1.05 1.05
429	0379	壺	上縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.5	1.12	直	1.05 1.05 1.05
440	0386	壺	上縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.4	1.12	直	1.05 1.05 1.05
451	0380	壺	口縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.4	1.12	直	1.05 1.05 1.05
452	0386	壺	上縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.4	1.12	直	1.05 1.05 1.05
458	0377	壺	白縁	17段目 土牆	17段目 土牆	53.0	11.0	53.0	11.0	直	-	1.5	1.12	直	1.05 1.05 1.05
459	0386	壺	上縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.6	4.12	直	1.05 1.05 1.05
462	0396	壺	口縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	2.3	2.12	直	1.05 1.05 1.05
465	0386	壺	上縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.1	3.12	直	1.05 1.05 1.05
468	0412	壺	口縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.1	3.12	直	1.05 1.05 1.05
477	0429	壺	上縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.2	2.12	直	1.05 1.05 1.05
483	0403	壺	口縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.3	2.12	直	1.05 1.05 1.05
502	0403	壺	口縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.1	4.12	直	1.05 1.05 1.05
506	0420	壺	上縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.2	3.12	直	1.05 1.05 1.05
507	0472	壺	上縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	2.1	2.12	直	1.05 1.05 1.05
508	0414	壺	口縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	2.2	1.12	直	1.05 1.05 1.05
509	0475	17段目土牆	口縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.2	2.12	直	1.05 1.05 1.05
500	0426	壺	口縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.5	4.12	直	1.05 1.05 1.05
506	0477	壺	上縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.2	3.12	直	1.05 1.05 1.05
509	0479	壺	上縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.2	2.12	直	1.05 1.05 1.05
513	0467	壺	口縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.5	4.12	直	1.05 1.05 1.05
519	0304	壺	口縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.1	3.12	直	1.05 1.05 1.05
531	0312	壺	口縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.2	2.12	直	1.05 1.05 1.05
533	0383	壺	口縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.2	2.12	直	1.05 1.05 1.05
549	0409	壺	上縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.0	2.12	直	1.05 1.05 1.05
562	0530	壺	上縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.5	3.12	直	1.05 1.05 1.05
567	0538	壺	口縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	2.1	5.12	直	1.05 1.05 1.05
568	0525	壺	口縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.5	6.12	直	1.05 1.05 1.05
571	0532	壺	口縁	17段目 土牆	17段目 土牆	51.0	11.0	51.0	11.0	直	-	1.0	5.12	直	1.05 1.05 1.05

第7表 出土土器觀察表6

件号	資料番号	器物名	種別	出土地				形質				色調				内面	外観	地土	備考	
				区	面	地質	鉱物	高さ	幅(径)	厚さ	形態	高さ	幅(径)	厚さ	形態					
572	0548	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(76)	(32)	0.5	-	1.4	3.12	3.12	0.3	直筒形 高さ1.4cm 幅3.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	1.4	3.12	3.12	3.12
580	0750	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(62)	(27)	0.5	-	1.5	2.12	3.12	0.3	直筒形 高さ1.5cm 幅3.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	1.5	2.12	3.12	3.12
587	0529	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(76)	(27)	0.5	-	1.3	2.12	3.12	0.3	直筒形 高さ1.3cm 幅3.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	1.3	2.12	3.12	3.12
588	0530	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(114)	(60)	0.7	-	3.9	1.12	3.12	0.3	直筒形 高さ3.9cm 幅1.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	1.12	3.12	3.12	3.12
589	0531	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(80)	(59)	0.7	-	3.7	1.12	3.12	0.3	直筒形 高さ3.7cm 幅1.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	1.12	3.12	3.12	3.12
590	0532	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(80)	(59)	0.8	-	1.8	3.12	3.12	0.3	直筒形 高さ1.8cm 幅3.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	1.8	3.12	3.12	3.12
591	0533	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(76)	(59)	0.8	-	2.0	2.4	-	0.3	直筒形 高さ2.0cm 幅2.4cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	2.0	2.4	2.4	2.4
592	0536	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(80)	(59)	0.7	-	2.0	4.12	3.12	0.3	直筒形 高さ2.0cm 幅4.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	4.12	3.12	3.12	3.12
593	0540	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(80)	(59)	0.7	-	2.2	1.12	3.12	0.3	直筒形 高さ2.2cm 幅1.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	1.12	3.12	3.12	3.12
594	0541	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(120)	(66)	0.6	-	2.2	1.12	3.12	0.3	直筒形 高さ2.2cm 幅1.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	1.12	3.12	3.12	3.12
595	0613	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(79)	(58)	0.5	-	1.7	3.12	-	0.3	直筒形 高さ1.7cm 幅3.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	1.7	3.12	3.12	3.12
597	0615	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(90)	(67)	0.5	-	2.4	2.12	-	0.3	直筒形 高さ2.4cm 幅2.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	2.12	2.12	2.12	2.12
598	0617	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(72)	(60)	0.5	-	1.1	4.12	4.12	0.3	直筒形 高さ1.1cm 幅4.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	4.12	4.12	4.12	4.12
621	0590	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(63)	(42)	0.5	-	1.2	2.12	3.12	0.3	直筒形 高さ1.2cm 幅2.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	2.12	3.12	3.12	3.12
622	0598	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(76)	(58)	0.5	-	1.6	6.12	-	0.3	直筒形 高さ1.6cm 幅6.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	6.12	6.12	6.12	6.12
623	0599	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(76)	(58)	0.5	-	1.2	6.12	6.12	0.3	直筒形 高さ1.2cm 幅6.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	6.12	6.12	6.12	6.12
646	0561	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(101)	(53)	0.5	-	2.0	6.12	6.12	0.3	直筒形 高さ2.0cm 幅6.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	6.12	6.12	6.12	6.12
648	0562	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(101)	(53)	0.5	-	2.0	2.12	3.12	0.3	直筒形 高さ2.0cm 幅2.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	2.12	3.12	3.12	3.12
651	0566	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(72)	(43)	0.5	-	1.5	5.12	5.12	0.3	直筒形 高さ1.5cm 幅5.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	5.12	5.12	5.12	5.12
656	0571	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(76)	(48)	0.4	-	1.2	5.12	5.12	0.3	直筒形 高さ1.2cm 幅5.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	5.12	5.12	5.12	5.12
658	0573	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(113)	(72)	0.5	-	2.2	3.12	3.12	0.3	直筒形 高さ2.2cm 幅3.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12
659	0578	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(71)	0.5	-	1.5	6.12	6.12	0.3	直筒形 高さ1.5cm 幅6.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	6.12	6.12	6.12	6.12	
660	0579	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(72)	0.5	-	2.3	3.12	3.12	0.3	直筒形 高さ2.3cm 幅3.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	
661	0580	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(76)	(48)	0.4	-	1.9	4.12	4.12	0.3	直筒形 高さ1.9cm 幅4.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	4.12	4.12	4.12	4.12
667	0581	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(64)	(40)	0.4	-	1.3	4.12	4.12	0.3	直筒形 高さ1.3cm 幅4.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	4.12	4.12	4.12	4.12
669	0577	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(106)	(72)	0.4	-	2.5	3.12	4.12	0.3	直筒形 高さ2.5cm 幅4.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	4.12	4.12	4.12	4.12
675	0602	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(106)	(72)	0.3	-	2.6	4.12	5.12	0.3	直筒形 高さ2.6cm 幅5.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	5.12	5.12	5.12	5.12
686	0625	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(76)	(58)	0.6	-	1.8	7.12	12.12	0.3	直筒形 高さ1.8cm 幅7.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	7.12	12.12	12.12	12.12
688	0645	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(114)	(68)	0.4	-	1.8	2.12	4.12	0.3	直筒形 高さ1.8cm 幅2.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	2.12	4.12	4.12	4.12
690	0636	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(96)	(60)	0.4	-	0.9	2.12	2.12	0.3	直筒形 高さ0.9cm 幅2.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	2.12	2.12	2.12	2.12
705	0633	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(50)	(51)	0.4	-	2.5	6.12	6.12	0.3	直筒形 高さ2.5cm 幅6.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	6.12	6.12	6.12	6.12
706	0629	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(72)	(58)	0.5	-	1.7	6.12	12.12	0.3	直筒形 高さ1.7cm 幅6.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	6.12	12.12	12.12	12.12
707	0632	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(104)	(61)	0.5	-	1.5	4.12	5.12	0.3	直筒形 高さ1.5cm 幅5.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	4.12	5.12	5.12	5.12
714	0633	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(76)	(45)	0.7	-	2.0	2.12	3.12	0.3	直筒形 高さ2.0cm 幅2.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	2.12	3.12	3.12	3.12
726	0635	直 土器	18世紀後葉	南面	含水15347-49	(72)	(34)	0.5	-	1.2	3.12	3.12	0.3	直筒形 高さ1.2cm 幅3.12cm 厚さ0.3cm	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12

第8表 出土土器観察表7

件号	資料番号	器種名	種別	出土地点				法面				裏面				底面				地 質	
				区	面	高さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	幅 (cm)	地 質			
702	0093	直 筒	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	76	68	64	-	13	7/12	8/12	表面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
772	0725	直 筒(高台)	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	-	-	50	-	(53)	-	-	-	-	-	-	赤褐色 土			
772	0724	直 筒	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	(72)	(63)	(65)	-	12	3/12	3/12	表面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
775	0731	直 筒	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	115	66	68	-	28	2/12	-	底面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
776	0706	直 筒	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	(85)	(73)	(66)	-	14	4/12	4/12	表面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
777	0708	直 筒	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	(81)	-	(65)	-	(15)	4/12	-	底面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
778	0716	直 筒	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	(113)	(79)	(65)	-	23	1/12	3/12	表面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
779	0722	直 筒(高)	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	-	58	16	-	(24)	-	12/12	12/12	表面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土	
780	0730	直 筒(高)	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	-	-	-	-	(63)	-	-	底面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
806	0722	直 筒(高台)	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	(67)	(50)	(48)	-	(40)	-	2/12	-	底面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土	
807	0731	直 筒(高)	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	-	60	13	-	(39)	-	12/12	表面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
815	0763	直 筒	陶器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	-	(236)	11	-	(53)	-	1/12	明灰	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
816	0765	香炉	陶器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	-	-	-	-	(21)	1/12	-	底面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
830	0704	直 筒	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	(70)	(48)	(65)	-	15	5/12	12/12	表面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
831	0706	直 筒	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	(66)	-	(64)	-	(14)	3/12	-	底面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
845	0619	直 筒	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	84	58	64	-	16	6/12	-	底面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
846	0811	直 筒	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	(120)	(76)	(64)	-	(26)	4/12	-	底面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
847	0828	直 筒	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	(126)	(100)	-	-	28	3/12	1/12	底面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
848	0814	直 筒	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	(120)	-	05	-	28	5/12	-	底面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
871	0818	直 筒	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	(82)	-	(65)	-	15	6/12	-	底面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
872	0829	直 筒(高)	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	-	-	52	18	-	(22)	-	明灰	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
881	0863	直 筒(高)	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	-	-	51	17	-	(21)	-	明灰	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
882	0867	直 筒	陶器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	-	-	-	-	(26)	1/12	-	底面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
902	0868	直 筒	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	(123)	-	-	-	(46)	1/12	1/12	底面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土		
903	0873	直 筒(高)	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	-	-	49	15	18	(22)	-	11/12	12/12	底面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土
904	0889	直 筒(高)	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	-	-	(53)	43	-	(21)	-	2/12	1/12	底面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土
905	0883	直 筒	土器	1804区 東側	面	50合1(16.1-20.0)面	-	-	(37)	66	20	(21)	-	4/12	6/12	底面	11FF面 (19.6)	表面	11FF面 (19.6)	表面	赤褐色 土

表9表 出土土器觀察表8

號 號 番 番 号 号	資料 資料 番 番 号 号	器物名 器物名	種別 種別	出土地點		法 規		形 狀		色 調		外觀		地 質	備 考
				区 域	面 積	地點 名稱	地點 名稱								
906 0675	新竹場	土陶器	1934年青銅 器物	區域	遺跡-今切面	-	(65)	15	-	(23)	-	5.12	筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。
907 0685	新竹場	土陶器	1934年青銅 器物	區域	包含3	-	69	16	-	(19)	-	12.12	筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。
908 0695	新竹場	土陶器	1934年青銅 器物	區域	包含3	-	(64)	26	-	(31)	-	5.12	筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。
909 0683	新竹場	土陶器	1934年青銅 器物	區域	包含3	-	(64)	65	12	(18)	-	1.12	瓶	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。
910 0690	新竹場	土陶器	1934年青銅 器物	區域	包含3	(67)	(51)	04	-	1.12	瓶	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。		
915 1039	新竹場	土陶器	C1934年 [1996]	區域	包含3	(76)	(40)	04	-	1.12	筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。		
916 0683	新竹場	土陶器	1934年青銅 器物	區域	包含3	(72)	(58)	06	-	1.12	筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。		
917 0696	新竹場	土陶器	1934年青銅 器物	區域	包含3	94	67	03	-	1.12	筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。		
918 0695	新竹場	土陶器	C1934年 [1996]	區域	包含3	(74)	(42)	-	-	1.12	筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。		
919 0696	新竹場	土陶器	C1934年 [1996]	區域	包含3	(92)	-	-	-	1.12	筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。		
980 0903	(H.A.G.)	土陶器	C1934年 [1996]	區域	包含3	49	17	27	(27)	-	1.12	筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。	
981 0903	新竹場	土陶器	C1934年 [1996]	區域	包含3	(62)	(30)	-	(24)	-	1.12	筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。	
982 0908	新竹場	土陶器	C1934年 [1996]	區域	包含3	-	12	-	(16)	-	-	筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。	
983 0929	新竹場	土陶器	C1934年 [1996]	區域	包含3	-	-	-	(17)	-	灰	灰	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。	
989 0930	新竹場	土陶器	C1934年 [1996]	區域	包含3	(58)	(08)	15	(23)	-	2.12	瓶	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。	
1007 0903	新竹場	土陶器	C1934年 [1996]	區域	包含3	62	15	-	(23)	-	11.12	灰筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。	
1008 0904	新竹場	陶少	C1934年 [1996]	區域	包含3	41	17	-	(12)	-	12.12	筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。	
1017 0900	新竹場	陶少	C1934年 [1996]	區域	包含3	(58)	(06)	17	(19)	-	2.12	瓶	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。	
1018 0900	新竹場	陶少	C1934年 [1996]	區域	包含3	(94)	(60)	04	-	2.12	瓶	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。		
1019 0900	新竹場	陶少	C1934年 [1996]	區域	包含3	(58)	-	-	36	1.12	灰	灰	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。	
1020 0904	新竹場	陶少	C1934年 [1996]	區域	包含3	(113)	(58)	-	(34)	-	5.12	筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。	
1021 0907	新竹場	土陶器	C1934年 [1996]	區域	包含3	52	16	-	(24)	-	12.12	筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。	
1022 0908	新竹場	土陶器	C1934年 [1996]	區域	包含3	(132)	(70)	11	-	4.12	1.12	灰筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。	
1023 1000	新竹場	土陶器	C1934年 [1996]	區域	包含3	74	66	13	(27)	-	10.12	灰筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。	
1044 1006	(H.A.G.)	陶少	C1934年 [1996]	區域	包含3	63	-	-	(27)	-	11.12	-	灰筒	-	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。
1045 1003	新竹場	土陶器	C1934年 [1996]	區域	包含3	-	(09)	-	(8.4)	-	-	灰筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。	
1046 1003	新竹場	土陶器	C1934年 [1996]	區域	包含3	(67)	(06)	17	(23)	-	6.12	瓶	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。	
1046 1025	新竹場	陶少	C1934年 [1996]	區域	包含3	-	60	21	-	(28)	-	12.12	瓶	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。
1047 1032	新竹場	陶少	C1934年 [1996]	區域	包含3	-	43	14	-	(1.5)	-	12.12	灰筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。
1048 1038	新竹場	陶少	C1934年 [1996]	區域	包含3	-	37	15	-	(1.5)	-	12.12	灰筒	Q1934年 [1996]	外觀 Q1934年, 國底 表面有黃褐色 斑點, 有燒痕 及裂縫。

第10表 出土土器觀察表 9

序号	資料番号	器物名	種別	出土地点		法 線		直 線		曲 線		圓 線		方 線		圓 線	
				区	面	直径	周長	高さ	底径	高さ	底径	高さ	底径	高さ	底径	高さ	底径
1050	1040	輪形 盆(内底)	土器部	C948区 面	直線	直径 40	周長 125	高さ 17	底径 23	-	12.12	直線	(底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1051	1041	輪形 盆(内底)	土器部	C948区 面	直線	直径 46	周長 145	高さ 20	底径 25	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1052	1025	輪形 盆(内底)	土器部	C948区 面	直線	直径 56	周長 170	高さ 66	底径 11	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1053	1020	輪形 盆(内底)	土器部	C948区 面	直線	直径 44	周長 135	高さ 15	底径 25	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1054	1015	輪形 盆(内底)	土器部	C948区 面	直線	直径 68	周長 213	高さ 66	底径 21	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1055	1018	輪形 盆(内底)	土器部	C948区 面	直線	直径 68	周長 200	高さ 20	底径 29	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1056	1016	盆(内底)	土器部	C948区 面	直線	直径 75	周長 230	高さ 10	底径 21	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1059	1062	盆(内底)	土器部	C948区 面	直線	直径 124	周長 384	高さ 68	底径 33	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1066	1128	盆(内底)	土器部	C948区 面	直線	直径 58	周長 180	高さ 66	底径 20	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1069	1120	盆(内底)	土器部	C948区 面	直線	直径 56	周長 180	高さ 15	底径 20	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1100	1131	盆	土器部	C948区 面	直線	直径 123	周長 376	高さ 65	底径 30	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1110	1125	盆	土器部	C948区 面	直線	直径 145	周長 450	高さ 64	底径 32	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1102	1132	盆	土器部	C948区 面	直線	直径 130	周長 400	高さ 62	底径 28	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1110	1138	盆	土器部	C948区 面	直線	直径 128	周長 384	高さ 62	底径 28	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1156	1140	盆	土器部	C948区 面	直線	直径 143	周長 400	高さ 61	底径 32	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1105	1141	盆	土器部	C948区 面	直線	直径 128	周長 376	高さ 65	底径 28	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1106	1146	盆	土器部	C948区 面	直線	直径 97	周長 294	高さ 65	底径 23	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1107	1134	盆	土器部	C948区 面	直線	直径 102	周長 312	高さ 64	底径 24	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1108	1087	盆	土器部	C948区 面	直線	直径 99	周長 288	高さ 68	底径 18	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1109	1088	盆(内底)	土器部	C948区 面	直線	直径 40	周長 124	高さ 20	底径 24	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1110	1106	盆	土器部	C948区 面	直線	直径 44	周長 135	高さ 15	底径 24	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1111	1109	盆(内底)	土器部	C948区 面	直線	直径 60	周長 180	高さ 68	底径 25	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1112	1110	盆(内底)	土器部	C948区 面	直線	直径 53	周長 156	高さ 66	底径 11	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1102	1073	盆	土器部	C948区 面	直線	直径 86	周長 267	高さ 68	底径 20	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1103	1026	盆	土器部	C948区 面	直線	直径 75	周長 240	高さ 40	底径 17	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1123	1081	盆	土器部	C948区 面	直線	直径 76	周長 240	高さ 38	底径 18	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1114	1086	盆(内底)	土器部	C948区 面	直線	直径 56	周長 156	高さ 28	底径 14	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1100	1152	盆	土器部	C948区 面	直線	直径 120	周長 376	高さ 64	底径 22	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1100	1150	盆	土器部	C948区 面	直線	直径 89	周長 267	高さ 65	底径 17	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)
1101	1153	盆	土器部	C948区 面	直線	直径 124	周長 376	高さ 65	底径 22	-	12.12	直線	0.070±0.07	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)	外縁 (底径 19.6)	内縁 (底径 19.6)

第11表 出土土器観察表10

鷲番 番号	資料 番号	器物名	種別	出土地				法 縦				横 縦				内面	外面	地 手	備 考
				区	面	縦幅	高さ	底径	底厚	高さ	底径	縦幅	底径	高さ	底径				
1103	1166	甌	盤口	C98E区	面	縦幅約19cm(6.1cm)	-	-	-	(99)	-	-	-	-	ヨコナラフ、斜面丸、底面丸	ヨコナラフ、斜面丸、底面丸	ヨコナラフ、斜面丸、底面丸	ヨコナラフ、斜面丸、底面丸	
1200	1079	甌	直腹	C98E区	面	縦幅約19cm(6.1cm)	-	(56)	(69)	-	(24)	-	8.72	12.5-13.5	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	
1201	1254	甌	直腹	C98E区	面	SNC-45SC125-07 47	-	52	67	24	(25)	-	6.72	12.5-13.5	ヨコナラフ、斜面丸、底面丸	ヨコナラフ、斜面丸、底面丸	ヨコナラフ、斜面丸、底面丸	ヨコナラフ、斜面丸、底面丸	
1206	1086	甌	直腹	C98E区	面	SNC-45SC125-07 47	-	66	68	14	(27)	-	12.22	9	ヨコナラフ、斜面丸、底面丸	ヨコナラフ、斜面丸、底面丸	ヨコナラフ、斜面丸、底面丸	ヨコナラフ、斜面丸、底面丸	
1210	1198	甌	直腹	C98E区	面	SNC-6	(66)	(55)	67	-	15	3.12	6.72	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸		
1211	1195	角形甌	直腹	C98E区	面	SNC-6	-	(70)	(66)	07	(24)	-	6.72	12.5-13.5	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	
1212	1196	角形甌	直腹	C98E区	面	SNC-6	-	(72)	10	22	(28)	-	5.12	6.72	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	
1213	1200	甌	直腹	C98E区	面	SNC-6	(60)	(48)	05	-	1.6	2.12	4.12	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸		
1220	1174	甌	直腹	C98E区	面	T122	(83)	-	08	-	1.4	2.12	4.12	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸		
1229	1176	角形甌	直腹	C98E区	面	T122	(15.5)	(62)	10	-	5.2	4.12	4.12	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸		
1300	1179	角形甌	直腹	C98E区	面	T122	-	42	15	-	(21)	-	12.12	12.5-13.5	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	
1340	1180	角形甌	直腹	C98E区	面	T122	-	52	31	-	(32)	-	10.72	9	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	
1351	1215	甌	直腹	C98E区	面	△-△-△	(14.0)	-	-	(27)	2.12	-	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	
1352	1256	甌	直腹	C98E区	面	△-△-△	-	40	08	-	(1.1)	-	12.12	9	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	
1353	1259	甌	直腹	C98E区	面	△-△-△	-	(50)	05	-	(20)	-	12.12	9	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	
1354	1272	甌	直腹	C98E区	面	△-△-△	-	(30)	07	-	(5.1)	-	-	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸		
1355	1284	甌	直腹	C98E区	面	△-△-△	(68)	(54)	06	-	1.3	2.12	2.12	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸		
1356	1288	甌	直腹	C98E区	面	△-△-△	(92)	(62)	04	-	1.6	5.12	4.12	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸		
1357	1290	甌	直腹	C98E区	面	△-△-△	(13.8)	(80)	04	-	2.5	7.12	2.12	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸		
1358	1296	甌	直腹	C98E区	面	△-△-△	(14.9)	-	-	(25)	3.12	-	12.12	9	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	
1359	1299	甌	直腹	C98E区	面	△-△-△	(7.7)	(50)	04	-	1.8	2.12	2.12	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸		
1360	1305	甌	直腹	C98E区	面	△-△-△	(8.2)	(60)	07	-	1.3	1.12	4.12	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸		
1361	1313	甌	直腹	C98E区	面	△-△-△	(12.4)	-	06	-	2.1	1.12	-	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸		
1362	1306	(1)RGA(7)	直腹	C98E区	面	△-△-△	-	40	41	-	(4.1)	-	11.12	9	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	
1363	1286	(1)RGA(7)	直腹	C98E区	面	△-△-△	(9.0)	(37)	13	-	2.5	4.12	12.12	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸		
1364	1229	甌	直腹	C98E区	面	△-△-△	(7.0)	-	-	(1.4)	2.12	-	12.12	9	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	
1365	1321	甌	直腹	C98E区	面	△-△-△	-	(5.8)	19	-	(2.5)	-	5.12	12.5-13.5	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	
1366	1280	甌	直腹	C98E区	面	△-△-△	-	52	08	-	(2.3)	-	12.12	9	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	
1367	1289	甌	直腹	C98E区	面	△-△-△	-	(12.2)	-	-	(1.9)	1.12	-	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸		
1368	1315	甌	直腹	C98E区	面	△-△-△	(7.0)	(64)	05	-	3.3	1.12	2.12	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸	ヨコナラフ、斜面丸		

第12表 出土土器觀察表11

件号	資料番号	器物名	種別	出土地点		法面		底面		側面		地 質	地 形	
				区	面	高さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	幅 (cm)			
1269	1365 (打抜A)	壺	土瓶	C98EK	山地	~5	-	66	19	-	(24)	-	12.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1270	1270 (打抜B)	土瓶	土瓶	C98EK	山地	~5	-	51	11	-	(26)	-	12.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1271	1226 (打抜C)	土瓶	土瓶	C98EK	山地	~5	-	56	18	-	(27)	-	12.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1272	1226 (打抜D)	土瓶	土瓶	C98EK	山地	~5	-	63.0	10	14	(25)	-	8.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1273	1227 (打抜E)	土瓶	土瓶	C98EK	山地	~5	-	47	15	-	(20)	-	7.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1274	1241 (打抜F)	土瓶	土瓶	C98EK	山地	~5	-	42	14	-	(23)	-	10.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1275	1242 (打抜G)	壺	土瓶	C98EK	山地	~5	-	43	11	-	(16)	-	12.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1276	1273 (打抜H)	壺	土瓶	C98EK	山地	~5	-	46	19	17	(20)	-	9.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1277	1227 (打抜I)	壺	土瓶	C98EK	山地	~5	-	126.0	72.0	65	15	3.8	1.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1278	1283 (打抜J)	壺	土瓶	C98EK	山地	~5	-	72	10	20	(24)	-	9.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1279	1316 (打抜K)	壺	土瓶	C98EK	山地	~5	-	6.5	-	-	-	-	底面、底面 (底面)	
1280	1338 (打抜L)	壺	空手壺	C98EK	山地	~5	-	131.0	7.0	-	(32)	2.12	-	12.12 (底面) 底面、底面 (底面)
1337	1342 (打抜M)	壺	土瓶	C98EK	山地	~5	-	63.7	7.0	0.4	-	1.3	1.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1338	1340 (打抜N)	壺	空手壺	C98EK	山地	~5	-	42	16	-	(18)	-	5.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1342	1351 (打抜O)	壺	土瓶	C98EK	山地	~5	-	11.0	0.0	-	(2.1)	1.12	-	1.12 (底面) 底面、底面 (底面)
1349	1363 (打抜P)	壺	土瓶	C98EK	山地	~5	-	10.4	4.3	0.6	-	1.8	1.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1375	1477 (打抜Q)	壺	泡沫	C98EK	山地	泡沫 (打抜Q)	-	9.6	-	-	(1.6)	1.12	-	白堊面 (底面) 底面、底面 (底面)
1376	1478 (打抜R)	壺	土瓶	C98EK	山地	~5	-	13.5	-	-	(3.0)	1.12	-	1.12 (底面) 底面、底面 (底面)
1377	1475 (打抜S)	壺	土瓶	C98EK	山地	泡沫 (打抜S)	-	6.6	6.0	0.5	-	1.6	2.12	1.12 (底面) 底面、底面 (底面)
1378	1426 (打抜T)	壺	土瓶	C98EK	山地	泡沫 (打抜T)	-	46	20	29	(30)	-	12.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1379	1436 (打抜U)	壺	土瓶	C98EK	山地	泡沫 (打抜U)	-	51	6.9	-	(25)	-	12.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1380	1438 (打抜V)	壺	土瓶	C98EK	山地	泡沫 (打抜V)	-	6.6	1.0	16	(28)	-	1.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1381	1306 (打抜W)	壺	土瓶	C98EK	山地	泡沫 (打抜W)	-	16.0	-	-	(3.1)	1.12	-	1.12 (底面) 底面、底面 (底面)
1382	1486 (打抜X)	壺	土瓶	C98EK	山地	泡沫 (打抜X)	-	14.0	7.0	0.6	-	2.6	4.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1383	1388 (打抜Y)	壺	土瓶	C98EK	山地	泡沫 (打抜Y)	-	12.0	6.7	0.4	-	(2.7)	2.12	-
1384	1495 (打抜Z)	壺	土瓶	C98EK	山地	泡沫 (打抜Z)	-	3.5	6.9	1.3	(1.6)	-	12.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1385	1496 (打抜A)	壺	泡沫	C98EK	山地	泡沫 (打抜A)	-	6.2	4.6	-	(4.6)	-	3.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1386	1487 (打抜B)	壺	土瓶	C98EK	山地	泡沫 (打抜B)	-	9.0	7.4	0.4	-	1.5	4.12 (底面) 底面、底面 (底面)	
1401	1454 (打抜C)	壺	土瓶	C98EK	山地	泡沫 (打抜C)	-	6.5	1.8	-	(2.4)	-	12.12 (底面) 底面、底面 (底面)	

第13表 出土土器觀察表12

件号 番号	資料名	種別	区	遺跡	出土地		出土地		出土地		出土地		出土地		出土地		出土地		出土地	
					地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名
1404	1455	直 土器	C102E2	II期	遺跡-今村	11.01	地井	11.01	高窓	11.01	高窓	11.01	高窓	11.01	高窓	11.01	高窓	11.01	高窓	11.01
1405	1460	直 土器	C102E2	II期	遺跡-今村	-	60	13	-	(19)	-	14	2.12	6.12	6.12	6.12	6.12	6.12	6.12	6.12
1412	1439	直(束付) 束(切)	C102E2	II期	遺跡-今村	(92)	(60)	(5)	-	(31)	1.72	-	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72
1413	1444	直(束付) 束(切)	C102E2	II期	遺跡-今村	-	(41)	16	-	(23)	-	24	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	
1420	1322	直 土器	C102E2	II期	遺跡-今村	(120)	(85)	(66)	-	(29)	1.72	-	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	
1420	1452	直 土器	C102E2	II期	遺跡-今村	(120)	(85)	(66)	-	(26)	1.72	-	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	
1440	1470	直 土器	C102E2	II期	遺跡-今村	(120)	(85)	(66)	-	(14)	1.72	-	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	
1445	1336	直(束) 束(切)	C102E2	II期	遺跡-今村	(146)	(21)	(13)	-	4.1	2.12	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12	
1455	1479	直 土器	C102E2	II期	遺跡-今村	(66)	(51)	(5)	-	(14)	1.72	-	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	
1456	1480	直 土器	C102E2	II期	遺跡-今村	(127)	(86)	(65)	-	3.1	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	
1462	1432	直 土器	C102E2	II期	遺跡-今村	(85)	(78)	(69)	-	2.3	1.72	-	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	
1464	1336	直 土器	C102E2	II期	遺跡-今村	-	62	16	20	(156)	-	6.12	6.12	6.12	6.12	6.12	6.12	6.12		
1465	1329	直 土器	C102E2	II期	遺跡-今村	-	62	16	20	(156)	-	6.12	6.12	6.12	6.12	6.12	6.12	6.12		
1466	1330	直 土器	C102E2	II期	遺跡-今村	(126)	-	-	-	(45)	1.72	-	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	
1473	1339	直(束) 束(切)	C102E2	II期	遺跡-今村	(106)	(81)	(66)	-	(8)	-	(20)	-	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	
1474	1338	直 土器	C102E2	II期	遺跡-今村	-	(68)	10	-	(24)	-	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12		
1478	1337	直 土器	C102E2	II期	遺跡-今村	-	57	15	-	(17)	-	9.12	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12		
1479	1362	直(束) 束(切)	C102E2	II期	遺跡-今村	-	26	14	-	(16)	-	8.12	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12		
1480	1380	直 土器	C102E2	II期	遺跡-今村	(60)	(65)	(3)	-	1.6	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	
1485	1392	直(束) 束(切)	C102E2	II期	遺跡-今村	-	(58)	-	-	(40)	-	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12		
1486	1393	直(束) 束(切)	C102E2	II期	遺跡-今村	-	(69)	4.1	-	(46)	-	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12	2.12		
1487	1394	直(束) 束(切)	C102E2	II期	遺跡-今村	-	62	62	-	(6.4)	-	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72	1.72		
1488	1385	直(束) 束(切)	C102E2	II期	遺跡-今村	(92)	(43)	(6)	-	2.9	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12		
1489	1386	直(束) 束(切)	C102E2	II期	遺跡-今村	-	(45)	(3)	-	(21)	-	6.12	6.12	6.12	6.12	6.12	6.12	6.12		

第14表 出土土器觀察表13

件号 番号	資料 種類	器物名	種別	出土地		法面		底面		側面		地 質	施 工	備 考	
				区	面	遺跡・その他		高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	高さ (cm)				
1460 1387	陶器	縦合口 直筒形	C102EK	II区	SNC7-5	-	(64)	10	-	(16)	-	12.12	1.5-2.0 (1.96)	SNC7-5, 回板手 縦合口, 高さ16mm 底面少	
1461 1388	陶器	縦合口 (直筒高台)	C102EK	II区	SNC7-5	-	53	13	-	(21)	-	12.12	1.5-2.0 (1.96)	SNC7-5, 回板手 縦合口, 高さ13mm 底面少	
1462 1385	陶器	直筒形	C102EK	II区	SNC7-5	-	(65)	06	15	(18)	-	3.12	1.5-2.0 (1.96)	SNC7-5, 回板手 縦合口, 高さ15mm 底面少	
1463 1372	陶器	直筒形	C102EK	II区	SNC7-5	-	(42)	13	-	(18)	-	11.12	1.5-2.0 (1.96)	SNC7-5, 回板手 縦合口, 高さ13mm 底面少	
1468 1380	陶器	直筒形	C102EK	II区	SNC7-5	(14)	64	13	-	55	1/12	12.12	1.5-2.0 (1.96)	SNC7-5, 回板手 縦合口, 高さ13mm 底面少	
1466 1399	陶器	直筒形	C102EK	II区	SNC7-5	-	(57)	17	-	(25)	-	8.12	1.5-2.0 (1.96)	SNC7-5, 回板手 縦合口, 高さ17mm 底面少	
1466 1396	瓦片集	直筒形	C102EK	II区	SNC7-5	-	-	-	-	(60)	-	-	-	瓦片集	
1525 1405	瓦片	直筒形	C102EK	II区	SNC7-5	-	(66)	27	-	(30)	-	7.12	1.5-2.0 (1.96)	SNC7-5, 回板手 縦合口, 高さ27mm 底面少	
1526 1406	瓦片	直筒形	C102EK	II区	SNC7-5	-	64	14	-	(19)	-	10.12	1.5-2.0 (1.96)	SNC7-5, 回板手 縦合口, 高さ14mm 底面少	
1528 1397	瓦片	直筒形	C102EK	II区	SNC7-5	-	(45)	07	12	(35)	-	5.12	1.5-2.0 (1.96)	SNC7-5, 回板手 縦合口, 高さ7mm 底面少	
1529 1398	瓦片	直筒形	C102EK	II区	SNC7-5	(92)	64	07	61	2.12	4.12	-	-	瓦片集	
1530 1599	瓦	瓦片	C102EK	II区	SNC7-a	組合L	-	48	69	18	(26)	-	12.12	1.5-2.0 (1.96)	SNC7-a, 瓦片 組合L, 高さ69mm 底面少
1531 1510	瓦片	瓦片	C102EK	II区	SNC7-a	組合S	(94)	-	-	(42)	2.12	-	14.12	1.5-2.0 (1.96)	SNC7-a, 瓦片 組合S, 高さ94mm 底面少
1532 1546	瓦	瓦片	C102EK	II区	~	~	(84)	(48)	08	-	2.3	1/12	5.12	1.5-2.0 (1.96)	瓦片, 高さ48mm 底面少
1533 1553	瓦	瓦片	C102EK	II区	~	~	(112)	-	-	(24)	1/12	-	1.5-2.0 (1.96)	瓦片, 高さ112mm 底面少	
1534 1549	瓦	瓦片	C102EK	II区	~	~	(46)	14	-	(17)	-	9.12	1.5-2.0 (1.96)	瓦片, 高さ14mm 底面少	
1535 1555	瓦	瓦片	C102EK	II区	~	~	(43)	16	-	(26)	-	12.12	1.5-2.0 (1.96)	瓦片, 高さ16mm 底面少	
1536 1552	瓦 (瓦合)	瓦片	C102EK	II区	~	~	(19)	-	-	(1.8)	-	1.12	1.5-2.0 (1.96)	瓦片, 高さ19mm 底面少	
1537 1548	瓦片	瓦片	C102EK	II区	~	~	64	10	18	(20)	-	10.12	1.5-2.0 (1.96)	瓦片, 高さ10mm 底面少	
1548 1556	瓦	瓦片	C102EK	瓦	~	~	(78)	(56)	01	-	1.3	2/12	2.12	1.5-2.0 (1.96)	瓦片, 高さ56mm 底面少
1552 1546	瓦	瓦片	C102EK	II区	~	~	(104)	(76)	01	-	2.0	1/12	4.12	1.5-2.0 (1.96)	瓦片, 高さ76mm 底面少
1553 1556	瓦	瓦片	C102EK	II区	SNC7-a	組合L	(63)	(62)	01	-	1.1	3/12	3.12	1.5-2.0 (1.96)	瓦片, 高さ63mm 底面少
1556 1556	瓦	瓦片	C102EK	II区	SNC7-a	組合S	(73)	(62)	06	-	1.9	3/12	3.12	1.5-2.0 (1.96)	瓦片, 高さ62mm 底面少
1559 1560	瓦	瓦片	C102EK	II区	SNC7-a	組合	(68)	(40)	05	-	1.5	2/12	3.12	1.5-2.0 (1.96)	瓦片, 高さ40mm 底面少
1560 1579	土器	直筒形	C102EK	II区	SNC7-a	組合L	(114)	(72)	06	-	(35)-3.00	-	-	外輪高3.00mm 内輪高114mm 底面少	
1561 1574	土器	直筒形	C102EK	II区	SNC7-a	組合S	(122)	(72)	01	06	-	2.1	3/12	3.12	1.5-2.0 (1.96)
1569 1588	土器	直筒形	C102EK	II区	SNC7-a	組合L	29	22	05	-	1.3	2/12	2.12	1.5-2.0 (1.96)	
1568 1580	土器	直筒形	C102EK	II区	SNC7-a	組合S	80	46	04	-	1.6	8/12	11.12	1.5-2.0 (1.96)	
1569 1590	土器	直筒形	C102EK	II区	SNC7-a	組合	73	34	03	-	1.6	11/12	11.12	1.5-2.0 (1.96)	
1580 1592	土器	直筒形	C102EK	II区	SNC7-a	組合	(154)	(109)	04	-	2.3	5/12	3.12	1.5-2.0 (1.96)	

第15表 出土土器觀察表14

第16表 出土土器觀察表15

第17表 出土土器觀察表16

第18表 石器・石製品観察表

報告番号	資料番号	器種名	種別	石材等	出土土地点区	出土土地点面	出土土地点遺構・その他	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	高さ(cm)	
石1	1967	石鉢か	石製品：その他		A3北区	II面	包含層1	—	—	—	(14.1)g	(2.6)	
石2	1966	石鉢か	石製品：その他		A3北区	II面	包含層2	4.8	3.8	3.4	86.3g	—	
石3	1969	石鉢	石製品：その他	火山礫凝灰岩	A4南区 西側	II面	検出面 [320]	—	—	—	(173.6)g	(6.5)	
石4	1968	仕上げ砥石	石製品：工具	鳴瀬砾石 (中山か)、被熱	A4南区 西側	Ⅲ面	包含層1	(6.8)	(4.5)	1.4	(46.7)g	—	
石5	1964	砥石	石製品：工具		B5南区 西側	I面	SD2-a(北より)	(4.1)	(3.1)	5.0	(76.6)g	—	
石6	1967	砥石	石製品：その他	火山礫凝灰岩	B5南区 西側	I面	SD2-a(北より)	(22.7)	(21.0)	8.4	3800g	—	
石7	1968	砥石	石製品：その他	火山礫凝灰岩	B5南区	I面	SD2-b(西側石列)	38.2	24.0	10.0	8000g	—	
石8	1969	砥石か	石製品：その他		B5南区	I面	SD2-b底	22.4	—	(28.0)	16.4	11500g	—
石9	1960	鏡	石製品：工具	粗粒砂岩	B5北区 東側	I面	SD2-b底(集石) (西側石列下合む)	(9.4)	(9.6)	1.6	(174.5)g	—	
石10	1961	中研石	石製品：工具	凝灰岩、近世か	B5北区 東側	II面	包含層1	(10.6)	(5.2)	2.2	(190.4)g	—	
石11	1962	砥石か	石製品：工具		B5北区 東側	II面	SD2-b底 (3面包含層2)	(11.8)	(5.0)	4.7	(432.5)g	—	
石12	1970	石研石か	石製品：その他		B6北区	II面	SK14	(31.5)	(43.6)	(30.4)	34850g	—	
石13	1963	仕上げ砥石	石製品：工具	鳴瀬砾石 (中山か)、被熱	B6北区 東側	II面	ベース	(5.35)	(2.9)	(0.6)	(12.8)g	—	
石14	1965	磨石か	石製品：工具		B6北区 西側	II面	包含層1	(7.5)	(5.7)	1.1	(45.6)g	—	
石15	1966	磨石	石製品：その他	火山礫凝灰岩	B9北区 東側	II面	包含層2	21.7	20.4	8.2	3800g	—	
石16	1971	敷石	石製品：その他		C9北区 西側	II面	包含層1	(26.7)	(29.1)	9.6	11600g	—	
石17	1973	打製石斧	石製品：工具		C9北区 西側	II面	包含層2	(7.2)	(7.6)	1.9	(138.6)g	—	
石18	1972	石研石か	石製品：その他		C11北区	II面	SK5	17.2	35.8	23.4	11100g	—	
石19	1974	砥石か	石製品：工具		C11北区	I面	SX22	(5.5)	(4.8)	(1.7)	(47)g	—	
石20	1975	打製石斧	石製品：工具		C11北区	II面	SX44	(10.2)	10.6	2.2	(272.5)g	—	

第19表 木製品観察表

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土土地点区	出土土地点面	出土土地点遺構・その他	口徑(cm)	底径(cm)	底厚(cm)
木1	2011	木製器物	木製品	B5南区	II面	包含層(SD2-a下)	最大長(7.3)	最大幅(4.75)	最大厚(0.25)

第20表 金属製品観察表

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土土地点区	出土土地点面	出土土地点遺構・その他	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
金3	1934	漆地金銅鋲り鉄	鉄製品：調理・調度品	A4北区 西側	I面	獨立	(2.85)	(2.65)	(0.5)	298g
金5	1933	鉄釘	鉄製品：建築	A4北区	II面	ベース(SX13取り)	(7.5)	0.65	0.65	536g
金9	1936	鉄釘	鉄製品：建築	E8北区	I面	SX29	(4.8)	0.55	0.6	409g
金10	1938	鉄釘	鉄製品：建築	E8北区	I面	SX29(F)(サブトレ)(3面包含層)	(4.7)	0.95	0.6	402g
金11	1942	鉄釘	鉄製品：建築	E8北区	II面	SX48	(4.25)	(1.25)	0.8	610g
金12	1937	鉄釘	鉄製品：建築	E8南区	I面	SX18 No.24	(5.15)	0.75	0.7	827g
金14	1939	鉄釘	鉄製品：建築	E8南区	II面	包含層(中央アゼ層)	(4.6)	(0.60)	(0.55)	186g
金15	1941	鉄釘	鉄製品：建築	E8南区 西側	II面	包含層1	(5.85)	0.75	0.7	670g
金16	1943	鉄釘	鉄製品：建築	E8南区 西側	III面	包含層1(壁石11-15取り)	(2.95)	(1.30)	(0.75)	438g
金18	1944	鉄釘	鉄製品：建築	C9X 北区 東側	II面	遺構検出(SX26F)	(12.0)	(1.15)	0.8	1773g
金20	1947	鉄釘	鉄製品：建築	C10北区 西側	II面	包含層2	(3.3)	1.10	(1.15)	359g
金22	1946	鉄釘	鉄製品：建築	C10南区	II面	包含層(中央アゼ)	(3.7)	(0.80)	(0.4)	141g

第21表 銅鉢観察表

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土土地点区	出土土地点面	出土土地点遺構・その他	口徑(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	備考
銅1	1930	銅鏡(洋荷元販)	鏡・銅合金鏡：銅鏡	E6南区	III面	包含層2(SX63上)	最大長2.40	最大幅1.85	最大厚0.12	重量095g
銅2	1929	銅鏡(開元通寶)	鏡・銅合金鏡：銅鏡	E7南区	IV面	包含層1 上面	最大長2.46	最大幅2.49	最大厚0.12	重量221g

## 第4章 自然科学的分析

### 第1節 木製品の樹種同定

#### 1. はじめに

石川県白山市の古宮遺跡から出土した木製品の樹種同定を行った。

#### 2. 試料と方法

試料は、B5南区のⅡ面包含層(SD2-a下)から出土した木製品1点である。時期については古代末～中世と考えられている。試料について、切片採取前に木取りの確認を行った。

樹種同定は、材の横断面(木口)、接線断面(板目)、放射断面(柾目)について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行った。

#### 3. 結 果

同定の結果、試料は針葉樹のヒノキであった。同定結果を第22表に示す。

第22表 古宮遺跡出土木製品の樹種同定結果一覧

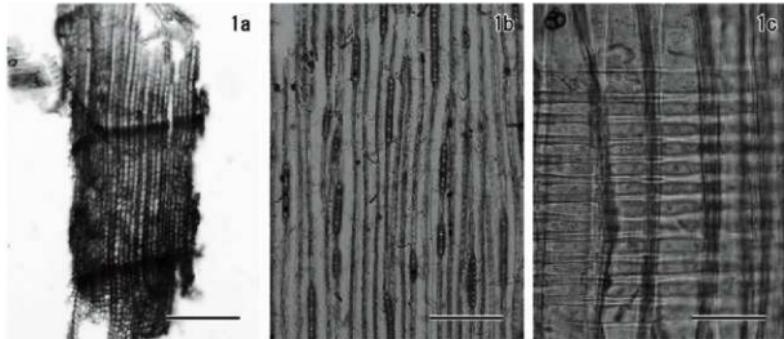
試料No.	管理No.	地区	画	出土地点	器種	樹種	木取り	時期
木1	2011	B5南区	Ⅱ画	包含層(SD2-a下)	木羽板or折敷底板	ヒノキ	柾目	古代末～中世

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡写真を示す。

(1)ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 第69図 1a-1c(木1)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は單列で、高さ1～15列である。分野壁孔はトウヒ～ヒノキ型で、1分野に2個みられる。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。



第69図 古宮遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真

1a-1c.ヒノキ(木1) a:横断面(スケール=500 μm), b:接線断面(スケール=200 μm), c:放射断面(スケール=50 μm)

## 第2節 石製品の石質同定

### 1. はじめに

古宮遺跡は、石川県白山市鶴来地区の手取川に面した平安時代から中世にかけての遺跡である。ここでは、打製石斧や砥石などの石製品について、肉眼観察による石材同定を行った。

### 2. 試料と方法

試料は、石製品20点である(第23表)。

石材の同定は、主に肉眼観察により行い、デジタルカメラを用いて石材の接写撮影を行った。

第23表 石製品とその詳細

分析No.	資料番号	地区	面	出土地点	岩種
1	1957	A3北区	Ⅲ面	包含層	打火 石鉢か
2	1956	A3北区	Ⅲ面	包含層2	磨石か
3	1959	A4南区 西側	Ⅲ面	検出面	石鉢
4	1958	A4南区 西側	Ⅲ面	包含層1	砥石
5	1964	B5南区 西側	Ⅰ面	SD2-a(北寄り)	砥石か硯か
6	1967	B5南区 西側	Ⅰ面	SD2-a(北寄り)	硯石
7	1968	B5南区	Ⅰ面	SD2-b(直角石列)	礫石
8	1969	B5南区	Ⅰ面	SD2-b底	石垣か
9	1960	B5南区 東側	Ⅰ面	SD2-b底(集石)(直角石列下含む)	砥石加工の礫
10	1961	B5南区 東側	Ⅱ面	包含層1	砥石
11	1962	B5南区 東側	Ⅲ面	SD36上層(Ⅲ面包含層2)	砥石
12	1970	B6北区	Ⅱ面	SK14	石垣
13	1963	B6北区 東側	Ⅱ面	ベース	砥石
14	1965	B8北区 西側	Ⅱ面	包含層1	砥石か磨石か
15	1966	B9北区 東側	Ⅲ面	包含層2	硯石
16	1971	C9北区 西側	Ⅱ面	包含層1	硯石
17	1973	C9北区 西側	Ⅲ面	包含層2	打製石斧か
18	1972	C11北区	〇面	SK5	石垣か
19	1974	C11北区	Ⅰ面	SX22	砥石
20	1975	C11北区	Ⅱ面	SX44	打製石斧

### 3. 結 果

第23表に、肉眼観察により石製品の石材同定を行った結果を示す。なお、各石材の記載は、表面観察による色調や構成鉱物、岩石組織、破断面の特徴等について行った。

以下に、代表的な石材の特徴について記載した。

#### 1. シルト岩(第71図-1)

灰白色で硬質の砂質シルトである。

#### 2. 砂岩(第71図-2)

灰色で片理があり、細粒雲母を多く含む硬質のシルト質細砂である。

#### 3. 凝灰岩(軽石質)(第71図-3)

いずれも灰色で、軽石(1~50mm)が混じる軟質の泥質岩である。

#### 4. 凝灰岩(泥質)(第71図-4)

灰色~灰白色~黄灰色で、層理が見られる硬質~やや硬質の泥質凝灰岩である。一部の石材には軽石が含まれる。

#### 5. 凝灰岩(シルト質)(第71図-5)

淡黄灰色および黄灰色で、シルト質岩、やや軟質あるいは軟質のシルト質、泥岩質凝灰岩である。

## 6. 凝灰岩(砂質)(第71図-6)

灰色および黄灰色で、砂質岩、やや硬質あるいは硬質の砂質・粘土質岩である。一部の石材には軽石(1-13mm)が含まれる。

## 7. 凝灰角礫岩(第71図-7)

淡緑灰色で、軽石(1-3mm)や岩片(2-10mm)が混じるやや硬質の凝灰質岩である。

## 8. 花崗岩(第71図-8)

灰白色で、黒雲母を特徴的に含み、長石類や石英からなる花崗岩質岩である。

第24表 石材の特徴と同定結果

分析No.	資料番号	形種	特徴	岩石名	備考1	備考2
1	1957	円火・石鉢か	淡黃灰色。シルト質岩、やや軟質	凝灰岩(シルト質)		
2	1956	磨石か	灰白色、砂質シルト、硬質	シルト岩		
3	1959	石鉢	灰白色、鐵風化し砂質岩、軟質	凝灰岩(砂質)	輝石12軽石か	
4	1958	軽石	黃灰色、粘土質、硬質	凝灰岩(粘土質)		
5	1964	風石か硯か	黃灰色、シルト質泥岩、軟質	凝灰岩(シルト質)		
6	1967	鏡石	灰白色、輕石(1-3mm)混じり。泥質岩、軟質	凝灰岩(軽石質)	軽石:白色~灰色	
7	1968	鏡石	灰白色、輕石(1-25mm)混じり。泥質岩、軟質	凝灰岩(軽石質)	軽石:白色~灰色	1967と同質
8	1969	石鉢か	灰白色、輕石(1-25mm)混じり。泥質岩、軟質	凝灰岩(軽石質)	軽石:白色~灰色	1967と同質
9	1960	風石加熱の痕	灰白色、シルト質細砂、片理あり、面粒度多く含む。硬質	砂岩		
10	1961	軽石	灰白色、輕石(2mm)混じり軽石岩。やや硬質	凝灰岩(泥質)		
11	1962	軽石	灰白色、褐色質、泥岩。層理あり。やや硬質	凝灰岩(泥質)		
12	1970	石削	灰白色、輕石(1-3mm)混じり。泥質岩、軟質	凝灰岩(軽石質)	軽石:白色~灰色	1967と同質
13	1963	軽石	灰白色、泥質岩、層理あり。軟質	凝灰岩(泥質)		
14	1965	風石か磨石か	灰白色、褐色質、泥岩、層理あり。やや硬質	凝灰岩(泥質)		1962と同質
15	1966	鏡石	灰白色、輕石(1-30mm)混じり。泥質岩、軟質	凝灰岩(軽石質)	軽石:白色~灰色	1967と同質
16	1971	軟石	灰白色、黑色を含む。花崗岩質	花崗岩		
17	1973	打磨石斧か	灰白色、輕石(1-3mm)混じり。砂質岩、やや硬質	凝灰岩(砂質)	軽石:白色	
18	1972	石研か	灰白色、輕石(1-30mm)混じり。泥質岩、軟質	凝灰岩(砂質)	軽石:白色~灰色	1967と同質
19	1974	軽石	灰白色。泥質岩質岩質。層理あり。やや硬質	凝灰岩(泥質)		
20	1975	打磨石斧	淡緑灰色。輕石(1-3mm)・岩片(2-10mm)混じり凝灰質岩。やや硬質	凝灰角礫岩		

## 4. 考 察

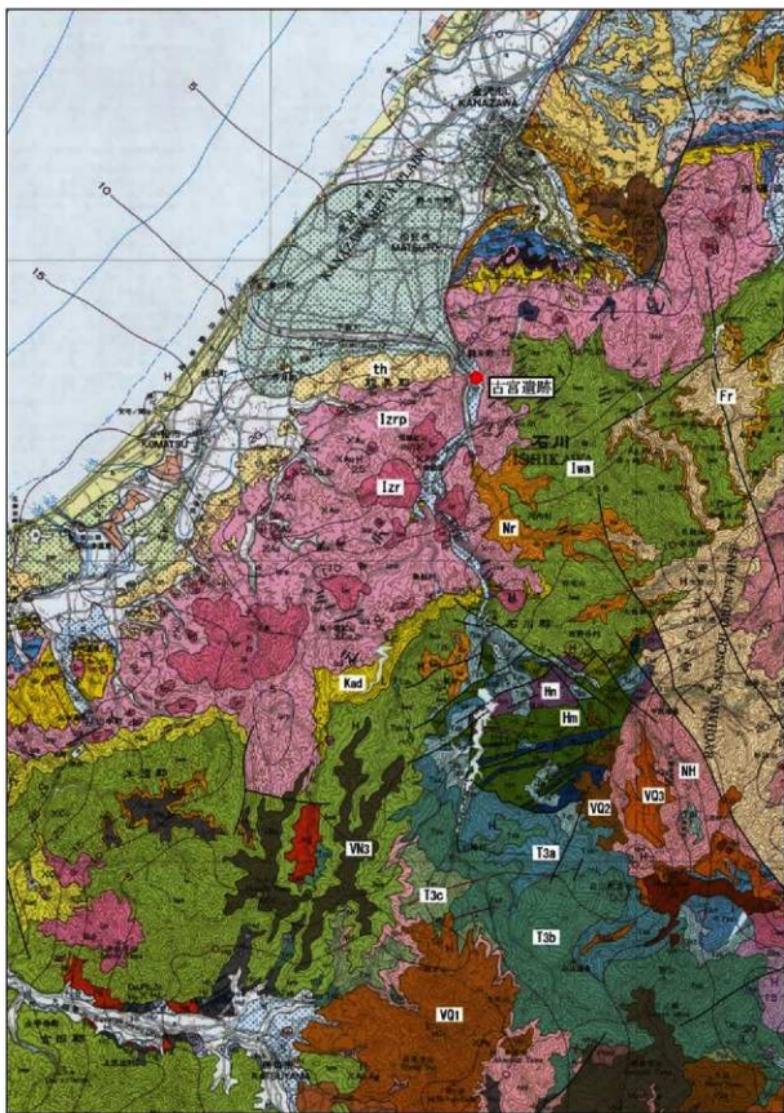
第25表に、各石製品とその石材についてまとめた。

第25表 石製品と石材の関係

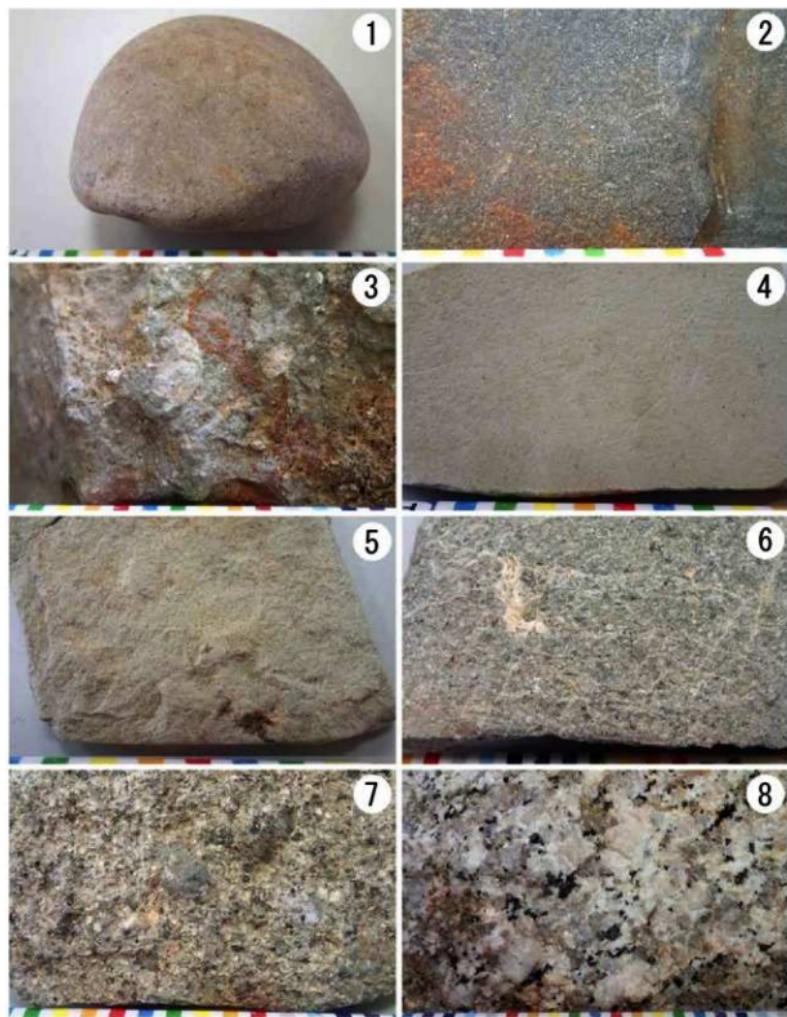
大分類	中分類	岩石名	Ⅰ面				Ⅱ面				Ⅲ面				備註
			石 灰 岩 か ら か れ る よ う な も の												
堆積岩	砂岩	シルト岩										1		1	
		砂岩				1								1	1
	火山碎屑岩	凝灰岩(軽石質)	1	1	2				1					1	6
		凝灰岩(泥質)				1					2	1		2	6
		凝灰岩(シルト質)				1	1							2	2
	火成岩	凝灰岩(砂質)							1	1				1	2
		凝灰岩(軽石質)							1					1	1
火成岩	深成岩	花崗岩										1		1	1
	矽岩		1	1	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	20

遺跡周辺や上流域では、第四紀後期更新世の古白山火山の安山岩-ディサイト溶岩・火砕堆積物及び岩屑なだれ堆積物(凡例VQ3)、中期更新世の高位段丘及び扇状地堆積物(凡例th)、中期更新世の戸室山、加賀室及び丸山火山の安山岩-ディサイト溶岩・火砕堆積物(凡例VQ2)、前期更新世の法恩寺山等の安山岩-ディサイト溶岩・火砕堆積物(凡例VQ1)が分布する。

また、新第三紀鮮新世の頤教寺山等の安山岩-ディサイト溶岩・火砕堆積物(凡例VN3)、前期中新世の糸生層最上部等の流紋岩火砕岩・溶岩(凡例Izrp)や流紋岩溶岩・火砕岩(Izr)、竹田層及び柏野層のディサイト火砕岩(凡例Kad)や糸生層下部-上部等の安山岩-ディサイト溶岩・火砕岩など(凡例Iwa)、漸新世の西谷流紋岩等(Nr)が分布する。



第70図 古宮遺跡と周辺の地質図(鹿野ほか(1990)20万の1地質図幅「金沢」を編集)



第71図 岩石表面の拡大写真(マーカー幅: 2mm)

1. シルト岩(分析No.2)
2. 砂岩(分析No.9)
3. 凝灰岩(軽石質)(分析No.12)
4. 凝灰岩(泥質)(分析No.13)
5. 凝灰岩(シルト質)(分析No.5)
6. 凝灰岩(砂質)(分析No.17)
7. 凝灰角礫岩(分析No.20)
8. 花崗岩(分析No.16)

さらに、古第三紀晩新世太美山層群の流紋岩溶岩・火碎岩など(凡例Fr)、白亜紀後期の濃飛流紋岩等の流紋岩-デイサイト火碎岩など(凡例NH)、白亜紀の手取層群の砂岩シルト岩互層(T3c)や塊状または厚層理砂岩(T3b)あるいは中-粗粒砂岩泥岩互層(T3a)、三疊紀の飛驒花崗岩類(凡例Hn)、古生代中-末期の飛驒變成岩類(Hm)が分布する。

このうち、新第三紀前期中新世の流紋岩火碎岩・溶岩(凡例Izrp)は、軽石質凝灰岩や火山礫凝灰岩からなり、現在でも凝灰岩の石切り場として知られ(高田・日本遺跡学会、2019)、本遺跡の石垣や礎石、打製石斧などの凝灰岩製の石製品は、こうした周辺に分布する凝灰岩が利用されたと考えられる。

砥石などに利用されたシルト岩や砂岩には、手取川上流部に分布する白亜紀の手取層群の砂岩シルト岩互層(T3c)などに由来する河床礫が利用されたと考えられる。また、敷石も、同様に手取川上流部に分布する三疊紀の飛驒花崗岩類(凡例Hn)などに由来する河床礫が利用されたと考えられる。

いずれの石製品も、現地性の高い石材を利用したと推定される。

#### 引用・参考文献

鹿野和彦ほか 1990 『20万年の1地質図「金沢」』 地質調査所

高田祐一 2019 『産業発展と石切場』 光洋出版社

### 第3節 花 粉 分 析

#### 1. はじめに

石川県白山市白山町地内に所在する古宮遺跡では、古植生を検討するために堆積物試料が採取された。以下では、試料に対して行った花粉分析の結果を示し、堆積当時の古植生について検討した。

#### 2. 試 料 と 方 法

分析試料は、C9区やB7区、B8区から採取された計6試料である(第26表)。これらの試料について、以下の処理を施し、分析を行った。

試料(湿重量約4g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理(無水酢酸9:硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し、保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が200に達するまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。なお、十分な量の花粉化石が含まれていなかった試料については、プレパラート1枚を検鏡するに留めた。また、保存状態の良好な花粉を選んで単体標本(PLC.3344~3351)を作製し、写真を第73図に載せた。

第26表 分析試料一覧

試料No.	調査区	面	層	遺構	時期	堆積物の特徴
1	C9南	2	-	P32	室町時代	黒色(10YR2/1)シルト
2	B7南			SX46		黒色(7.5YR7/1)シルト
4	B8南 東側	-		SK19南壁	-	暗褐色(10YR3/4)シルト
6	B7南	3	包含層1	礫石16~17間アゼ	鎌倉時代~室町時代	灰オリーブ色(5Y4/2)シルト
8	B7南 東側			礫石17東側アゼ		暗灰黄色(25Y4/2)シルト
10	B7南	3	ベース	礫石17東側アゼ		浅黄色(25Y7/4)シルト

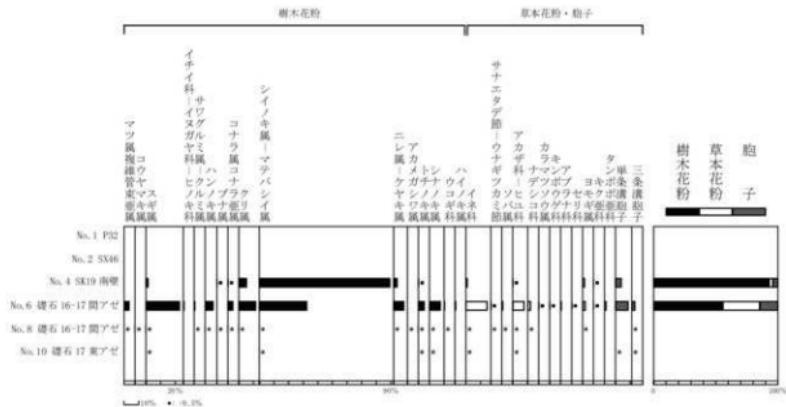
第27表 産出花粉胞子一覧表

学名	和名	No.1	No.2	No.4	No.6	No.8	No.10
<b>樹木</b>							
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属複管束亞属	-	-	-	7	1	-
<i>Sciadopitys</i>	コウヤマキ属	-	-	-	-	2	-
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	-	-	3	46	15	1
Taxaceae - Cephalotaxaceae - Cupressaceae	イチイ科 - イヌガヤ科 - ヒノキ科	-	-	-	1	-	-
<i>Pterocarya - Juglans</i>	サクランボ属 - クルミ属	-	-	-	1	2	-
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	-	-	-	11	3	-
<i>Fagus</i>	ブナ属	-	-	1	-	1	-
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亞属	-	-	1	7	2	-
<i>Castanea</i>	クリ属	-	-	11	23	2	-
<i>Castanopsis - Passania</i>	シノキ属 - マテバシイ属	-	-	184	65	8	1
<i>Ulmus - Zelkova</i>	ニレ属 - ケヤキ属	-	-	5	14	2	-
<i>Mallotus</i>	アカメガシワ属	-	-	-	-	1	-
<i>Aesculus</i>	トチノキ属	-	-	1	8	2	1
<i>Tilia</i>	シナノキ属	-	-	-	15	1	1
Araliaceae	ウコギ科	-	-	-	1	1	-
<i>Symplocos</i>	ハイノキ属	-	-	1	-	-	-
<b>草本</b>							
Gramineae	イネ科	-	-	2	52	4	2
<i>Polygonum sect. Persicaria - Echinocaulon</i>	サクエタデ節 - ウナギツカミ節	-	-	-	1	3	-
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属	-	-	-	3	2	-
Chenopodiaceae - Amaranthaceae	アカザ科 - ヒユ科	-	-	1	28	6	2
Caryophyllaceae	ナナシ科	-	-	-	7	5	-
<i>Thalictrum</i>	カラマツソウ属	-	-	-	1	-	-
Ranunculaceae	キンポウゲ科	-	-	-	1	-	-
Brassicaceae	アブラナ科	-	-	-	2	-	-
Apiaceae	セリ科	-	-	-	1	-	-
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	-	-	3	7	2	-
Tubuliflorae	キナ亞科	-	-	1	1	-	-
Liguliflorae	タンボボ科	-	-	-	4	-	-
<b>シダ植物</b>							
monolet type spore	單条溝胞子	-	-	9	31	-	138
trilete type spore	三条溝胞子	-	-	-	8	1	29
<b>ArboREAL pollen</b>							
NonarboREAL pollen	樹木花粉	-	-	206	200	43	4
Spores	草本花粉	-	-	7	108	22	4
Total Pollen & Spores	シダ植物胞子	-	-	9	39	1	167
	花粉・胞子总数	-	-	222	347	66	175
unknown	不明	-	-	-	13	-	-

### 3. 結 果

6試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉16、草本花粉12、形態分類のシダ植物胞子2の、総計30である。これらの花粉・胞子の一覧表を第27表に、分布図を第72図に示した。分布図における樹木花粉の産出率は樹木花粉总数を基数とした百分率で、草本花粉と胞子の産出率は産出花粉胞子总数を基数とした百分率で示してある。図表においてハイフン(-)で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。

検鏡の結果、4試料(No.1, No.2, No.8, No.10)からは十分な量の花粉化石が得られなかった。十分な量の花粉化石が得られたNo.4のSK19南壁では、樹木花粉のシノキ属-マテバシイ属の産出が目立つ。また、No.6の礎石16-17間アゼの樹木花粉ではスギ属やハンノキ属、コナラ属コナラ亞属、クリ属、シノキ属-マテバシイ属、ニレ属-ケヤキ属、トチノキ属、シナノキ属が、草本花粉ではイネ科、アカザ科-ヒユ科の産出が目立つ。



第72図 古宮遺跡における花粉分布図

樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は産出花粉胞子総数を基数として百分率で算出した。

\*は樹木花粉200個未満の試料について、検出した分類群を示す。

#### 4. 考察

6試料のうち4試料においては、十分な花粉化石が得られなかつた。一般的に、花粉は湿潤を繰り返す環境に弱く、酸化的環境下で堆積すると紫外線や土壤バクテリアなどによって分解され、消失してしまう。したがつて、堆積物が酸素と接触する機会の多い堆積環境では、花粉化石が残りにくいく。今回の4試料の採取層準は、酸化的環境に晒されていたために、花粉化石が分解・消失してしまつたと考えられる。

そうしたなか、十分な量の花粉化石が得られた試料No.6の礎石16~17間アゼ3面(鎌倉時代~室町時代)では、樹木花粉のシノキ属-マテバシイ属の産出が目立っており、当時の遺跡周辺にはシノキ類からなる照葉樹林が分布していたと考えられる。また、スキ属やシナノキ属の産出も目立ち、遺跡周辺にはスキやシナノキ属も分布していたと考えられる。なお、シナノキ属については、宗教施設と関係している可能性もある。すなわち、シナノキ属という分類群には、1168年に中国の天台山から栄西が持ち帰ったとされ、寺院を中心に植栽がよく見られるボダイジュ(堀田、1995)が含まれている。今回得られたシナノキ属花粉がボダイジュかどうかは不明であるが、シナノキ属花粉と宗教施設の関連性の検討が今後の課題であろう。その他には、マツ属複維管束胚乳やコナラ属コナラ属、クリ属といった二次林要素の花粉の産出も見られ、遺跡周辺の開けた明るい場所にはクリやコナラ、ニヨウマツ類などから成る二次林も広がっていた可能性がある。ハンノキ属は手取川周辺の低地に分布していたと考えられ、ニレ属-ケヤキ属やトノキ属などが河畔林を形成していた可能性がある。

草本花粉では、イネ科とアカザ科-ヒユ科の産出が目立つため、試料採取地点周辺にはイネ科やアカザ科-ヒユ科が分布を広げていた可能性がある。また、栽培植物のソバ属も産出しており、当時の遺跡周辺においてソバ栽培が行われていた可能性がある。なお、ソバ属は4面の礎石16~17間アゼ(No.8)でも確認されている。

十分な量の花粉化石が得られたSK19南壁(No.4)では、照葉樹林要素のシイノキ属-マテバシイ属が突出する。SK19南壁(No.4)の堆積時には、遺跡周辺においてシイ類からなる照葉樹林が分布を拡大させていた可能性がある。

## 引用・参考文献

堀田 滉 1995 「シナノキ」『週刊朝日百科植物の世界』第76号 朝日新聞社 118-121頁



第73図 産出した花粉化石

- |                                 |                              |
|---------------------------------|------------------------------|
| 1. マツ属複維管束亞属 (PLC.3344 No.6)    | 2. コナラ属コナラ亞属 (PLC.3345 No.6) |
| 3. シイノキ属-マテバシイ属 (PLC.3346 No.4) | 4. シナノキ属 (PLC.3347 No.6)     |
| 5. ニレ属-ケヤキ属 (PLC.3348 No.6)     | 6. アカザ科-ヒニ科 (PLC.3349 No.6)  |
| 7. イネ科 (PLC.3350 No.6)          | 8. ソバ属 (PLC.3351 No.6)       |

## 第5章 総括

### 第1節 遺跡の変遷と出土したカワラケについて

#### 1. 遺跡の変遷(第4~68図、第2~21表、図版1~40)

今回、一般県道手取川自転車道線(通称、手取キャニオンロード)改築事業に伴い、1,350m<sup>2</sup>(平面積550m<sup>2</sup>)を発掘調査した。調査区は旧線路敷部分の幅約5m、延長約110mの細長いもので、工事との調整から、A区・B区・C区の3地区に分けて調査を行った。

調査の結果、北側のA区では2面の遺構面を確認し、中世後半のカワラケをまとめて廃棄したとみられる土坑SX13がみつかった。中央部のB区では整地層や遺物包含層を挟み平安時代後期~室町時代後期にかけての最大5層の遺構面を確認し、SB01やSB02など建物の礎石や礎石列、石列をもつ区画溝SD1・2、飛び石の道状遺構SX72、石疊状の敷石遺構SX71、石段状の遺構など石を用いた遺構を多く検出した。また、焼土や炭化物、被熱痕跡のある礎石や土坑など火災痕跡をSX46・47・70など複数の遺構や整地層・包含層で確認した。南側のC区では4面の遺構面を確認し、土石流の堆積とみられる人頭大以上の自然礫層を掘り込む石列や土坑、柱状高台をもつカワラケが多く出土した包含層や落ち込みSX37などを検出した。B区の遺構面の時期は、第Ⅰ面は室町時代後半~戦国時代、第Ⅱ・Ⅲ面は室町時代中頃~後半、第Ⅳ面は鎌倉時代前半~室町時代前半、第Ⅴ面は平安時代後半~鎌倉時代前半、第Ⅵ面以下は平安時代中頃~後半頃を中心と考えられる(第41図・図版14)。出土遺物は大量出土の素焼きの皿「カワラケ」を中心に、中国製の青磁や白磁の花瓶や碗・皿、瀬戸焼の製品、加賀焼や珠洲焼、越前焼のすり鉢や甕、砥石などの石製品、鉄釘や銅錢など、小片になったものが多いが、豊富な遺物が大量に出土しており、当地での多彩な活動の痕跡がみられる。

今回は、調査区の幅が狭く全体を把握することはできなかったが、B・C区を中心に検出した遺構は、当時の「白山本宮」に関係した施設とみられ、次節の文献史料からも知られる度重なる白山本宮での火災や洪水などのたびに繰り返された神殿の再建などを裏付けるものである。『白山比咩神社旧社地(安久壽之森)乙図』(金鏡宮蔵 明治初期)(図版14)には、南北41間、東西35間の敷地中央に縁の高まりが描かれている。古宮公園の水戸明神裏にある大岩とみられ、現在でも磐座として信仰の対象とされていることからも、今回の調査区のB・C区は絵図に描かれた白山本宮(白山比咩神社旧社地)の一画にあたり(第4図・図版14)、B区北側で検出された平らな面を持つ大きな石列は、位置や方向からも絵図にある敷地境の北辺部分に積まれた石積みまたは土塀の基礎とみられる。文明12(1480)年の大火により白山本宮は現在白山比咩神社のある三宮の地へと遷座したが、旧社地の中心部分は現在まで開発を受けず残されていることから、遺構の遺存状況は良好と推定される。

次節の文献『白山之記』にみえる「嘉祥元(848)年の勅命により白山本宮に40余りの神殿・仏閣の造立がなされた」と書かれた時期の遺構は今回の調査区内では明らかとなっていないが、平安時代中頃の遺物が出土していることから、周辺にこれら白山本宮に伴う社殿などの施設が建てられていた可能性がある。B区は礎石建物など遺構の遺存状況が良好であった平安時代末~鎌倉時代頃とみられるIV・V面の調査で終了し、山砂により保護層を設けて現地にて保存したが、今後、周辺地で最下層面までの調査を行えば、文献に記されたこの地に白山本宮が遷座された時期の遺構がみつかる可能性がある。また、B区IV面SB01bでみつかった飛石状の礎石を伴う建物は、現在の白山比咩神社神門横に鎮座する荒御前神社の礎石構造との類似点がみられ、今後類例を検討する必要がある。

## 2. 出土したカワラケについて(第49~68図、第2~21表、図版15~40)

今回出土した遺物の9割以上は、細かく割られた平安時代後期～室町時代後期の素焼き土師器の皿であるカワラケ片で占められ、遺構や包含層、整地層などから多量に出土している。白山登山前に白山本宮に立ち寄り、カワラケを使用した安全祈願の祈りを行った後、山へと向かった人々の姿が想像される。また、この状況からは、白山本宮では長期間に渡りカワラケを用いた祭事が頻繁に行われ、次節の文献にみられる度重なる火災や洪水などの災害後に行われた敷地造成の際に、造成土にカワラケ片が混ぜられていた状況がうかがえる。

出土したカワラケのはほとんどは小破片で、紙数も限られることから図化した土器は全体の一部である。また、カワラケの種類で出土量が多いのは、平安時代後半～鎌倉時代初めにかけてつくられたとみられる底部に柱状高台を持つ土器である。この時期には寛治5(1091)年の加賀国司藤原為房の下向日記である『為房卿記』の中に白山本宮において為房による国司神拝が行われたとされ、その後も中世の間神拝が続けられていることからも加賀一の宮となった白山本宮において度々大規模な儀礼が行われ、その際にカワラケが用いられたとみられる。

この柱状高台を持つカワラケについて、出土した調査区や面ごとに形態やサイズに違いがあるか、時期はいつかなど、図化し今回掲載したカワラケ以外に計測のみを行ったものも含め分析を行っているが、紙数が限られることから、この成果は別稿で改めて報告する予定である。

今後も遺跡内での調査区の正確な位置や各面と遺構の詳細な時期、文献資料にみられる自然災害の比定、祭事の内容などと出土遺物の時期とを総合的に検討することで旧社地の構造が復元的に推考できる。また、調査事例の増加や加賀国總社の府南社と想定されている小松市南野台遺跡の調査成果、小松市那谷寺、加賀市南郷堂林廃寺跡など同様な性格を持つ他の遺跡と比較することで、白山本宮の構造や変遷をより明らかにできるものと考えている。

## 第2節 白山本宮の造営について

### 1. はじめに

白山比咩神社に伝わる記録『白山大神宮御鎮座伝記』によると、白山の大神が最初に鎮座したのは、現在の社地の北に所在する舟岡山であった。同記録では、舟岡山から手取川の十八講河原へ遷座したのちに、安久壽之森の社地に鎮座したとある。この旧社地の西側は手取川の断崖で、河畔の景勝が安久壽ヶ淵であり、「古宮」とよばれている。また白山縁起のなかで最古の内容を記す『白山之記』(重要文化財、白山比咩神社所蔵)は、靈龜元年(715)に白山比咩神が示現し、天長9年(832)には加賀・越前・美濃に、白山登拝の拠点となる三馬場が開かれたと伝える。三馬場は天台宗の總本山である比叡山延暦寺の末寺となり、比叡山の地主神であった近江坂本の「日吉七社」の例にならい、それぞれの社の構成を、七社を基軸に再編・整備した。

白山比咩神社が初めて文献に登場するのは『日本文德天皇実錄』で、仁寿3年(853)に加賀国白山比咩神が從三位に叙された記事である。その後6年後の貞觀元年(859)、全国267社に神階の叙位があり、白山比咩神は正三位に昇叙されている(『日本三代実錄』)。このような「神階」とよばれる位階授与は、神社の序列化を進め、神社に対する律令国家による新しい組織化が図られたものであると考えられている。

また延長5年(927)に奏上された『延喜式』卷9・10は「神名帳」とよばれるが、全国の3,132座の神々

が記載されている。「神名帳」に記載された神社は「式内社」と称され、神祇官から幣帛が頒下される官幣社と、国司から頒下される國幣社に大別され、さらに国家祭祀とのかかわりによって大社と小社に区分されていた。白山比咩神社は『延喜式』(巻10、神祇10)の加賀国42座の内、石川郡10座に登載されている。白山信仰の拠点で白山三馬場の中心となる加賀、越前、美濃の中で、加賀の白山比咩神社のみが延喜式神名帳に登載され、官社として位置づけられていたことは重要である。

加賀馬場では、11世紀以来、加賀国の「一宮」として国鎮守的な立場となった白山本宮と、その別当寺である白山寺が管内寺社の中心となっていた。特に白山寺の長吏は、白山七社の惣長吏を兼ね、加賀馬場全体を代表する存在となっていた。

## 2. 加賀一宮としての白山本宮

『白山之記』には、嘉祥元年(848)の勅命によって白山本宮に40余字に及ぶ神殿・仏閣の造立がなされ、若干の神田・講田が免田とされ、鎮護国家の壇場に定め置かれたことが記されている。さらに続けて「凡白山本宮、延喜神名帳に入る、三十三年に一度御造替と云々、国司重任の劫(功)を募り、事を行い造らしむ、公家御大宮の社壇(壇)なり」と記述されている。しかし白山本宮において33年に一度の式年遷宮があったことを窺わせる史料は他には見えない。社殿については『続左丞抄』の治暦4年(1068)10月29日に、加賀国白山社の神殿并に御駄等が焼亡し、再び造立がなされたとある。『白山之記』など在地の史料にこの焼亡を示す記述は見られないが、官社として神社の本殿や御神体が整備されていたことを示すものと考えられる。

また『白山之記』には「白山宮一宮名事」と書き出す部分があり、白山本宮が一宮と称していたことがわかる。諸国の一宮制の成立は、11世紀後半から12世紀前半とされているが、白山本宮が加賀国の一宮となった時期は定かではない。

諸国の一宮制は原則として令制国1国に1社を建前としており、その選定基準を規定したものはない。最も重要な特徴の1つは、各國ごとに設けられた「國の鎮守神」であることとされている。しかしながら諸国の一宮の中には、中世を通じて「一宮」の呼称が成立しないし定着しなかった事例が多数見られ、地域的な多様性があることが指摘されている。それは「國の鎮守神」であると言う性格上、それぞれの地域が持つ政治・社会的な特性と緊密に結び付いているからと考えられている。

一方、通説では一宮の起源は、国司が巡幸する神社の順番にあると言われている。国司の赴任、任国での諸行事、為政の心得などについては、『朝野群載』巻22の「國務条々事」に42箇条にわたり記されている。その中に、「一、神拝後、吉日時を択び、初めて政を行ふ事」、「一、吉日を択び、始めて交替の政を行ふ事」とあり、国司は任国に赴任すると、神拝の後に初めて政を行い、交替事務を開始することになっていた。すなわち何よりも神拝が第一とされたのである。寛治5年(1091)6月、加賀国司として加賀国に下向した藤原為房の日記である『為房卿記』には、為房の国司神拝が記載されている。そこには下国中の7月1日から23日に帰洛するまでの記事が見られるが、7月13日に白山本宮において穀物豊穣の祈願として最勝講を斎修するなど、勧農を目的とした国衙祭祀を行っていたことが記されている。さらに天永2年(1111)にも、国守藤原顯輔が白山本宮を神拝し、国司として一宮での法会や神前参拝を行っている(『左京大夫顯輔卿集』)。

また諸国一宮の造営については、一般的には一国平均役が充てられていた。一国平均役とは臨時の課役で、一国内の莊園・公領に一律に課され徵収されたものである。前述のように国司が国衙の祭祀に深く関与することで、社殿などの造営についても、一国平均役の賦課が国衙の保障のもとで行われるようになっていたのである。この状況を示しているのが、永治元年(1141)8月4日付の加賀国司庁

宣案である〔醍醐雜時記〕。これは、醍醐寺領加賀国得藏莊に課された、白山修造の所課を免除したものであるが、この「白山修造」の所課について、権門勢家を論ぜず徵収する旨が記されており、一国平均役によりその費用が調達されていたことが確認できる。得藏莊については、伊勢神宮の式年造営料である役夫工米や、京都御所修理の造内裏作料の一国平均役の所課に関しても、醍醐寺からの申請によって朝廷から加賀の国衙経由で免除が認められていた。当時醍醐寺は白河上皇の帰依を得て寺勢を高めており、臨時課役の免除などの優遇を得ていたのである。

白山本宮は一宮として、勸農を目的とした国衙祭祀を担うことで国衙機構と深く係わっており、その経済基盤である神領は、一円知行地の石川郡米丸保と白山麓の河内莊のほかに、国衙領内に設定された多くの神免田で構成されていた。神免田は、田畠の年貢・公事などが免除される代わりに、指定された神社にその分を進納することが定められており、ここでは加賀の国衙によって、白山本宮への進納が義務付けられていた。特に石川郡米丸保は、白山本宮の毎日の御日供(神前への供物)に係る経費を負担する神領で、御供田保とも称していた。

### 3. 一国平均役による造営

『白山之記』によると、白山本宮には宝殿(本殿)・拝殿・彼岸所・管理施設である政所・大倉、攝社である荒御前・糟神・滝宮・禪師宮の各本殿・拝殿・戒殿、白山寺の主要堂宇で御内八堂と呼ばれる講堂・劍講堂・西堂・東堂・十一面堂・馬頭堂・新三昧堂、付属施設の鐘樓・武徳殿・五重塔・四足門・廻廊などの堂宇が40余字に及んだことが記されている。鎌倉時代においてもその造営は、白山本宮が加賀国の一宮であることから、国衙が国内一円に造営料として賦課する一国平均役によって貯められていた。

寛喜元年(1229)、加賀の国司より申請された白山本宮造営用途の調達が勅許された。これを受けて太政官の官務を世襲する小槻季継が、家領加賀国石川郡の北嶋保に課せられる造白山料米の免除を申請するなど〔民経記〕、白山造営料の忌避を企てる動きがあった。これらの動きに対して、白山本宮は強硬な姿勢をもって糾弾した。

嘉禎元年(1235)、加賀の知行國主であった平經高が、白山宮造営料米(造白山料米)として加賀国内の莊園・公領(国衙領)一円に、段別5升あての割合で一国平均役を賦課したところ、石川郡大野莊の地頭代と莊官が造営役の段米を出し渋った。そのため翌年になり、白山本宮の衆徒・神人らが白山三社(本宮・金劍宮・岩本宮)の神輿を奉じて、同莊内に押しかけたのである(〔白山宮莊嚴講中記録〕)。白山衆徒らの神輿動座を知った大野莊の地頭・莊官は、いずれも居館から姿をくらましていたことから、衆徒らは神輿を振り棄てたまま引き上げた。しかしその後も段米の進納が無いため、今度は白山諸社の神鉾を奉じて、再び莊内に押し入った。

この頃の大野莊の莊園領主は定かではなく、史料を欠くため詳細は不明である。鎌倉時代末期には、大野莊の地頭職は幕府執権の北条得宗家が掌握し、得宗被官が地頭代を勤め、地頭代の代官として足立嚴阿が現地に派遣されていたことが知られる。嚴阿が注進した正中2年(1325)の田数注文によれば、領家・地頭両分の総田数は、282町7反余で、総畠数は36町3反余とされ、年貢・課役の収納分は分米396石1斗9升8合、分大豆109石3斗7升7合、錢200貫783文、総45両余であった。

白山本宮の造営は、延応元年(1239)6月に至り、知行國主平經高の積極的な支援もあり、ようやく上棟にこぎつけた。しかし8月17日、突如として白山本宮の神殿以下21宇が焼失し、本宮の御正体は武徳殿に遷御、彼岸所の觀音像は大講堂に遷された。この火災は、神主の上道氏盛の官倉が火元で、火事さわぎの間に、氏盛の妻が西側の手取川の川岸から落ちて事故死するという惨事もあった(〔白山

宮荘嚴講中記録』)。そのため翌年の延応2年正月に、再度はじめから造営計画が立て直されたのである(『平戸記』)。

先述の通り白山本宮は比叡山延暦寺の末寺となつたが、その造営については、延暦寺を経ず知行国主を通して朝廷に働きかけ、造営のための一国平均役の賦課を得ている。やはり一宮の造営は、一国平均役という国衙・朝廷との係わりの中で行われるもので、本末関係とは別次元での事業であったと考えられる。加賀の国主平經高は、国衙支配の中で一宮白山本宮の造営を重視し、精力的に朝廷に働きかけており、鎌倉時代の加賀国において国衙機構は十分に機能していたと考えられる。

#### 4. 守護富樫氏と白山本宮

建武2年(1335)9月、白山本宮に近い石川郡富樫莊を本貫地とする富樫高家が將軍足利尊氏から加賀守護に補任され富樫氏の守護支配が始まった。室町幕府体制下での守護は、鎌倉後期以来の一国平均役の賦課権を段銭の徵収権として掌握し、一国規模での領域的支配(分国支配)を強めていた。

延文元年(1356)8月、白山本宮・金雞宮の神人等が石川郡大野莊内で段米や升米を謹責することを停止させるよう、朝廷・幕府より守護富樫氏春に命じられた(『天龍寺所蔵文書』)。ここでの「段米」は、加賀一宮白山本宮の造営料のことで、鎌倉期以来の一国平均役の賦課権を踏襲したものである。

また貞治3年(1364)10月には、白山衆徒が造営と称して課役(段米)を大野莊に賦課したことに対し、同莊は一国平均役免除の地であるので停止させてほしいと臨川寺が幕府に訴えたところ、幕府はこれを認め、守護富樫竹童丸(昌家)に停止を命じている(『臨川寺重書案文』)。

さらに明徳5年(1394)3月、幕府が臨川寺の要請を容れ、同寺領である大野莊への守護使の入部と、本宮・金雞宮の神人による白山段銭の催促を目的とした乱入を停止するなどし、応永9年(1402)2月には、同莊における国役・守護役の免除と守護使不入権を臨川寺に与えたのである(『天龍寺所蔵文書』)。これらは加賀における守護権力の強化を抑制するとともに、幕府に多額の錢貨を上納し、幕府財政に多大な貢献をする五山系禪院の寺領を保護したものであろう。

こうした中で、至徳元年(1384)11月19日、白山本宮の社殿の上棟が行われ、在京していた守護富樫昌家より、白銀を打ち込んだ剣1振と神馬1疋が寄進され、また加賀国内の国人たちが100余疋の神馬を白山本宮へ奉納した。同年12月13日に正遷宮が行われ、新装の本殿・大拝殿の完成を祝い、盛大な遷座祭が催された(『白山宮莊嚴講中記録』)。

応永22年(1415)8月、將軍足利義持が加賀白山長吏に、白山本宮の造営料として、段別5升・町別人夫1人の割合で一国平均役を賦課する旨を、國中に触れるよう沙汰した(『室町家成敗寺社御教書』)。幕府が一国平均役の賦課を認める権限を掌握していると同時に、その免除措置も行っており、五山系禪院が寺領莊園に負担免除を幕府に申請し認められていたのであるが、このことが在地における白山寺社勢力と、莊園領主の紛争の原因となっていた。

応永26年(1419)6月、山城天龍寺領の石川郡横江莊にも、白山本宮の造営料別米・人夫役の免除を行なうなど、幕府が五山系禪院領に優遇措置(造営料免除)を与えた(『天龍寺重書目録』)。その結果、造営料の収納がはからず、白山本宮の造営が遅々として進まなかつた。さらに永享元年(1429)3月、白山若衆徒らは段米の徵収を守護代や幕府の上使が催促しないため、造営が困難に陥っているとして、一味神水し訴えたが認められず、翌年の永享2年閏11月に南禪寺領石川郡官保へ乱入した(『白山宮莊嚴講中記録』、「御前落居奉書」)。幕府は、そうした白山若衆徒たちの官保への乱入狼藉行為に対し厳しい態度でのぞんだ。このことは、在地の土着勢力として勢威を誇っていた白山本宮が、室町幕府・守護体制のもとで、次第に一国平均役などの既得権益が奪われて行くことになったことを意味する

である。

### 5. 新たな遷座地

文明12年(1480)10月16日の戌の刻(午後8時頃)、白山本宮の正殿・塔・講堂・大拜殿・常行堂などの堂宇が炎上した。火は今町(現在の白山市鶴来今町付)の公人(本宮の雜務を管掌した下級の役人)道徳の家から出火し、類火が本宮に及んだのである。本宮の社家・寺家の社僧は、ご神体や御本尊を取り出し、三宮(現在の白山比咩神社鎮座地)に遷した。翌日の17日には、本宮の執當(諸堂の管理担当者)である桂林院澄俊が、同じく執當の平等院・了覺房・勝縁房・延命院等とともに、京都に注進し社殿の修造を願い出た。願いは受け入れられ、同年12月12日に神殿御柱の抜取が行われた。この日は戊午の日にあたり、養老2年(718)に本宮造立を行った嘉例にならったものであった(『白山宮莊嚴講中記録』)。

その後、長享2年(1488)6月1日、本宮が正式に三宮に遷座した(『白山宮莊嚴講中記録』)。文明12年より実に8年が過ぎていたが、以前の鎮座地ではなく、ご神体等を仮に遷した三宮が新たな宝殿として定められ現在に至っている。その間の造営に関する経緯は不明である。戦国期における本宮を取り巻く状況は刻々と変化しており、守護の富樫氏が真宗本願寺派の坊主・門徒らの一向一揆に圧迫されすでに傀儡化し、加賀国内の主導権は本願寺や一向一揆の真宗教團勢力に握られていた。

享禄4年(1531)、本願寺に後押しされた越前の超勝寺・本覚寺と、加賀の本泉寺・松岡寺・光教寺という「賀州三か寺」との争いでは、加賀に下向した下間頼盛が白山本宮惣長吏澄祝法印の助力を得て、賀州三か寺派の清沢願得寺を攻めて放火した。これにより近接する金輪宮と周辺の寺家・在家が悉く焼失したのである(『白山宮莊嚴講中記録』)。

白山本宮に関する記述は見られないが、その社殿についてもこれらの影響は少なからずあったことは想像するに難くないであろう。

### 6. 加賀藩主前田家による再興

天正12年(1584)7月28日、正親町天皇から白山七社惣長吏に充て、再興を督励する諭旨が下された。「近年國中錯乱により社頭退転す」との文面からも、戦国期に社頭が荒廃していたことが窺える。この諭旨は、当時の白山本宮の惣長吏が朝廷に働きかけ、実現したものであった。さらに社頭再興の諭旨を獲得したことで、白山本宮は加賀の新たな領主となった前田利家の外護を得たのである。天正14年に利家が金品の奉加を行い、慶長元年(1596)には前田家による社殿再建が成就している。

白山宮の造営は、前田利長・利常の時代においても続けられた。慶長11年(1606)4月18日に社殿造立のための募財を勤める後陽成天皇の諭旨が下付され、これに応えるように同年6月16日には、利長が白山宮に金品を奉加している。

また慶長16年には、前田家の家臣である篠原一孝・奥村栄明・横山長知が白山宮の社殿建立に関する法度を定めている。この法度によると、工事期間中の大工諸職人・手伝い人は、毎日朝は「天あけ」から晩は「日之暮」まで、作事場に詰めることが義務付けられていた。また用材の切れ端や釘・鍵など一切作事場の外へ持ち出さないこと。境内においては竹木の伐採と運搬用の牛馬の放牧も禁じられており、これらに違反したものは厳しく処罰とされていた。また同年12月24日には、前田利光(利常)が白山宮への立願として、年中毎日供米10石8斗と、年中40余度の祭礼料22石5斗の都合33石3斗を寄進している。以後、白山宮の造営は、近世を通じ加賀藩主前田家により藩費で行われていた。

延宝2年(1674)4月、白山宮から加賀藩寺社奉行に提出した社堂書上によると、当時の社頭は、本

社(本殿)・拝殿・御供所・本地護摩堂(本地堂)・荒御前(社)・小宮・鐘撞堂各1字の7字から構成され、江戸時代を通して変化はなかったとみられる。社頭の造営は、慶長元年の白山宮の再興後、明治に至るまで約20回が史料から確認でき、造営の内容は、造立(再建)・修理・屋根葺替・神具修復など多様である。そのなかでも寛文8年(1668)と明和7年(1770)の造営は、社殿の全面的な建て替えをともなう大規模なものであった。

現在の白山比咩神社の本殿(県指定文化財)は、この明和7年に建立されたもので、完成時の藩主は前田重教(10代藩主)である。この造営は、寛延4年(1752)に神主中より藩の寺社奉行所に、社頭大破のため修復を願い出たことが始まりであった。宝暦10年(1760)に加賀藩は造営に着手し、社殿の手斧始が行われ、同13年には本社・本地堂・荒御前社の外遷宮がなされた。しかし、藩の財政難から修覆は遅々として進まなかった。そのため明和4年(1767)、長吏・神主が社頭造営の費用を獲得する目的から「万人講」の興行を寺社奉行に願い出た。万人講は、寺社の修繕を目的とした富突のことと、番号入りの富札を売り出し、後日公開の抽選によって、当選者に賞金を与えるという興行であった。加賀藩領内では、宝暦年間頃から行われており、白山宮の社頭造営の万人講も申請して認められ、明和4年秋から同6年にかけて毎月1回、金沢城下の卯辰八幡宮(現在の卯多須神社)の前で興行されていた。万人講で集めた初穂銀は、祠堂銀として積み立てられ造営に充てられたのである。明和の造営は、寛延4年に修覆の申請が出されており、完成までに20年の歳月を要したことになる。

## 7. むすび

白山本宮は、古来より白山信仰の中心として信仰を集めて来た。白山本宮は『延喜式』(『神名帳』)に記載され式内社と称し、11世紀頃には加賀国一宮として国鎮守的な立場となった。そのため国司が赴任後、最初に白山本宮を巡査した。そして、その造営は國家が臨時に賦課する一国平均役が充てられたのである。鎌倉時代においても引き続き一国平均役での造営がなされたが、次第に造営料の賦課を忌避する動きが顕著となり、在地において莊園領主との軋轢が生じるようになった。

室町幕府体制下では、加賀守護となつた富樫氏が一国平均役の賦課権を踏襲し、段米として白山本宮の造営料を徴収した。しかしながら、幕府によって加賀国に点在する五山系禪院領に対して、造営料が免除されたため、造営料の収納がはかどらず、白山本宮の造営が遅々として進まなくなつた。白山本宮は在地において勢威を振るっていたが、次第に造営料などの既得権益が奪われて行った。

文明12年(1480)の火災により、白山本宮は三宮(現在に鎮座地)に遷座した。戦国期における本宮を取り巻く状況は刻一刻と変化し、享禄の錯乱で境内地は荒廃したと思われる。天正12年(1584)には、白山本宮の再興を督励する正親町天皇の繪旨が下され、前田利家による社殿の再建が行われた。以後、加賀藩主前田家の崇敬を受け、また藩の祈祷所としてその造営・修復料はすべて藩費で賄われるようになつた。

明治4年(1871)、太政官布告により神社は「国家の宗祀」とされ、神宮・官國幣社以下の經費定額及び神官の職制が定められた。これにより、同年に白山比咩神社は國幣小社に列せられた。祈年祭の幣帛・祭典公事の入費は、地方費から支出され、造営と年分の營繕などの費用は、官費(大蔵省支出)で賄われることになり、この年の大嘗祭には、奉幣使として石川県令内田政風が参向した。大正3年(1914)には國幣中社に昇格し、白山会が組織され、境内的拡張や拝殿の改築が始まり、社頭も一新され旧藩時代の面影も薄れていった。

## 参考文献

- 白山本宮神社史編纂委員会 2008 「白山信仰史年表」 白山比咩神社
- 白山本宮神社史編纂委員会 2015 「白山比咩神社史」古代・中世篇 白山比咩神社
- 白山本宮神社史編纂委員会 2010 「増訂図説白山信仰」 白山比咩神社
- 鶴来町史編纂室 1989 「鶴来町史」歴史篇-原始・古代・中世- 石川県石川郡鶴来町
- 鶴来町史編纂室 1997 「鶴来町史」歴史篇-近世・近代- 石川県石川郡鶴来町
- 金沢市史編さん委員会 2004 「金沢市史」通史編1原始・古代・中世 金沢市
- 中世諸国一宮制研究会 2000 「中世諸国一宮制の基礎研究」 岩田香院
- 鶴岡八幡宮 2017 「季刊 悠久」148号 錦倉市

第28表 造営・遷宮史料(中世)

年号	西暦	月日	記事	出典
治承4	1068	1029	加賀國白山本宮の神殿・御体等が焼失する	続左近抄、東王土代記
延久2	1070	1227	白山宮の被損した御体等につき、焼け残った像を新造の像内に籠め奉るに除陽臺に命じて占ぜせる。不吉にて行はず。	扶桑略記、百駄抄
大治5	1130	0307	加賀國白山中宮執行大法師某、前年の大火で神事料物等焼失により、越中国日代に、加賀郡那賀津所の越中國食庫の食米借用を依頼する	「医心方」紙背文書
延応1	1239	0606	加賀國白山本宮神殿の種工が行われる	白山宮莊嚴講中記録
延応1	1239	0817	加賀國白山本宮の神主・吉守氏政の官宮から出し火し、新造の神殿以下21宇を焼失する。その際、本宮の御正体は武藏殿に遷御。後院の音頭は金環に遷される	白山宮莊嚴講中記録
仁治1	1240	0100	加賀國白山本宮の造営につき、公卿の賛議が行われる	平戸記
仁治1	1240	0423	加賀國白山本宮の震災等、一ノ平均の震宮造営段系数試認の認可を訴え、遷京すること二ヵ年とし及ぶ。同日、加賀國知行主前参議民部卿平經高、衆徒等の愁訴の内容を、前閣白近衛家業に上申する	平戸記
仁治1	1240	1214	摂政・御衛衛親の任太政大臣鑑会のため、加賀國に様式の調進が命じられるに際し、白山本宮は震災の事により謀殺免除の宣旨を下されたが、國主平經高、妻鏡の次如然止難く、挙兵を調画する	平戸記
寛元2	1244	0719	加賀國白山本宮の大崩落が焼失する。次いで8月10日、同室の木作始を行う	白山宮莊嚴講中記録
寛元2	1244	0725	加賀國白山本宮の解状を、関白二条良実、同国知行主平經高に付す	平戸記
建長4	1252	0620	加賀國白山本宮の市場在家が、洪水により流失する	白山宮莊嚴講中記録
建長4	1252	1207	加賀國白山本宮の神御宮の本殿ならびに拜殿が焼失する	白山宮莊嚴講中記録
文保1	1317	1011	加賀國白山本宮が焼失する	三宮古記
文保2	1318	0620	加賀國白山本宮の摂社荒御前・瀧宮・加須神の本殿遷座が行われる	白山比咩神社文書
元応1	1319	0329	加賀國白山本宮の遷宮が行われる	三宮古記
元応2	1322	0126	加賀國白山本宮の社殿講中が、造営許所を始める	白山宮莊嚴講中記録
嘉祥3	1328	0108	加賀國白山本宮に、初めて談議所が造立される	白山宮莊嚴講中記録
元應1	1329	0223	加賀國白山本宮、一切財産の造立に着手し、同年4月に竣工する	白山宮莊嚴講中記録
元應2	1330	0502	我孫禪天窟、延喜寺に命じ。加賀國白山神の南御寺守御同得橘橋、笠原保への造営段系数止せざる	南禪寺文書
元應2	1330	0600	加賀國白山本宮王室殿が造立され、同年9月に遷宮を行ふ	白山宮莊嚴講中記録
寛応1	1350	0319	加賀國白山本宮、本社の外遷宮及び荒御前社の正遷宮を行う	白山比咩神社文書
正平5	1351	1123	加賀國白山本宮の五重塔・南大門棊屋等、落雷のために焼失する	白山宮莊嚴講中記録
正平6	1357	1116	加賀國白山本宮、本社及び荒御前社の正遷宮を行う	白山比咩神社文書
延文2	1357	1220	加賀國白山本宮の摂社御膳宮の外遷宮を行う	白山比咩神社文書
正平12	1365	0427	加賀國白山本宮が弁才天殿の柱立を行う	白山宮莊嚴講中記録
貞治4	1365	1213	加賀國白山本宮が正遷宮を行ふ	白山宮莊嚴講中記録
至徳1	1384	0123	加賀國白山本宮の上殿が行われ、ついで28日に遷座する	白山宮莊嚴講中記録
元中1	1425	0701	加賀國白山本宮の被損所により出火し、伊御殿・拜殿・正殿・大拜殿を焼失する	白山宮莊嚴講中記録
延永32	1426	0107	加賀國金御宮の被損所により出火し、伊御殿・拜殿・正殿・大拜殿を焼失する	白山宮莊嚴講中記録
延永33	1426	0107	加賀國白山本宮が上殿され、ついで12月21日、瀧宮を行ふ	白山宮莊嚴講中記録
宝徳2	1450	1126	加賀國白山本宮が焼失する	白山宮莊嚴講中記録
文明6	1474	0115	加賀國白山本宮の動御院が炎上する	白山宮莊嚴講中記録
文明12	1480	1016	加賀國白山本宮門前辻今町の公人道徳の家より出火し、同宮の正殿・塔・講堂・大拜殿・常行堂等を類焼する。社殿・寺家とともに御神体・本尊等を取り出し、仮に三宮へ遷す	白山宮莊嚴講中記録
文明12	1480	1212	加賀國白山本宮神殿の取扱を行う	白山宮莊嚴講中記録
長享2	1488	0601	加賀國白山本宮、同三宮本殿に遷座する	白山宮莊嚴講中記録
天文5	1536	0101	加賀國白山本宮常行堂が、懇長史祝祝の計で、水押法印と弟平等坊證基の本願により、起立される	白山宮莊嚴講中記録
天文10	1541	0811	白山神頭の大己貴社が、大風のために転倒する	白山宮莊嚴講中記録
天文17	1548	0611	加賀國白山八幡院の住僧常勝坊守尼が本願主となり、大風で転倒した白山神頭の大己貴社を再建する。ついで28日、假権上が行われる	白山宮莊嚴講中記録

『白山信仰史年表』より作成



『白山之記（白山縁起）』 嘉祥元年（848）

白山本宮の造立（白山比咩神社所蔵）



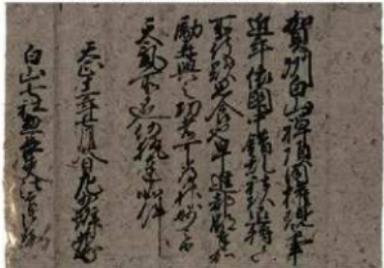
『白山宮莊教講中記録』 延祐元年（1239）8月

白山本宮の焼失記事（白山比咩神社所蔵）



『白山宮莊教講中記録』 文明 12 年（1480）10 月

白山本宮の焼失記事（白山比咩神社所蔵）



『正親町天皇詔旨』 天正 12 年（1584）

（白山比咩神社所蔵）



明和 7 年（1770）4 月造立の「白山比咩神社」本殿

## 報告書抄録

ふりがな	はくさんし ふるみやいせき							
書名	白山市 古宮遺跡							
副書名	地方道改築事業 一般県道手取川自転車道線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	安中哲徳、垣内光次郎、伊藤克江、(株)パレオ・ラボ(小林克也、藤根 久、森 将志)							
編集機関	公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731							
発行機関	石川県教育委員会・公益財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	2022年3月22日							
所取遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	発掘期間	調査面積	調査原因	
		市町村						遺跡番号
古宮遺跡	石川県 白山市 白山町 地内	17210	922500	36度 43分 78秒	136度 63分 27秒	20180627 ~ 20181113	1350m <sup>2</sup>	記録保存 調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
古宮遺跡	社寺	奈良・平安時代	堅穴状遺構、石列、土坑、溝、小穴	土師器、須恵器、石製品	整地層や遺構などから、大量のカワラケが出土。			
		鎌倉・室町時代	礎石建物、堅穴状遺構、石敷造構、石段状遺構、石列、土坑、溝、小穴	土師器、陶磁器、石製品、木製品、金属製品、銅錢	白山本宮の所在を裏付ける遺構や遺物を確認。			
要約	白山本宮(白山比咩神社)旧社地で、境内地東側の概要が明らかとなった。調査により平安時代後期～戦国時代までの最大5層の遺構面を確認した。遺構面の時期は、第Ⅰ面は室町時代後半～戦国時代、第Ⅱ・Ⅲ面は室町時代中頃～後半、第Ⅳ面は鎌倉時代前半～室町時代前半、第Ⅴ面は平安時代後半～鎌倉時代前半、第Ⅵ面以下は平安時代中頃～後半頃が中心と考えられる。建物の礎石や石列、溝などの遺構を検出し、大量出土の素焼きの皿「カワラケ」を中心に、中国製の青磁や白磁の花瓶や碗、皿、瀬戸焼の製品、加賀焼や珠洲焼、越前焼のすり鉢や甕、砥石などの石製品、鉄釘や銅錢など、豊富な遺物が多数出土した。出土遺物の9割以上は、細かく割られた平安時代後期～室町時代後期のカワラケで占められ、遺構や包含層、整地層から多量に出土している。白山本宮ではカワラケを用いた祭事が頻繁に行われており、敷地造成の際に、造成土にカワラケ片を混ぜていたことがうかがえる。これは、文献史料から知られている白山本宮の火災や洪水などに伴い繰り返された、神殿などの再建を裏付けるものである。							



遺跡の位置と環境（西から）



遺跡の位置と環境（北西から）



遺跡の位置と環境（南東から）



遺跡の位置と環境（南から）



着手前調査地全景（北西から）



A区II面(B区I面) 全景(東から)



B区I・II面 全景(東から)



B区II・III面 全景(東から)



B区III面 全景(東から)



B区IV・V面 全景(東から)



C区I・I面 全景(東から)



C区II面 全景(東から)



A区 II面 遠景（北西から）



A区 II面 全景（北西から）



A区 II面 全景（南東から）

A区 II面 土坑からまとめて出土した中世のカワラケ（南から）  
SX13A区 II面 まとめて出土した中世のカワラケ（南から）  
SX13

図版 4



A区 II面 土器器皿（カワラケ）の出土状況（東から）  
P93

A区 出土遺物



II面 SD11 加賀焼 板

A区追横 2・B区追横 1



II面 SX15 珠洲焼 すり鉢



II面 P91 青磁 碗



II面 SX16 濑戸焼 壺



B区 I面 全景（東から）



B区 I面 全景（北から）



B区 I面 造景（北から）

B区遺構 2



B区 II面 全景（北から）



B区 II面 全景（南から）

B区 I・II面 石列を持つ区画溝（東から）  
SD02B区 I～V面 敷地を区画する大型の石列（北から）  
石列 06B区 I面 石敷の道状遺構（東から）  
SX29・SK09B区 II・III面 石段状の道状遺構（東から）  
SX48・SX49・SX55B区 II・III面 石段状の道状遺構（東から）  
SD18・SX75B区 II・III面 建て替えられた小型の基礎建物（西から）  
壁石 07～15



B区 整地層に混じる多量のカワラケ小片  
B区 出土遺物



B区 まとまって出土した古代のカワラケ底部  
B区 出土遺物 III面包含層 3 (南東から)



II面包含層 1 土師器皿  
(カワラケ)



II面ベース 土師器皿  
(カワラケ)



IV面包含層 1 土師器皿  
(カワラケ)



IV面包含層 1 銅錢  
(開元通寶)



III面 SD36 (III面包含層 3)  
加賀焼 蕎麦



IV面 SK19 柱状高台皿  
(カワラケ)



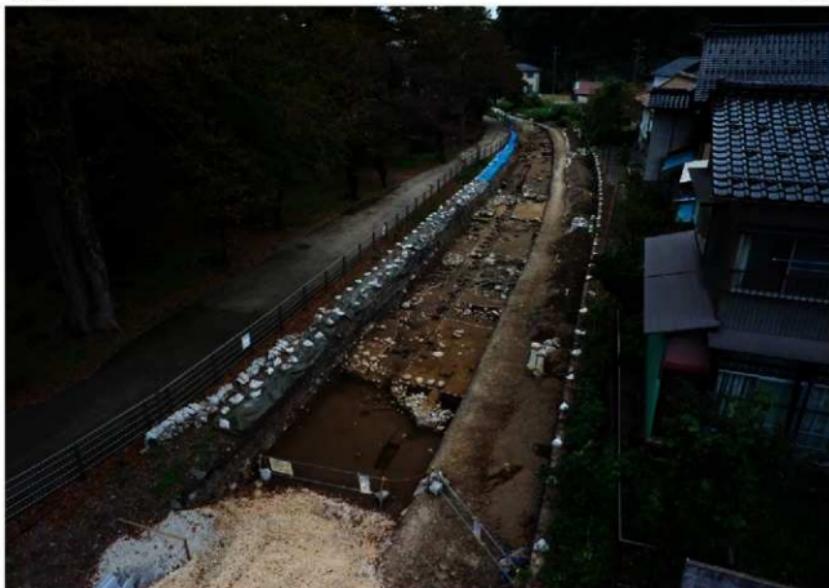
IV面包含層 1 柱状高台皿  
(カワラケ)



V面 SK19 土師器皿  
(カワラケ)



B区 III面 全景 (北から)



B区III面 遠景（南東から）



B区III面 全景（南から）

B区 II・III面 炭化物を多く含む土で埋められた土坑（西から）  
SX46・SX47B区 II・III面 敷地を区画する石列と配石状遺構（北から）  
石列 06 SX76B区 II・III面 石列を持つ区画溝と配石状遺構（東から）  
SD01（石列 04・05） SX76

図版 8



B区III面 大型土坑と敷石状遺構（東から）  
SX46・47 SX65



B区Ⅱ～Ⅳ面 同じ場所で再建された礎石建物（北から）  
SB01a・b (礎石1～3・P109)



B区IV面 再建前の礎石建物（西から）  
SB01b (礎石1～3・P109・礎石25～28)

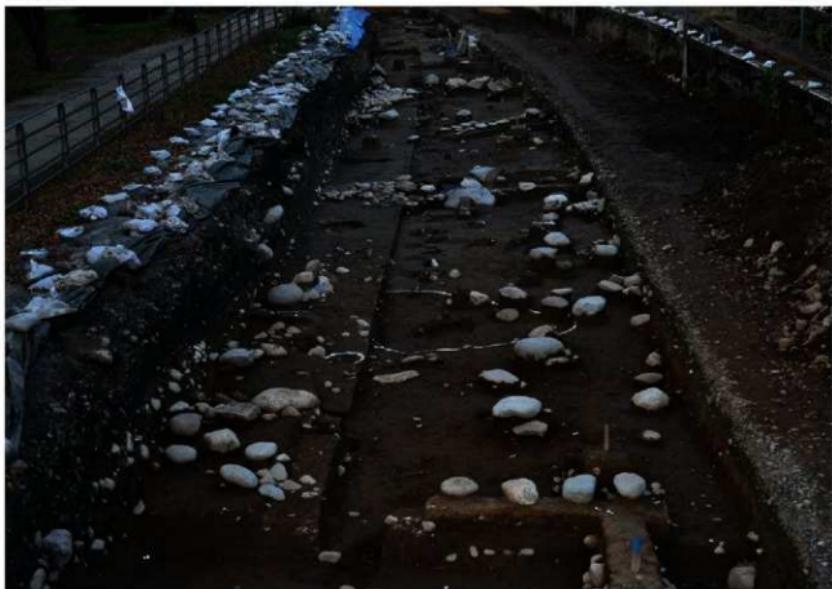


B区Ⅱ・Ⅲ面 再建後の礎石建物（東から）  
SB01a (礎石1～3・P109)



B区IV・V面 遠景（南から）

B区遺構 5

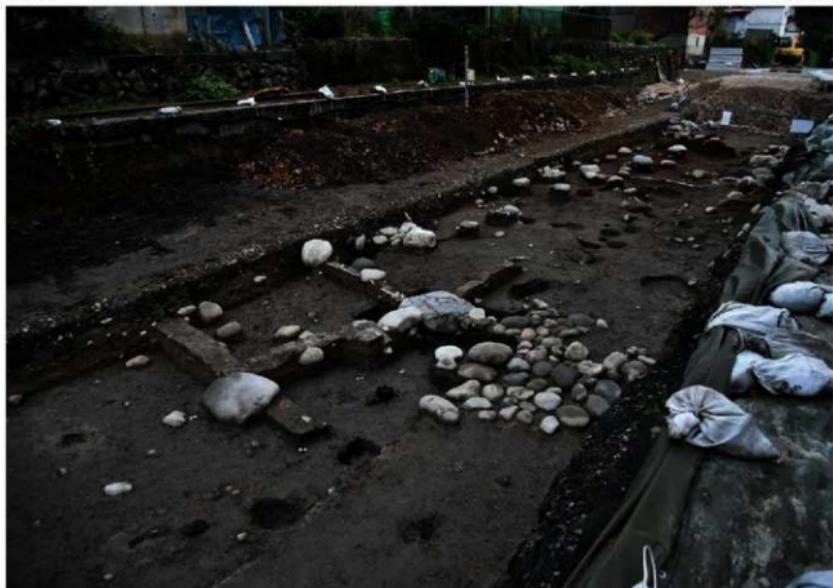


B区IV・V面 全景（南から）



B区IV・V面 全景（北西から）

B区 II面壁石とIV面敷石列（道状造構）の整地状況（北西から）  
壁石 04・05 SX72B区IV面 敷石列の道状造構（南西から）  
SX72B区IV面 大型壁石建物と石置状の敷石造構（西から）  
壁石 16・17・35 SX71



B区IV面 大型礎石建物の礎石列と敷石造構（北西から）  
SB02（礎石 16・17・35） SX71



B区IV面 大型礎石建物の北側礎石（西から）  
SB02- 種石 16（上面が赤く焼けている）



B区IV面 大型礎石建物の南側礎石（西から）  
SB02- 種石 17（上面が赤く焼けている）



B区 IV面礎石建物とV面の大型土坑（北西から）  
SB01 SK19



B区 V面 古代のカカラケが出土した大型土坑（東から）  
SK19



C区0・I面 全景（南から）



C区0面 全景（北西から）

C区0面 中世のカワラケが出土した土坑（東から）  
SK04C区0面 土坑上面から出土した中世のカワラケ（東から）  
SK04C区0面 大型の焼けた石を検出した土坑（東から）  
SK05

図版 12



C区 I面 全景（南東から）

C区道構 2



C区 I面 集石状造構（北東から）  
SX20



C区 I・II面 石列と大型の河原石を用いた石組みの土坑（北から）  
SX43



C区 I・II面 石列 01（南東から）



C区 II面 遠景（南東から）



C区 II面 大型礫群検出状況（北西から）



C区 II面 全景（南西から）

C区 II面 炭層が検出された穴（東から）  
P32C区 II面 古代のカワラケが多く出土した落ち込み（北西から）  
SX37C区 II面 落ち込みから出土した古代のカワラケ底部（北から）  
SX37

図版 14



C区 まとまって出土した古代のカワラケ底部（南西から）  
II面包含層1（SX23-c の下）

C区 出土遺物



II面ベース 土師器皿  
(カワラケ)



II面ベース 土師器皿  
(カワラケ)



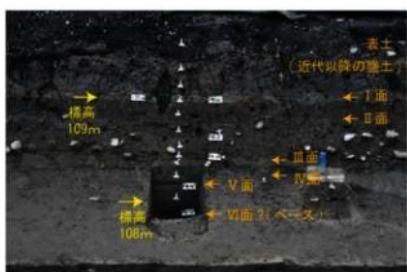
II面包含層3 内黒土師器塊



II面 SX37 須恵器（双耳瓶）



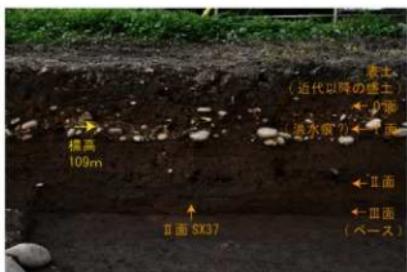
C区III面 全景（北から）



B区I～V面(VI面?) 壁断面 土層の堆積状況（東から）



白山本宮旧社地と古宮遺跡調査区の位置（北東から）



C区I～III面壁断面 土層の堆積状況（東から）



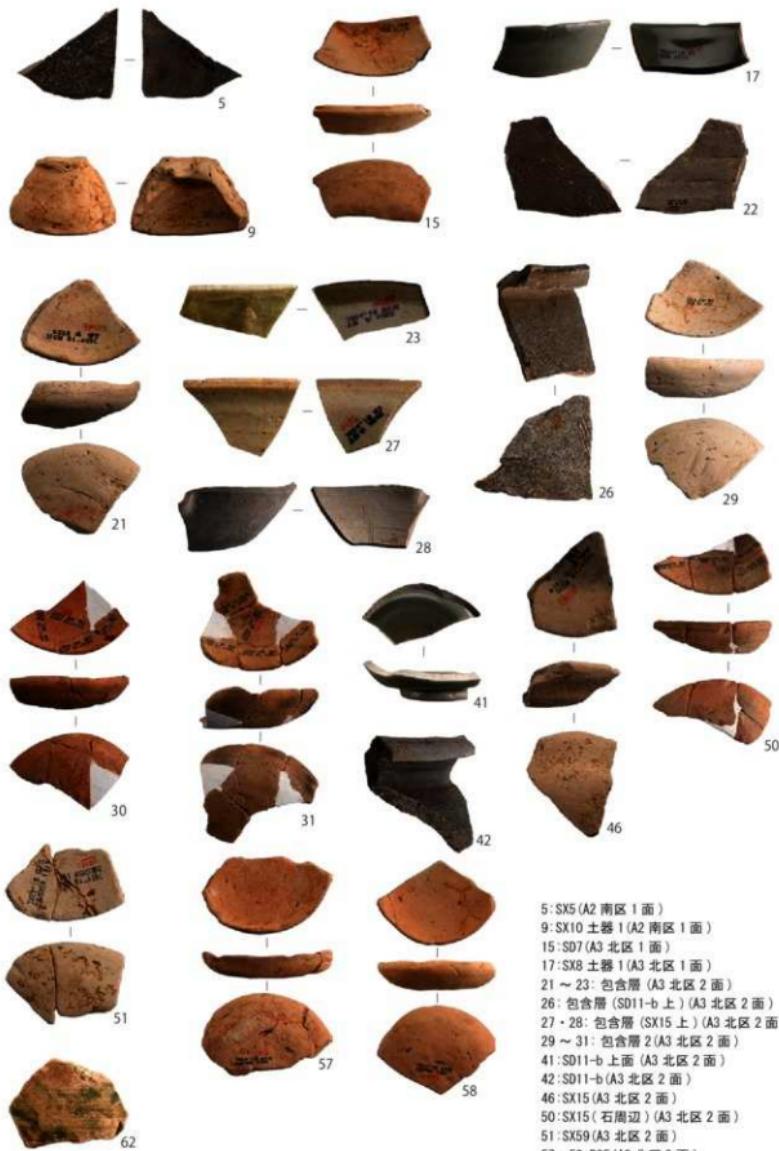
白山比咩神社（白山本宮）旧社地「安久瀬之森」乙図

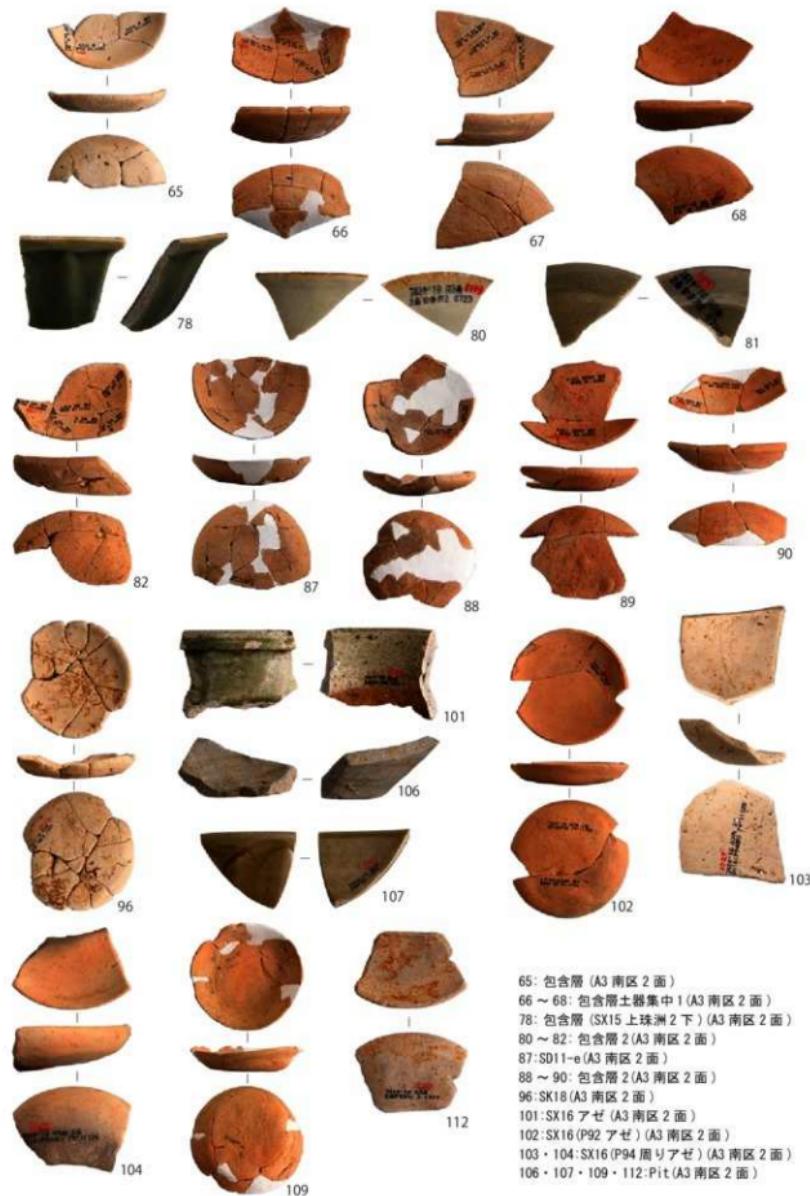
金鏡宮提供



白山比咩神社（白山本宮）旧社地「安久瀬之森」甲図

金鏡宮提供







125 · 126 · 128 · 129: 包含层 (A4 北区 2 面)  
133 · 135 · 136: S032 (A4 北区 2 面)

142 · 143: SX13 西 (A4 北区 2 面)  
144: SX13 東 (A4 北区 2 面)

145 · 146 · 150 ~ 152: SX13 (A4 北区 2 面)  
155 ~ 157 · 159 · 162 · 164 · 165: SX13 (A4 北区 2 面)



169 ~ 171・175 ~ 177:SX13(A4 北区 2面)

181:SX13-a(A4 北区 2面)

187・188:SX13 最下層(A4 北区 2面)

190:SX61(A4 北区 2面)

193 ~ 195・199:Pit(A4 北区 2面)

200:ベース(A4 北区 2面)

203:ベース(SX61 東側)(A4 北区 2面)

204:包含層(A4 南区 2面)

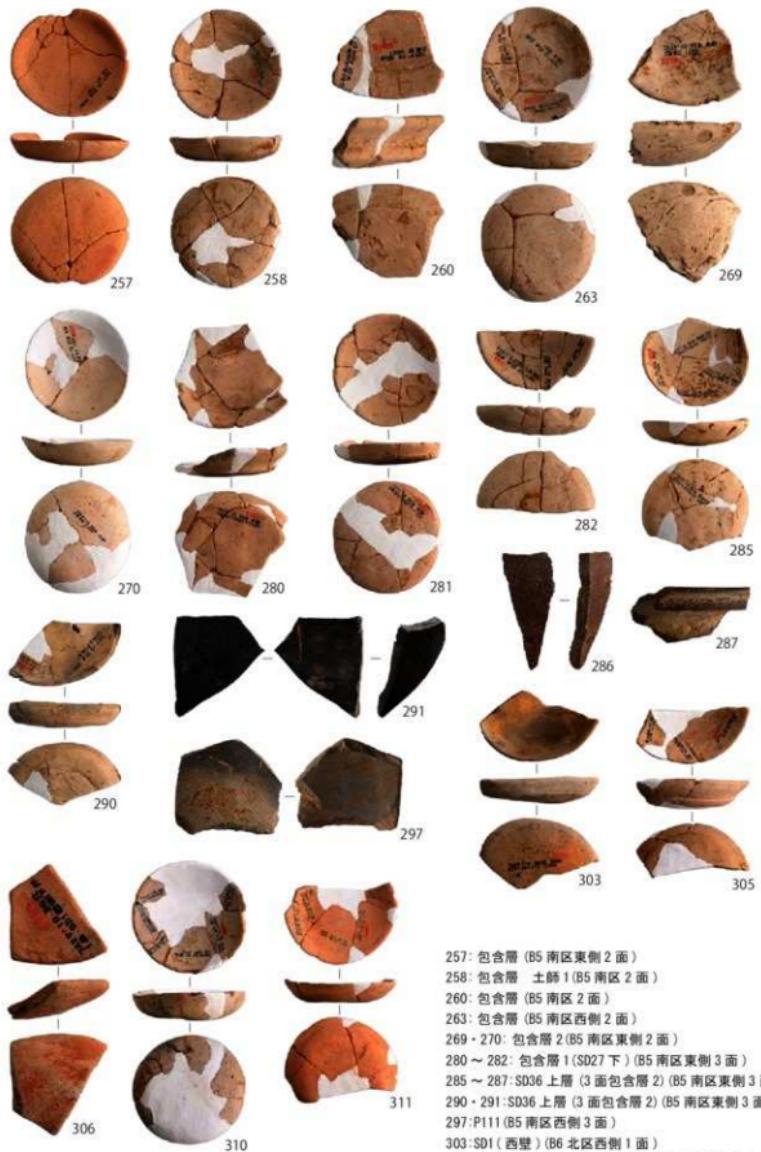
210:包含層2(A4 南区西側 2面)



石 1: 包含層 (A3 北区 2面)  
 石 2: 包含層 (A3 北区 2面)  
 石 3: 條出面 (A4 南区 2面)  
 石 4: 包含層 (A4 南区 3面)  
 金 5: 壁立て (A4 区西側 1面)  
 石 2: 包含層 (A3 北区 2面)  
 石 4: 包含層 (A4 南区 3面)  
 金 5: ベース (SX13 周り) (A4 北区 2面)



220: SD2-a 下層 (B5 北区 1面)  
 225: 包含層 (B5 北区西側 2面)  
 226・227: 包含層 I (B5 北区東側 2面)  
 233: 包含層 I (B5 北区中央 3面)  
 235: SD1-a (B5 南区 1面)  
 236: SD1-a 西 (B5 南区西側 1面)  
 238～241: SD2-a (B5 南区 1面)  
 245: SD2-a 下層 (B5 南区東側 1面)  
 246: SD2-a 底 (B5 南区西側 1面)  
 251・252: SD2-a 底 (集石)  
 (南側石列下含心) (B5 南区東側 1面)





312: SD1 下層 (B6 北区西侧 1面)

335: 包含層 1 (B6 南区西側 2面)

343: 包含層 1 (B6 南区東側 3面)

347: ベース (B6 南区西侧 3面)

350: 包含層 1 (B6 南区東側 4面)

351: 包含層 1 (B6 南区東側 4面)

377: ベース (上層) (B7 北区東側 3面)

391: 造模突出 (B7 南区西侧 1面)

400・401: 包含層 1 (B7 南区西侧 2面)

419: SK13 (B7 南区西侧 2面)

420・421: SX46 (B7 南区 2面)

435: 包含層 2 (B7 南区東側 3面)

439・440: SX64 (B7 南区 3面)

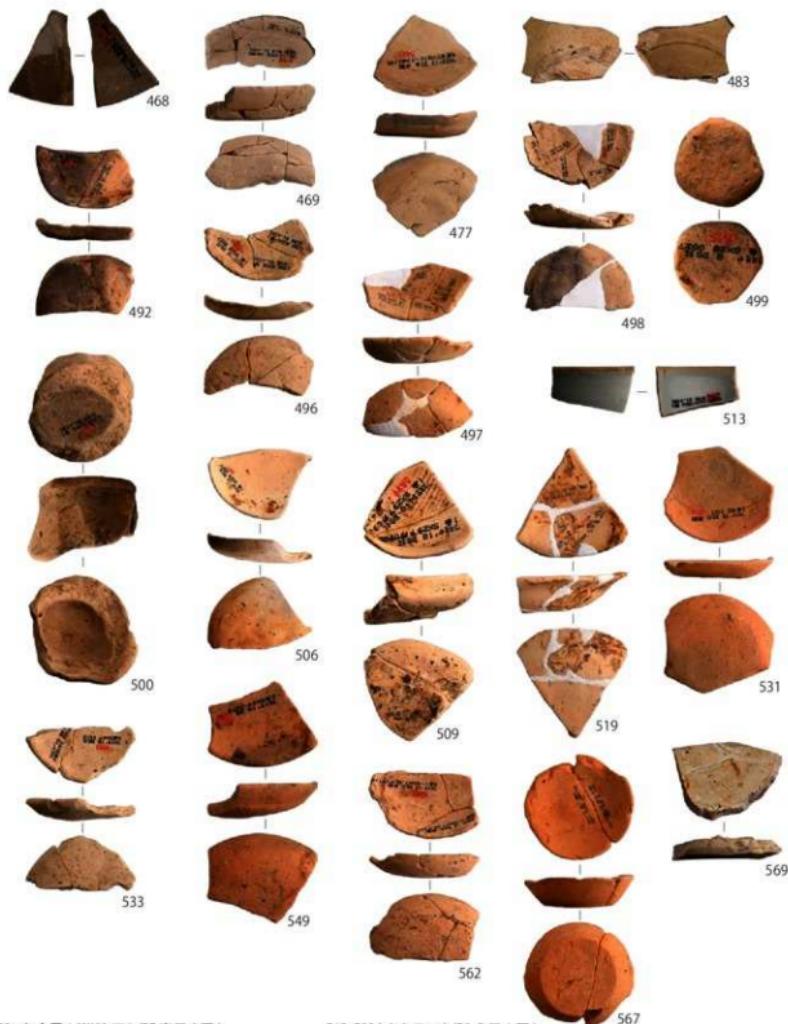
451・452: SX67 (B7 南区 3面)

458: SX68 (B7 南区東側 3面)

459: SX70 (B7 南区東側 3面)

462: ベース (礎石 17 南側アゼ) (B7 南区東側 3面)

465: 包含層 1 (SX46 西側周辺) (B7 南区東側 4面)



468: 包含層1(SX68下)(B7南区4面)

513:P26(カクラン)(B8北区1面)

469: 包含層1(SX68下)(B7南区東側4面)

519: 包含層1(B8北区西側2面)

477: 包含層1(礎石16~17アゼ)(B7南区東側4面)

531: 包含層2(B8北区西側2面)

483: 包含層1(礎石17南西側)(B7南区東側4面)

533: SX47(B8北区2面)

492: SK9石下(B8北区1面)

549: SX49(B8北・南区2面)

496~500: SX28(B8北区1面)

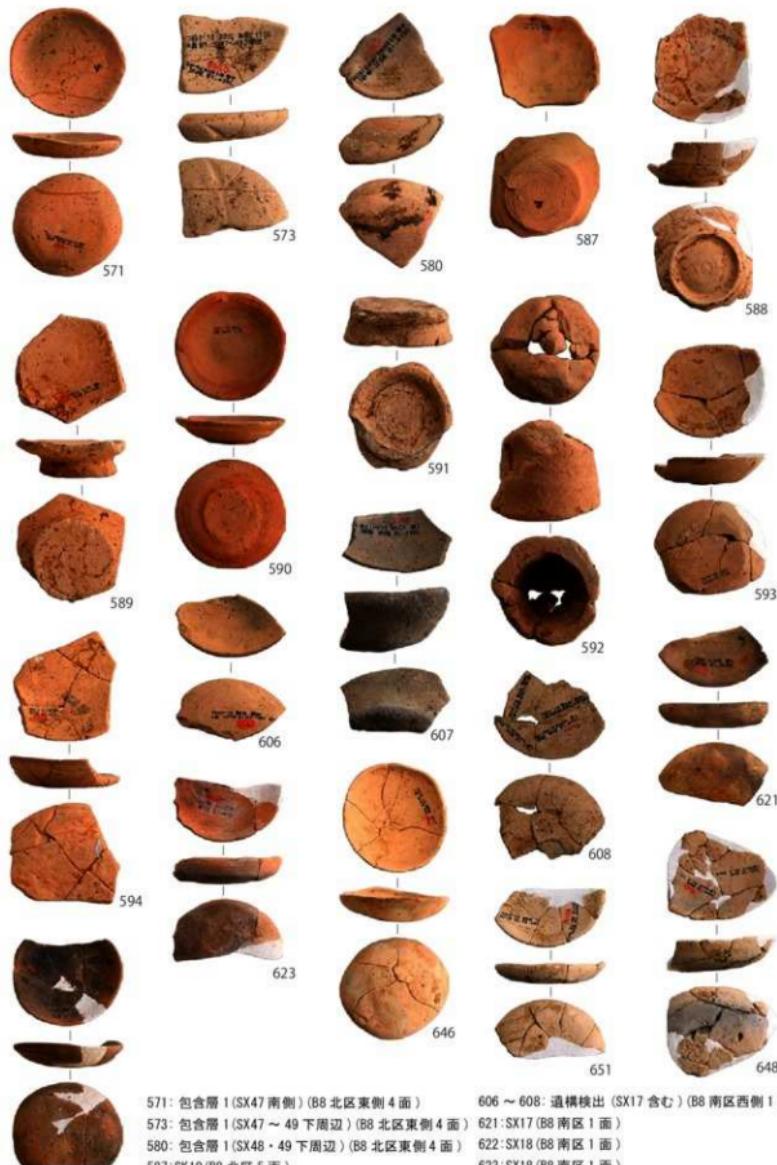
562: ベース(SX47・48間)(B8北区東側3面)

506: SX29(B8北区1面)

567: ベース(SX55北側)(B8北区北西側3面)

509: SX29下層(B8北区1面)

569: 包含層1(B8北区東側4面)



571: 包含层1(SX47南侧)(B8北区东侧4面)

573: 包含层1(SX47~49下周边)(B8北区东侧4面)

580: 包含层1(SX48~49下周边)(B8北区东侧4面)

587: SK19(B8北区5面)

588~594: SK19(B8北区5面)

606~608: 遗横梭出(SX17含石)(B8南区西侧1面)

621: SX17(B8南区1面)

622: SX18(B8南区1面)

623: SX18(B8南区1面)

646~648~651: SX18(B8南区1面)





772: 包含層1(礎石1東側下)(B8南区東側4面)

773: 包含層1(礎石1~3アゼ)(B8南区東側4面)

775~780: 包含層1(礎石1~3周辺)(B8南区4面)

776: 包含層1(礎石7~10北側下)(B8南区東側4面)

777: 包含層1(礎石7~10北側下)(B8北区西側1面)

806: 検出面精査(B9北区1面)

807: 検出面精査(B9北区1面)

815: 遺構検出(カクラン)(B9北区西側1面)

816: 検出面精査(B9北区1面)

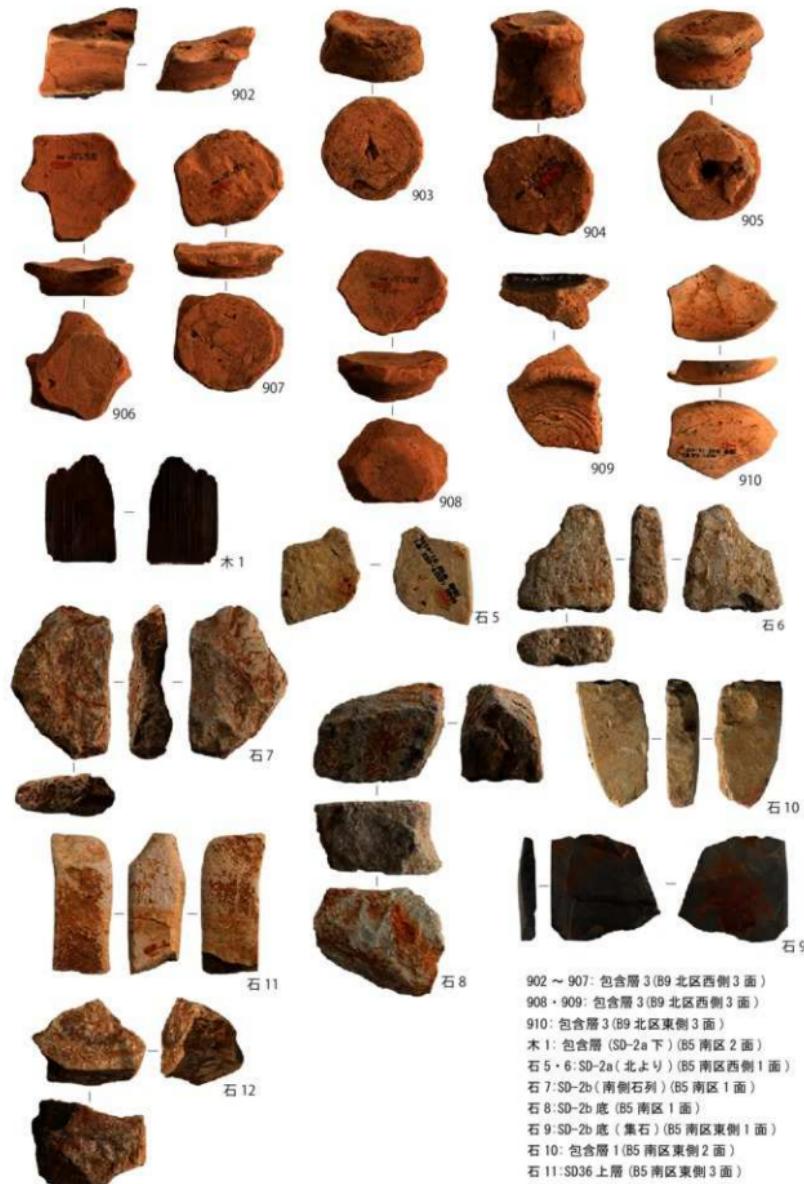
830~831: 包含層1(B9北区西側2面)

845: 包含層1(B9北区3面)

846~848~871: 包含層1(B9北区西側3面)

847~872: 包含層1(B9北区東側3面)

881~882: 包含層2(B9北区東側3面)



902～907：包含层3(B9 北区西侧3面)

908～909：包含层3(B9 北区西侧3面)

910：包含层3(B9 北区东侧3面)

木 1：包含层(SD-2a下)(B5 南区2面)

石 5·6：SD-2a(北より)(B5 南区西侧1面)

石 7：SD-2b(南側石列)(B5 南区1面)

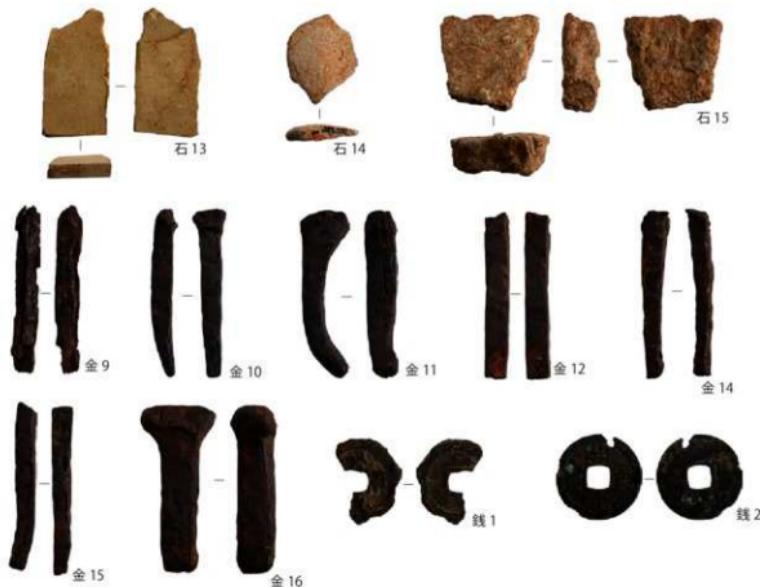
石 8：SD-2b底(集石)(B5 南区东侧1面)

石 9：SD-2b底(集石)(B5 南区东侧1面)

石 10：包含层1(B5 南区东侧2面)

石 11：SD36上层(B5 南区东侧3面)

石 12：SK14(B6 北区2面)



石 13: ベース (B6 北区東側 2面)

石 14: 包含層1 (B8 北区西側 2面)

石 15: 包含層2 (B9 北区東側 3面)

金 9: SX29 (B8 北区 1面)

金 10: SX29 下 (サブトレ) (B8 北区 1面)

金 11: SX48 (B8 北区 2面)

金 12: SX18 (B8 南区 1面)

金 14: 包含層1 (B8 南区 2面)

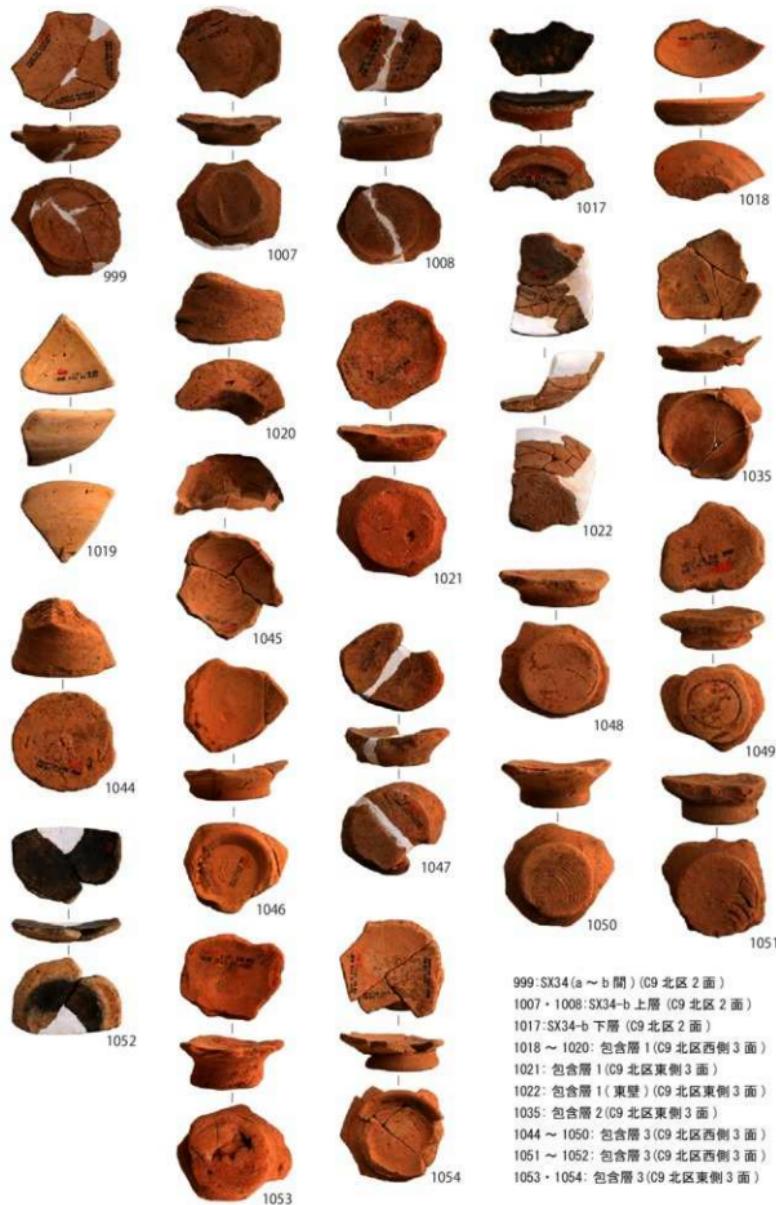
金 15: 包含層2 (B8 南区西側 2面)

金 16: 包含層1 (B8 南区西側 3面)

錢 1: 包含層2 (SX63 上) (B6 南区 3面)

錢 2: 包含層1 上面 (B7 南区 4面)







1055 ~ 1056: 包含层3(C9北区东侧3面)

1091: 遗模模出(C9南区西侧1面)

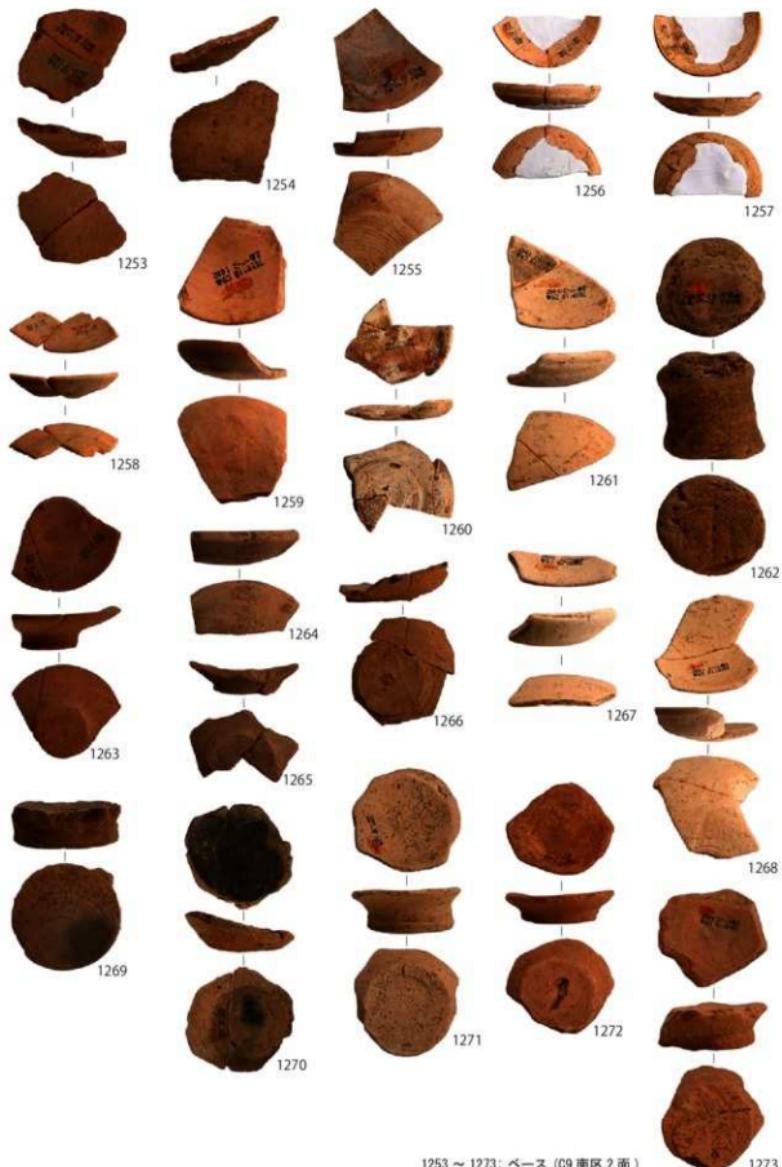
1098 ~ 1102: 包含层1(C9南区西侧2面)

1103 ~ 1107: 包含层1(C9南区西侧2面)

1108 ~ 1112: 包含层1(C9南区东侧2面)

1162 ~ 1163: 包含层1(集石1下)(C9南区2面)





1253 ~ 1273: ベース (C9 南区 2面)

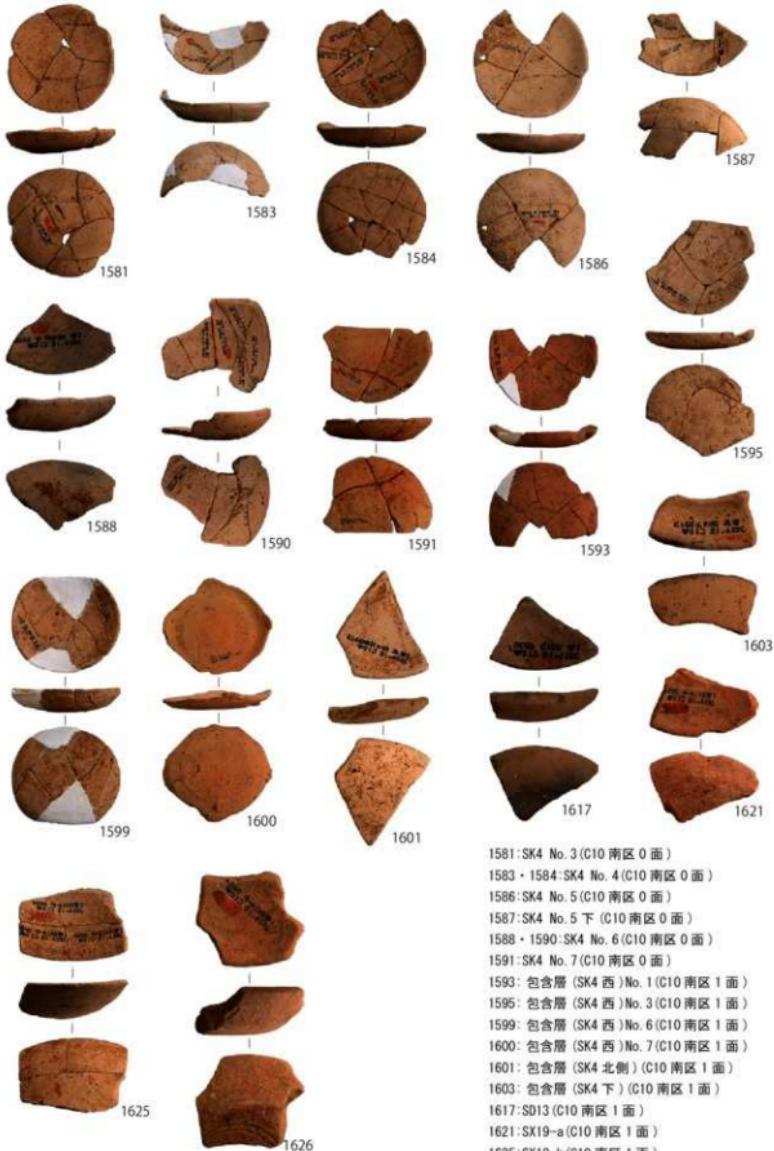
1253

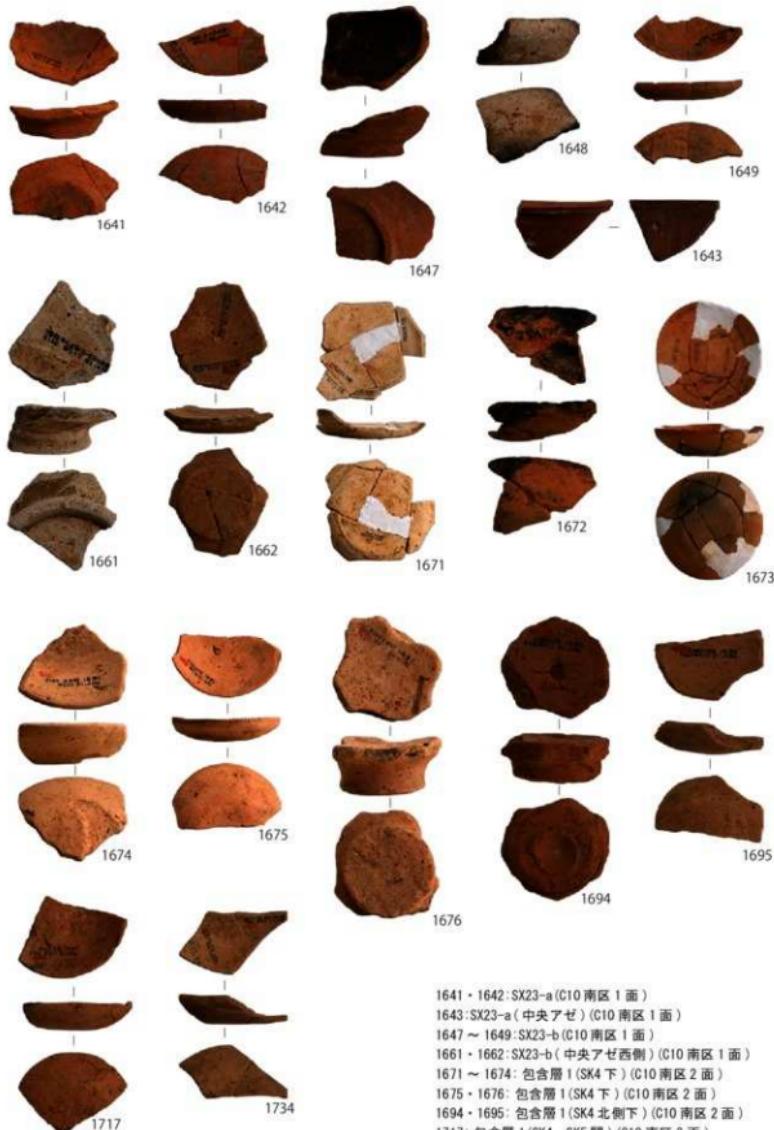












1641・1642: SX23-a (C10 南区 1面)  
 1643: SX23-a (中央アゼ) (C10 南区 1面)  
 1647～1649: SX23-b (中央アゼ西侧) (C10 南区 1面)  
 1661・1662: SX23-b (中央アゼ西侧) (C10 南区 1面)  
 1671～1674: 包含層 1 (SK4 下) (C10 南区 2面)  
 1675・1676: 包含層 1 (SK4 下) (C10 南区 2面)  
 1694・1695: 包含層 1 (SK4 北側下) (C10 南区 2面)  
 1717: 包含層 1 (SK4・SK5 間) (C10 南区 2面)  
 1734: 包含層 1 (SK4・SK5 間下) (C10 南区 2面)





1808～1810：包含層2(SK4・SK5間下)  
(C10南区2面)

1852～1854：SK37-d(C10南区2面)

1878：SX45-b(C10南区2面)

1881・1882：SX45-b(中央アゼ)(C10南区2面)

1889：壁たて(SK5含む)(C11北区西側0面)

1896・1897：SK5(C11北区0面)

1900～1902：P11(C11北区0面)

1907：包含層(SK5南側)(C11北区1面)

1913・1914：SK6(C11北区1面)



## 白山市 古宮遺跡

発行日 令和4(2022)年3月22日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

電話 076-225-1842 (文化財課)

公益財団法人石川県埋蔵文化財センター

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

電話 076-229-4477

E-mail daihyou@ishikawa-maibun.or.jp

印 刷 ソノダ印刷株式会社